令和四年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

令和六年三月

広島県教育委員会

令和４年度

広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

令和6（2024）年3月

広 島 県 教 育 委 員 会

例　　言

1　本書は、広島県教育委員会が令和４年度に国庫補助を受けて実施した県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）事業に係る成果の報告書である。

2　本事業は、道路建設・住宅建設・農業基盤整備等、今後急速に開発が進展すると予想される地域及び既に開発計画が立案されている地域について、遺跡の分布調査（現地踏査及び試掘・確認調査）を行い、保存対策に資する目的で実施したものである。

　具体的には、①市町文化財部局が単独で対応することが困難な業務（大規模又は広域事業・重要遺跡の取扱いなど）への対応と、②専門職員未配置の市町文化財部局に対する指導・助言・援助の観点から、各開発事業者等あるいは市町文化財部局からの協議に基づいて県内各地の開発計画地内の現地踏査や試掘・確認調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の有無、範囲、内容等の確認を行うとともに、保存方法に関する協議を行った。

3　また、過年度に国庫補助を受けて実施した分布調査の補遺や、発掘調査で検出された出土品について、その恒久保存を図るために実施した業務の成果についても「附編」として報告する。

4　第２、５～11、16 図の試掘坑位置図の基図は、各開発事業者から提供された地形図・工事平面図を使用した。なお、工事平面図については、原則として調査当時のものを使用しているため、図中の開発事業範囲や工事設計等は、その後変更されている場合がある。

5　本事業に係る現地調査から報告書作成に至る業務は、広島県教育委員会事務局管理部文化財課が行った。なお、附編２に係る業務は（公財）広島県教育事業団に委託して実施した。

　担当者は次のとおりである。

現地調査・所見作成（令和４年度）		昇　耕司（埋蔵文化財係長）、沖　憲明（主査）、森本直人（主任）
資料整理	（令和４・５年度）	沖　憲明、森本直人
附編作成	（令和４・５年度）	沖　憲明 渡邊昭人（〔公財〕広島県教育事業団事務局次長（兼）埋蔵文化財調査室長）

6　本書は、森本（第１章、第２章１・４）、沖・森本（第２章２）、沖（第２章３、附編１）、渡邊（附編２）が執筆し、森本が編集した。

7　調査の実施に当たっては、各開発事業者、地権者及び関係市町文化財部局等の協力を得た。

8　本書作成に係る資料類については、図面・写真類は広島県教育委員会事務局管理部文化財課（広島市中区基町９番 42 号）、出土遺物は広島県立埋蔵文化財センター（広島市西区観音新町四丁目８番 49 号）で保管している。

目　　次

第１章　事業の概要 ･･･ 1

第２章　試掘・確認調査の成果

1　都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘調査 ･････････････････････････････ 3

2　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る試掘調査 ･････････････････････････ 8

3　農業競争力強化基盤整備事業計画地内 令和元（2019）～令和３（2021）年度試掘調査における出土遺物について（補遺） ･･･ 37

4　一般県道瀬野呉線道路改良事業（要試掘地点 No.６）に係る試掘調査･････････････ 53

附編

1　広島県廿日市市針山地区採集遺物について－冠遺跡群発掘調査事業　補遺－ ･･････ 57

2　福原２号遺跡出土の指輪の元素分析 ･･･ 86

報告書抄録

挿 図 目 次

第１図　都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000） ･････････････････ 3

第２図　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 試掘坑位置図（1：1,000） ･････････････････････ 4

第３図　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 土層断面図（1：40） ･････････････････････････ 4

第４図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る試掘調査地点位置図（1:25,000） ･･････････････ 8

第５図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る埋蔵文化財包蔵地確認範囲（1:10,000） ･･････････ 9

第６図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ａ地点（1：2,000） ･･････････････････ 14

第７図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｂ地点（1：2,000） ･･････････････････ 14

第８図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｃ地点（1：2,000） ･･････････････････ 15

第９図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｄ地点（1：2,000） ･･････････････････ 15

第 10 図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｅ地点（1：2,000） ･･････････････････ 16

第 11 図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｆ地点（1：2,000） ･･････････････････ 16

第 12 図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地土層断面図１（1：40） ･･････････････････ 23

第 13 図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地60Ｔ－２平面図（1：50） ･･････････････････ 23

第 14 図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地土層断面図２（1：40） ･･････････････････ 24

第 15 図　一般県道瀬野呉線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000） ･･････････････････ 53

第 16 図　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地 試掘坑位置図（1：1,000） ･･････････････････････ 54

第 17 図　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地 土層断面図（1：40） ･･････････････････････････ 54

第 18 図　各遺跡位置図（1：25,000） ･･････････････････ 58

第 19 図　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物１（４のみ１：１、その他２：３） ･･････････････ 60

第 20 図　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物２（２：３） ･･････ 61

第 21 図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物１（11 のみ１：１、その他２：３） ･･････････････ 63

第 22 図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物２（２：３） ･･････ 65

第23図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物３（２：３）……　66
第24図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物４（２：３）……　67
第25図　お鉢山遺跡Ｄ地点採集遺物（34～39、２：３）
　　　　お鉢山遺跡Ｅ地点採集遺物（40～41、１：１）・　69
第26図　大河遺跡採集遺物（１：１）……………　70
第27図　定性分析チャート（表面）………………　89
第28図　定性分析チャート（欠損部）……………　89
第29図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果（表面：Ｖ000）　94
第30図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（表面付近：Ｖ005-002）…………………　95
第31図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（表面付近：Ｖ005-003）…………………　96
第32図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（欠損部：Ｖ000-002）……………………　97
第33図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（欠損部：Ｖ002）…………………………　98
第34図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（欠損部：Ｖ005-003）……………………　99
第35図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（光沢部：Ｖ006-008）……………………　100
第36図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（光沢部：Ｖ000-001）……………………　101
第37図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（光沢部付近：Ｖ000-004）………………　102
第38図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（光沢部付近：Ｖ005-006）………………　103
第39図　エネルギー分散型Ｘ線分析結果
　　　　（光沢部付近：Ｖ005-007）………………　104

表　目　次

表１　令和４年度に確認した埋蔵文化財包蔵地………　1
表２　令和４年度に実施した現地踏査等の概要………　1
表３　令和４年度に実施した試掘調査等の概要………　2
表４　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地試掘坑所見　5
表５　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地内令和
　　　４年度試掘調査 遺物出土地・観察所見………　13
表６　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘坑
　　　所見……………………………………　17～22
表７　農業競争力強化基盤整備事業（北工区）計画地内令和元年度試
　　　掘調査 遺物出土地・層位及び出土遺物一覧…………　39
表８　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地内令和２・３年
　　　度試掘調査 遺物出土地・層位及び出土遺物一覧………　40
表９　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地試掘坑所見・・　55
表10　お鉢山遺跡各地点の礫面を残す遺物の割合……　73
表11　蛍光Ｘ線分析により「飯山群」と判断された遺物の確
　　　認された遺跡一覧…………………………　73
表12　お鉢山遺跡、大河遺跡採集品台帳…………　75～78
表13　蛍光Ｘ線分析の結果一覧表…………………　88
表14　エネルギー分散型Ｘ線分析の結果一覧表………　88
表15　ピーク同定結果（表面）……………………　90
表16　ピーク同定結果（欠損部）…………………　91
表17　ＳＱＸ分析結果（表面）……………………　92
表18　ＳＱＸ分析結果（欠損部）…………………　93

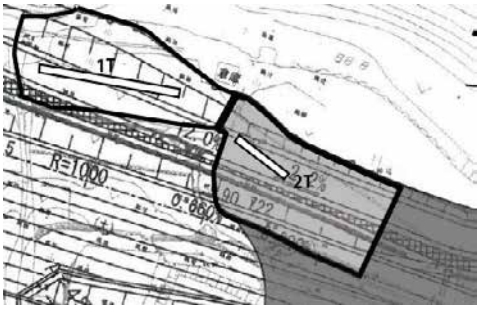
写 真 目 次

写真１　石質分類………………………………………………………………　59
写真２　風化度分類……………………………………………………………　59
写真３　指輪……………………………………………………………………　86

図 版 目 次

図版１　a　14Ｔ(南東から)　b　14Ｔ北壁(南から)
　　c　14Ｔ西壁(東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
図版２　a　15Ｔ(南西から)　b　15Ｔ東壁(西から)
　　c　調査前全景(北東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
図版３　a　50Ｔ(西から)　b　51Ｔ(南東から)
　　c　52Ｔ(南西から)　d　53Ｔ(北から)・・・・・・・・・　25
図版４　a　54Ｔ(北から)　b　55Ｔ(北から)
　　c　56Ｔ(北から)　d　57Ｔ(北から)　・・・・・・・・　26
図版５　a　58Ｔ(北から)　b　59Ｔ(西から)
　　c　Ｆ地点北部(南東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
図版６　a　60Ｔ－１(西から)　b　60Ｔ－１東端土層(西から)
　　c　60Ｔ－１西端土層　耕作跡(東から)・・・・・・・・・　28
図版７　a　60Ｔ－２(西から)　b　60Ｔ－２東端土層(西から)
　　c　60Ｔ－２遺構検出状況(西から)　・・・・・・・・・・　29
図版８　a　61Ｔ－１(西から)　b　61Ｔ－２(西から)
　　c　61Ｔ－３(西から)　d　62Ｔ(西から)・・・・・・・・・・・　30
図版９　a　64Ｔ(北から)　b　65Ｔ(北から)
　　c　66Ｔ(南東から)　d　67Ｔ(南東から)・・・・・・・　31
図版 10　a　60Ｔ－１出土遺物(須恵器・金属滓)
　　b　60Ｔ－１出土遺物(土師器　底部)・・・・・・・・・・・　32
図版 11　a　61Ｔ－１出土遺物(土師器　口縁部その他)
　　b　60Ｔ－２出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
図版 12　a　60Ｔ－１出土遺物(上９点)、61Ｔ－２出土遺物
　　(下７点)　b　61Ｔ－３出土遺物・・・・・・・・・・・・　34
図版 13　a　62Ｔ出土遺物(須恵器、土師器口縁部・底部)、
　　62Ｔ出土遺物(土師器その他)・・・・・・・・・・・・・・・　35
図版 14　a　58Ｔ出土遺物　b　65Ｔ出土遺物(上２点)、66Ｔ出土遺
　　物(中５点)、67Ｔ出土遺物(下５点)・・・・・・・・・・・・　36
図版 15　a　令和元年度試掘調査出土遺物
　　b　令和元年度試掘調査出土遺物
　　c　令和元年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・・　41
図版 16　a　令和元年度試掘調査出土遺物
　　b　令和元年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　42
図版 17　a　令和元年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　43
図版 18　a　令和２年度試掘調査出土遺物
　　b　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　44
図版 19　a　令和２年度試掘調査出土遺物
　　b　令和２年度試掘調査出土遺物
　　c　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　45
図版 20　a　令和２年度試掘調査出土遺物
　　b　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　46
図版 21　　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　47
図版 22　　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　48
図版 23　a　令和２年度試掘調査出土遺物
　　b　令和２年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　49
図版 24　　令和３年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　50
図版 25　　令和３年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　51
図版 26　a　令和３年度試掘調査出土遺物
　　b　令和３年度試掘調査出土遺物・・・・・・・・・・・・・　52
図版 27　a　１Ｔ(北西から)　b　２Ｔ(北から)
　　c　３Ｔ(東から)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56
図版 28　　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物・・・・・・・・・・・・・・・　79
図版 29　a　お鉢山遺跡B地点採集遺物
　　b　お鉢山遺跡C地点採集遺物１・・・・・・・・・・・・・・・・　80
図版 30　　お鉢山遺跡C地点採集遺物２・・・・・・・・・・・・・・・　81
図版 31　a　お鉢山遺跡C地点採集遺物３
　　b　お鉢山遺跡C地点採集遺物４・・・・・・・・・・・・・・・・　82
図版 32　　お鉢山遺跡C地点採集遺物５・・・・・・・・・・・・・・・　83
図版 33　　お鉢山遺跡D地点採集遺物・・・・・・・・・・・・・・・・　84
図版 34　a　お鉢山遺跡Ｅ地点採集遺物
　　b　大河遺跡採集遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　85

試掘坑位置図凡例



白塗り	試掘坑
	試掘調査により確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲
	既周知の埋蔵文化財包蔵地
	試掘調査の結果埋蔵文化財包蔵地ではないと確認した範囲

第１章　事業の概要

１　令和４年度に実施した分布調査の概要について

道路建設等の各種開発事業に先立つ現地踏査や現地協議等は、表２に掲げた 34 件である。

また、試掘・確認調査は、表３に掲げた３事業８地点、合計 39,975 ㎡である。

これらの分布調査及び試掘・確認調査の結果、表１に掲げた埋蔵文化財包蔵地を確認した。試掘・確認調査の内容や確認した埋蔵文化財包蔵地の範囲等の詳細については、次章に記載する。

表１　令和４年度に確認した埋蔵文化財包蔵地

遺跡名	市町名	時代	種類	面積（㎡）	確認方法	開発事業種類	備考
高屋堀２号遺跡	東広島市	中世	集落跡	2,700	試掘調査	農業基盤整備事業	新規発見

表２　令和４年度に実施した現地踏査等の概要

№.	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
1	福山市 ・府中市	道路	国土交通省 広島県	4/6	沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
2	神石高原町	電気	民間企業	4/18	森本直人	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
3	東広島市	道路	広島県	5/26	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
4	神石高原町	新規発見遺跡の真偽確認	－	6/16	森本直人	専門職員未配置市町の現地踏査を支援
5	福山市	道路	国土交通省	6/22	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
6	東広島市	道路	国土交通省	6/27	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
7	世羅町	道路	広島県	8/1	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
8	東広島市	道路	広島県	8/8	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査事前準備）
9	江田島市	農業基盤整備事業	広島県	8/10	森本直人	専門職員未配置市町における開発事業対応（現地踏査）を支援
10	東広島市	道路	広島県	8/30	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
11	福山市	道路	国土交通省	10/5	舟　耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
12	福山市	道路	広島県	10/11	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
13	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	10/14	沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査事前準備）
14	福山市	港湾	広島県	10/18	舟　耕司 沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
15	世羅町	道路	広島県	10/19	舟　耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
16	東広島市	道路	国土交通省	10/20	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）

No.	調査地	調査原因	原因者	調査期間	担当者名	用務内容
17	広島市	その他建物	広島県	10/24	昇　耕司 沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
18	福山市	港湾	広島県	11/4	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
19	海田町	道路	広島県	11/7	昇　耕司 沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（協議）
20	福山市	港湾	広島県	11/9	沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
21	福山市	港湾	広島県	11/11	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
22	福山市	港湾	広島県	11/17	昇　耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
23	竹原市	道路	広島県	11/21	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
24	福山市	道路	広島県	11/24	昇　耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
25	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	12/13	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査事前準備）
26	安芸高田市	河川	広島県	1/12	昇　耕司 沖　憲明	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
27	福山市	道路	広島県	1/12	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
28	熊野町	個人住宅	民間企業	1/16	昇　耕司 沖　憲明	専門職員未配置市町における開発事業対応（工事立会）を支援
29	東広島市	道路	国土交通省	1/19	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
30	安芸高田市	河川	広島県	1/31	昇　耕司 沖　憲明 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
31	熊野町	道路	広島県	2/2	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査事前準備）
32	福山市	港湾	広島県	2/14	昇　耕司 森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（試掘調査事前準備）
33	東広島市	道路	国土交通省	2/20	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）
34	福山市	港湾	広島県	3/8	森本直人	大規模開発事業計画地内の埋蔵文化財取扱い協議（現地協議）

表３　令和４年度に実施した試掘調査等の概要

No.	用務地	調査原因	原因者	調査対象面積	調査期間	担当者名	用務内容
1	東広島市	道路	広島県	2,460 ㎡	8/18	森本直人	１地点の試掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。
2	東広島市	農業基盤整備事業	広島県	36,347 ㎡	12/19～12/26	沖　憲明 森本直人	６地点の試掘調査を実施し、１か所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。
3	熊野町	道路	広島県	1,168 ㎡	3/14～3/15	森本直人	１地点の試掘調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地は確認されなかった。
合計		３事業		39,975 ㎡			８地点の試掘調査を実施し、１か所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。

第２章　試掘・確認調査の成果

１　都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘調査

所　在　地：東広島市西条町寺家

調 査 目 的：都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲確認

開発事業者：広島県西部建設事務所

調査年月日：令和４年８月 18 日

調査対象面積：2,460 ㎡

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

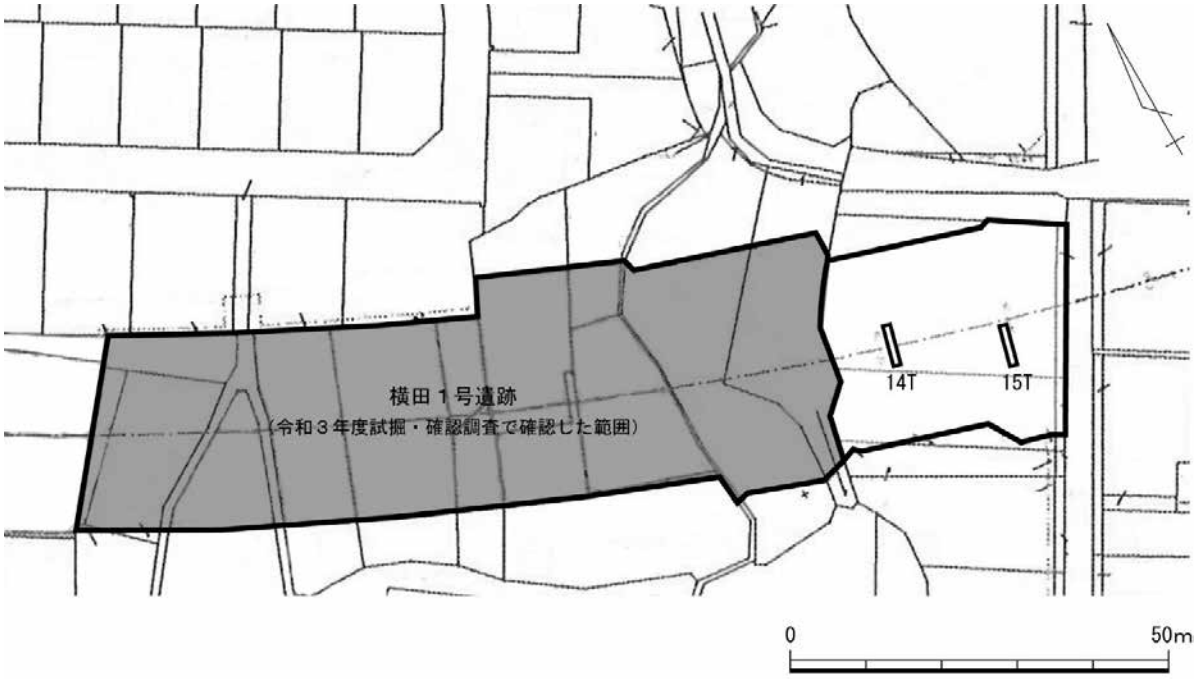
調 査 概 要：

当該開発事業計画地の試掘・確認調査は令和３年度から実施している。令和４年度は試掘坑を２か所設定し、令和３年度試掘坑番号からの連番で西から順番に 14Ｔ・15Ｔとした。試掘坑 14Ｔ・15Ｔは、令和３年度の試掘・確認調査によって確認した横田１号遺跡の東側に接する範囲であったが、遺構を確認できなかった。

14Ｔでは、地表下約 100 ㎝以下で、西から東へ下降する基盤層（６層）を確認した。１層が現代の造成土、２層が現代の旧表土、３・４層が中世～現代の自然堆積層、５層以下が中世以前の自然堆積層と考えられる。15Ｔでは、１層が現代の造成土、２・３層が中世～現代の自然堆積層、

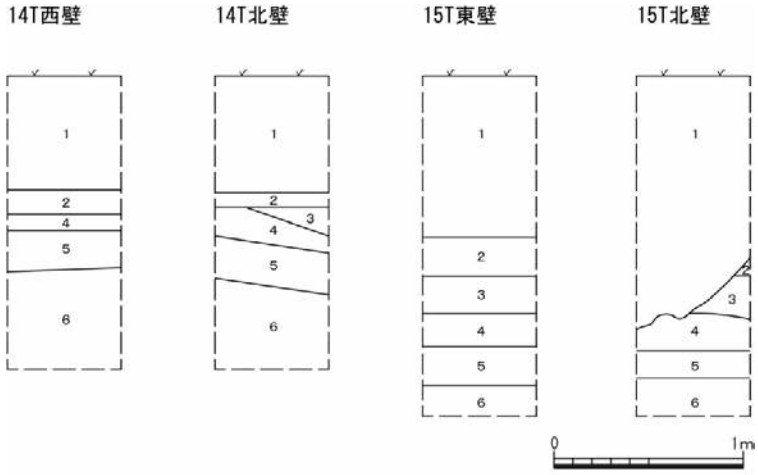
1 福原２号遺跡　2 福原南遺跡　3 横田１号遺跡　※本試掘調査に関連する遺跡のみ表示

第１図　都市計画道路吉行飯田線街路事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）
（国土地理院１：25,000地形図「安芸西条」図幅を使用）



第２図　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 試掘坑位置図（1：1,000）

４層以下が中世以前の自然堆積層と考えられる。３層で中世の土器片を数点検出したが、微細な破片であるため、横田１号遺跡が位置する西側丘陵からの流れ込みと判断した。地表下約 145 ㎝以下では水気を多く含んだシルト層（５層）及び砂層（６層）を検出し、湧水のため掘削を停止した。



第３図　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地 土層断面図（1：40）

今回の試掘調査範囲は、西側の横田１号遺跡の平坦地から約３ｍ低く、北から南へ延びる谷地形にあたる。試掘調査の結果、旧地形は西から東へ下降して谷の低位部にいたる斜面地であり、埋蔵文化財包蔵地ではないと判断した。

表４　都市計画道路吉行飯田線街路事業計画地試掘坑所見

トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ，単位m）	調査所見
14Ｔ	5.5×1.0×1.55	《西壁・北壁》 １層　現代の造成土 ２層　オリーブ黒(5Y3/1)粘性細砂　ビニール片あり　…現代の旧表土 ３層　暗灰黄(2.5Y5/2)（明黄褐〔10YR6/6〕混）粗砂 　　1～3cm 大の礫多含 ４層　灰オリーブ(5Y5/2)粗砂 ５層　灰(5Y6/1)砂 ６層　明黄褐(10YR6/8)粗砂　5cm 大の腐れ礫多含…基盤層 湧水のため、掘削停止
15Ｔ	5.5×1.0×1.80	≪東壁・北壁≫ １層　現代の造成土 ２層　灰(5Y5/1)（オリーブ〔5Y5/4〕混）細砂…14Ｔ３層相当 ３層　オリーブ黒(5Y3/1)粘性細砂　中世土器片（微細，2cm 以下）含む 　　…14Ｔ４層相当 ４層　灰オリーブ(5Y4/2)粘性細砂…14Ｔ５層相当 ５層　黒(N2/)粘性シルト ６層　暗灰黄(2.5Y4/2)砂 湧水のため、掘削停止

a　14T（南東から）

b　14T北壁（南から）

c　14T西壁（東から）

a　15Ｔ（南西から）

b　15Ｔ東壁（西から）

c　調査前全景（北東から）

２　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る試掘調査

所　在　地：東広島市高屋町高屋堀

調 査 目 的：農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る埋蔵文化財の有無及び範囲確認

開発事業者：広島県西部農林水産事務所

調査年月日：令和４年 12 月 19 日～12 月 22 日及び 12 月 26 日

調査対象面積：36,347 ㎡

調 査 結 果：次の埋蔵文化財包蔵地を確認した。

高屋堀２号遺跡（中世、集落跡、面積 2,700 ㎡、60Ｔ－１・２周辺）

調 査 概 要：

試掘調査の経過

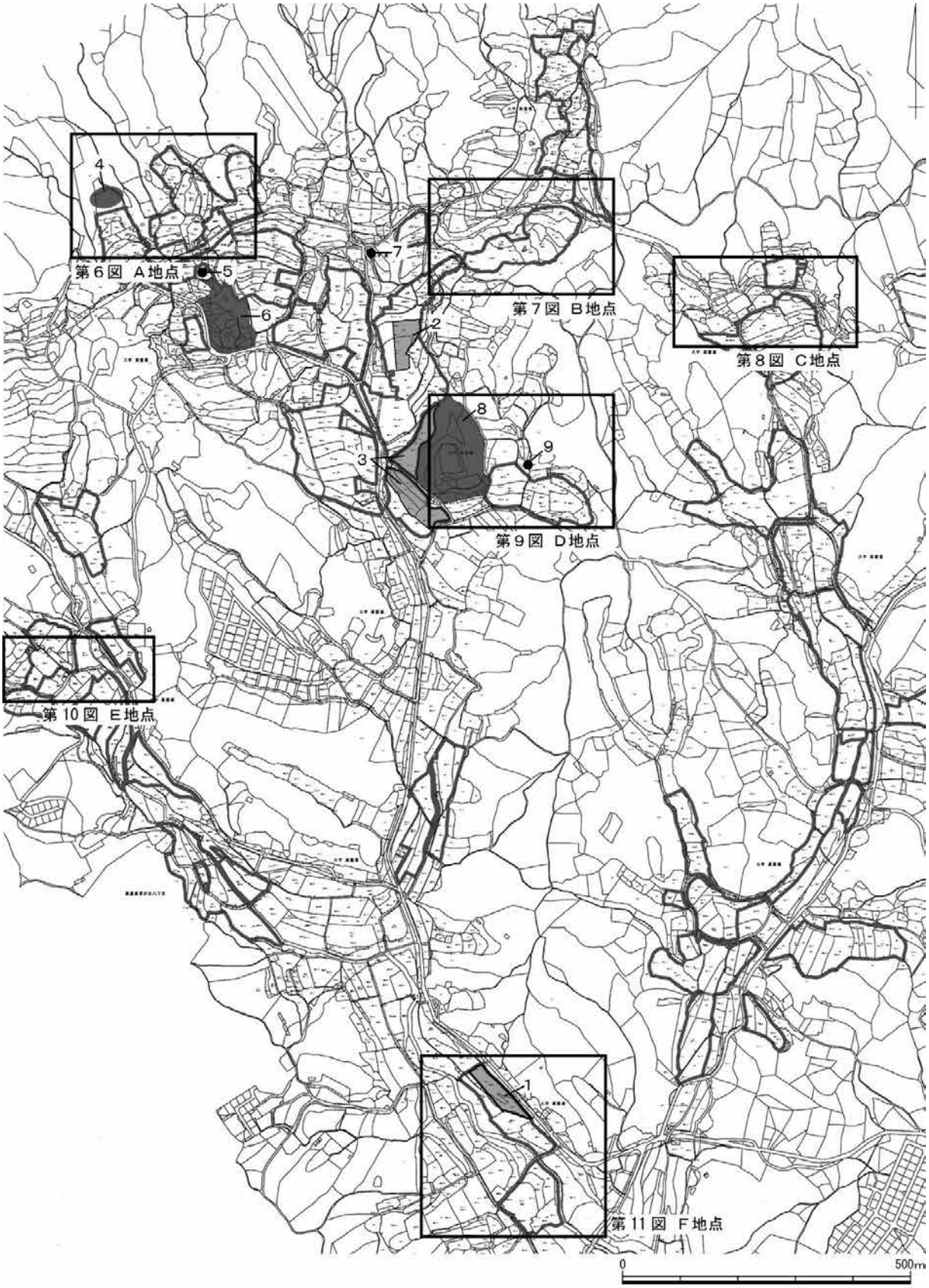
当該開発事業計画地については、平成 30 年度から順次、分布・試掘調査を実施してきた。令和４年度の試掘調査については、現地踏査の所見並びに現地を所管する東広島市教育委員会文化財保護部局との協議を経て、次の箇所を対象範囲とした。

① 周知の埋蔵文化財包蔵地あるいはそれに隣接する未調査地で、遺構等が存在する可能性がある場所（第５図Ａ・Ｄ・Ｆ地点）

② 周辺地域の周知の埋蔵文化財包蔵地と地形が類似し、遺跡が存在する可能性が考えられる場所（同　Ｂ・Ｃ・Ｅ・Ｆ地点）

各試掘対象範囲については便宜上、ＡからＦまでの地点名を付すとともに、各試掘坑には前年度からの続き番号（50Ｔ～67Ｔ）を付した。

第４図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）
（国土地理院１：25,000地形図「白市」図幅を使用）



1 高屋堀２号遺跡(令和４年度試掘調査で確認)　2 高屋堀１号遺跡(令和３年度試掘調査で確認)　3 御薗宇城跡(令和２・３年度試掘調査で確認)　4 西光寺跡
5 塔の岡古墳　6 明道寺跡、県史跡 平賀氏の墓地　7 枯花院古墳　8 県史跡 御薗宇城跡　9 円福寺跡古墓群　※4～9は既周知、本試掘調査に関連する遺跡のみ表示

第５図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る埋蔵文化財包蔵地確認範囲（1:10,000）

調査の方法

６地点で計 20 か所の試掘坑を、バックホウを使用して発掘した。各試掘坑とも耕作土と下層の土壌が混ざらないよう最初に耕作土を除去したのち、遺構や遺物等の有無を確認しながら基盤層（湧水の場合は、発掘可能な深度）まで掘り下げた。発掘後は直ちに記録作業を行ったのち、締固めを行いながら下層の埋め戻しを行い、最後に耕作土の敷き均しなど、進入路も含め現状復旧を行って次の試掘坑の場所に移動を繰り返した。

試掘調査は職員２名が分担して行った。特にＦ地点では同時並行で実施したことから、記録の混乱を避けるため事前に割り振った試掘坑番号を踏襲しており、枝番が付された試掘坑（「○Ｔ－１」など）や欠番（63Ｔ）が存在する。

層序

Ａ～Ｅ地点は、昨年度の試掘調査と同じ基本層序を踏襲する。

Ⅰ層…水田耕作土、床土、近世以降のほ場整備に伴う整地土

Ⅱ層…黒色ないし黒褐色のシルト。今年度試掘範囲に部分的に認められる。現在の水田耕作土、水田造成時整地層の直下に認められ、近世以前の遺物を包含する上、下面は水平堆積でなく元の自然地形の表層を覆うように堆積していることから、水田の本格的開発が進む前に形成された表土（腐植土）あるいはその再堆積層の可能性が高い。

Ⅲ層…自然堆積層（花崗岩風化分解土等の水成・風成堆積物）

Ⅳ層…基盤層（花崗岩風化岩盤）

Ｆ地点については、他の試掘調査地点より堆積が厚く、遺物包含層を含めて土層の細分が可能であったため、次のとおり基本層所を設定した。

Ⅰ層…水田耕作土（近代以降のほ場整備に伴う整地土も含む）。

Ⅱ層…灰色味を帯びた、砂を多く含むシルト。層理の方向は下層の傾斜と概ね並行し、褐色味の強い土壌などの葉理が認められる場所もある。中世の土器等の遺物を包含するが、平面・垂直分布にまとまりがなく表面の摩滅した細片が目立つことから、土壌・遺物ともに後背地からの供給による風成ないし水成の堆積物と推測される。最下部は褐色味・粘性が次第に強くなり、Ⅳ層に漸移的に移行する場所もある。下面に耕作痕（鍬の打ち込み痕）が認められた場所があり、開墾等による植生破壊がきっかけとなって後背の丘陵から花崗岩風化分解砂の流入速度が増し、Ⅳ・Ⅴ層ほど土壌化の進行しない堆積物が厚く堆積した可能性が考えられる。

Ⅲ層…粗砂を主体とする花崗岩風化分解砂。61Ｔ－２及び 62Ｔで認められた。無遺物。Ｆ地点中央を流れる小河川の氾濫原と考えられるレベルに認められ、当該河川の氾濫に伴って生じた水成堆積物と推測する。

Ⅳ層…褐灰色（上部）～黒褐（下部）色の、粘性の強いシルト。中世の土器等の遺物を包含する。旧表土もしくはその再堆積層と推測される。層厚は斜面下方ほど厚く、斜面上方では消失もしくはⅡ層・Ⅴ層との区別が困難。

Ⅴ層…黒色を主体とするシルト～粘土。無遺物。低地の試掘坑では上層との境界が明瞭であるが、斜面上方は次第に薄くなり、Ⅳ層との分層が困難となる。Ⅵ層との境界は不整合で起伏が著しい。クロボク土もしくはクロボク起源の水成堆積物と推測される。

Ⅵ層…基盤層。花崗岩風化粘土あるいは砂。Ｆ地点中央を流れる小河川の西側低地（64Ｔ及び 65Ｔ）では、最上部（Ⅴ層直下）に水成堆積と推測される砂の平行層理が認められる。

遺構

Ｆ地点の 60Ｔ－２のⅡ層下面で溝状遺構１基と小土坑１基を確認した。溝状遺構は幅 20 ㎝、断面形は検出面からの深さ約３㎝の扁平な逆台形を呈し、試掘坑長辺と直交方向（等高線と概ね平行）に延びる。小土坑は一辺約 25 ㎝の隅丸正方形プランで、断面形や深さは確認していない。遺構埋土中からの出土遺物はなく、直上のⅡ層中からは中世以外の時期に属する遺物が認められなかったことから、当該遺構の帰属時期も中世の可能性が高い。

遺物

Ｅ地点で土器破片１点、Ｆ地点で土器及び金属滓が出土した。試掘坑ごとの種類・品名・数量は表５に示した。いずれも遺構に伴うものではなく、一括廃棄等の意味ある出土状況も認められなかった。Ｅ地点では 58Ｔで土器破片１点が出土した。摩滅が著しい細片で、器種・帰属時期とも特定は困難である。Ｆ地点では小河川東側（60T-1、60T-2、61T-1、61T-2、61T-3 及び 62T）で中世に属すると推測される須恵器・土師器や金属滓が出土した。出土量は 60T-1 が最も多く、当該試掘坑から離れるほど少量かつ破片が小さくなり、表面の摩滅したものが目立つようになる。土師器は糸切底のものが目立つが、廃棄後の二次的移動・転磨により器壁の薄い体部が淘汰されたことが影響しているのかもしれない。金属滓は 60T-1 及び 60T-2 で出土した。表面の肉眼観察から鉄滓（鍛冶滓）と考えられるが、表面に緑色の付着物が認められるものがあり、銅など他の金属滓の可能性もあることから「金属滓」と総称した。小河川西側（65T、66T 及び 67T）では古代以降のものと推測される、表面の摩滅が著しい器形不明の土師器のほか、弥生土器口縁部と弥生土器あるいは古墳時代土師器と推測される土器の体部が出土している。口縁部は端部に凹線が施されており、弥生時代中期（Ⅳ様式）のものと判断した。体部は外面・内面ともにハケメ調整が認められる。

各試掘調査地点の概要

今回の試掘調査範囲における埋蔵文化財包蔵地の有無及び範囲等を次のように判断した。

Ａ地点（50Ｔ、51Ｔ）

試掘坑２か所いずれにおいても遺構･遺物はなく､埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。50Ｔを入れた地点は埋蔵文化財包蔵地（西光寺跡、中世、寺院跡）の隣接地である。しかし、現状は棚田として整備されており、原地形が大幅に改変されている。現在の地形に伴う造成土直下から基盤層を検出しており、西光寺跡に関連する遺構が存在していたとしても既に削平を受けたものと考えられる。51Ｔを入れた地点は、文献資料等で古寺跡の存在が指摘されていた範囲であ

る。しかし、現状は棚田として整備されており、旧地形が大幅に改変されている。現在の地形に伴う造成土直下からは、北から南に下る基盤層を検出しており、造成前は斜面地であったと考えられる。

Ｂ地点（52Ｔ、53Ｔ）

試掘坑２か所いずれにおいても遺構･遺物はなく､埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

本地点は、近隣で確認されている埋蔵文化財包蔵地（塔の岡古墓、枯花院古墓）と標高を同程度とする類似地形のため試掘調査を行った。しかし、現状は棚田として整備されており、北から南に下る旧地形の斜面地を大幅に造成していることが確認された。

Ｃ地点（54Ｔ～56Ｔ）

試掘坑３か所いずれにおいても遺構･遺物はなく､埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

本地点は、近隣で確認されている埋蔵文化財包蔵地（塔の岡古墓、枯花院古墓）と標高を同程度とする類似地形のため試掘調査を行った。しかし、54・55Ｔでは田畑として何度も造成されており、旧地形が大幅に改変されている状況を確認した。また、56Ｔは旧地形が谷部であったことを確認した。

Ｄ地点（57Ｔ）

遺構、遺物はなく、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

本地点付近は、遺称地名から中世寺院（円福寺）が存在したと推測される。よって、試掘坑は堂宇跡が存在した可能性がある平坦地に入れた。しかし、現在の地形に伴う造成土直下からは、樹木痕が多数認められる自然堆積土を確認し、造成前は原野であったと考えられる。

なお､今回の計画地外だが､本地点の東側に広がる平坦地に中世寺院が存在した可能性はある。

Ｅ地点（58Ｔ、59Ｔ）

遺構はなく、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。

本地点は、細尾根先端付近に位置し、周囲は細尾根と谷が入り組む地形である。58Ｔからは中世の土師質土器と考えられる土器細片１点を確認したが、摩滅が著しく二次的に移動してきたものと推測される。現在の地形に伴う造成土直下からは、中世以降の旧耕作面を検出し、さらに下層は自然堆積であることを確認した｡59Ｔは､現在の地形に伴う造成土直下から岩盤層を検出し、旧地形が大幅に改変されていることを確認した。

Ｆ地点北部（60Ｔ-1、60Ｔ-2、61Ｔ-1、61Ｔ-2、61Ｔ-3、62Ｔを発掘）

60Ｔ-2 で遺構を確認したことなどから、一部を埋蔵文化財包蔵地と判断した。

60Ｔ-2 で確認した遺構は、溝状遺構と小土坑各１基である。遺構の形状から機能を特定することは困難だが、直上のⅡ層から出土した遺物が煮炊具・食器に相当する須恵器・土師器、鉄製品等の加工に伴って生じる鍛冶滓であることから、集落遺跡を構成する遺構の一部と推定した。

確認した遺構に時期の特定が可能な形態的特徴を見出すことができなかった。出土遺物は糸切底の土師器が目立つが器形の全形が復元できるようなものがなく、遺物の一括性も保証されないことから、おおまかに中世としておく。

遺構を確認したのは 60Ｔ-2 のみであるが、同じほ場に設定した 60Ｔ-1 では遺構確認面であるⅡ層下面まで後世の大規模な攪乱が及んだ形跡はなく、両試掘坑を設定したほ場では遺跡形成時の地形が保たれているものと推測される。両試掘坑より低地に設定した試掘坑では、若干の遺物は出土するものの遺構は認められず、西側を流れる小河川の氾濫原堆積物が広く認められた。遺跡範囲の西～南限は 60Ｔ-1 及び 60Ｔ-2 を設定したほ場の範囲に限定されると判断した。

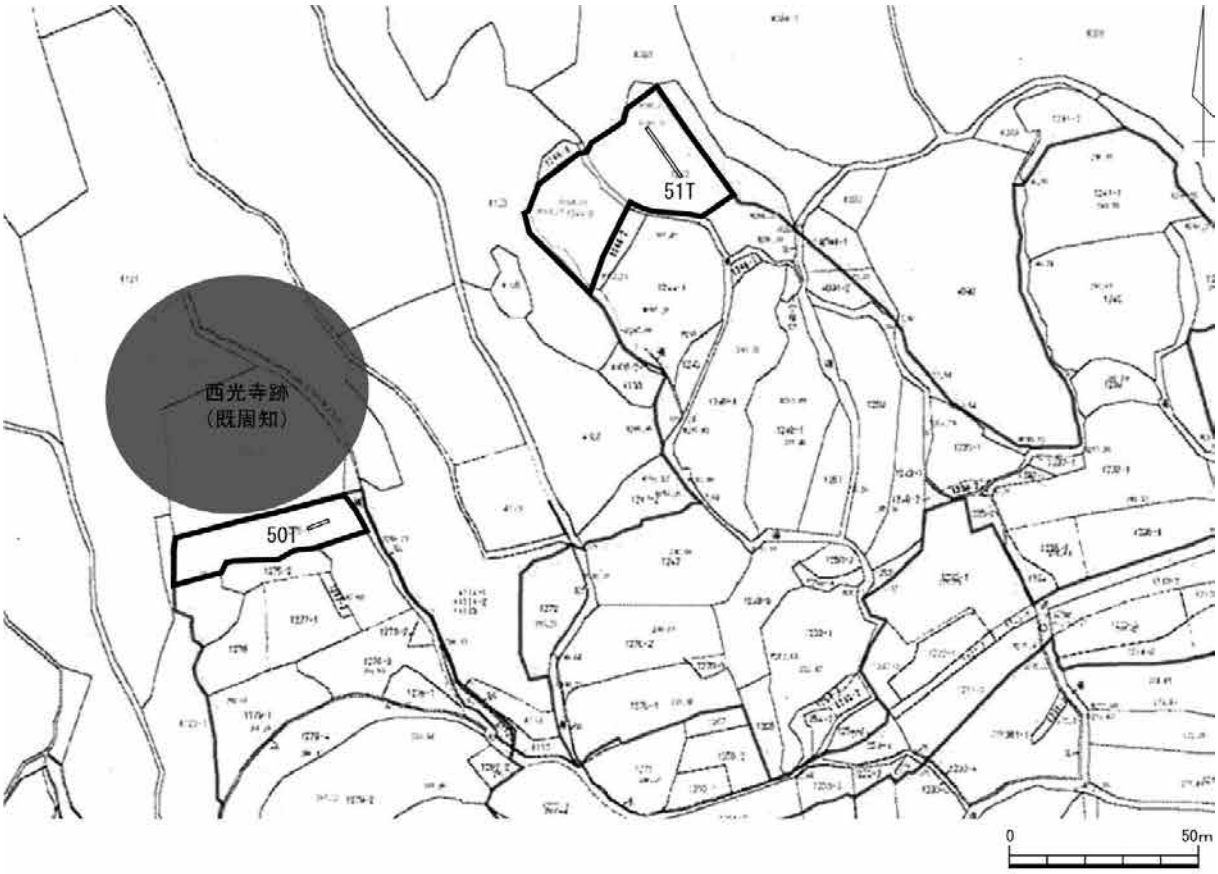
遺跡範囲の北～東限については、Ⅱ層中の遺物が遺構確認面の直上よりもやや上のレベルに多く包含されること、遺物出土量が試掘対象範囲の最も北に設定した 60Ｔ-1 で最も多く、西・南に行くほど数量が少なく・破片が小さく・表面の摩滅した土器が多くなる傾向であることから、遺跡の中心域は試掘対象範囲（ほ場整備事業計画範囲）よりも高所の北東側にあると推測される。60Ｔ-1 及び 60Ｔ-2 を設定したほ場の東側の、県道 351 号線と現在山林となっている丘陵との間にある畑で須恵器や土師器の破片が表面採集でき、遺跡の範囲が及んでいる可能性が高い。北側も今回の調査原因であるほ場整備事業計画地の外であり詳細な観察・検討を行っていないが、県道 351 号線に沿う微高地・緩斜面上に同様の遺跡が続いている可能性が考えられる。

Ｆ地点南部（64Ｔ、65Ｔ、66Ｔ、67Ｔを発掘）

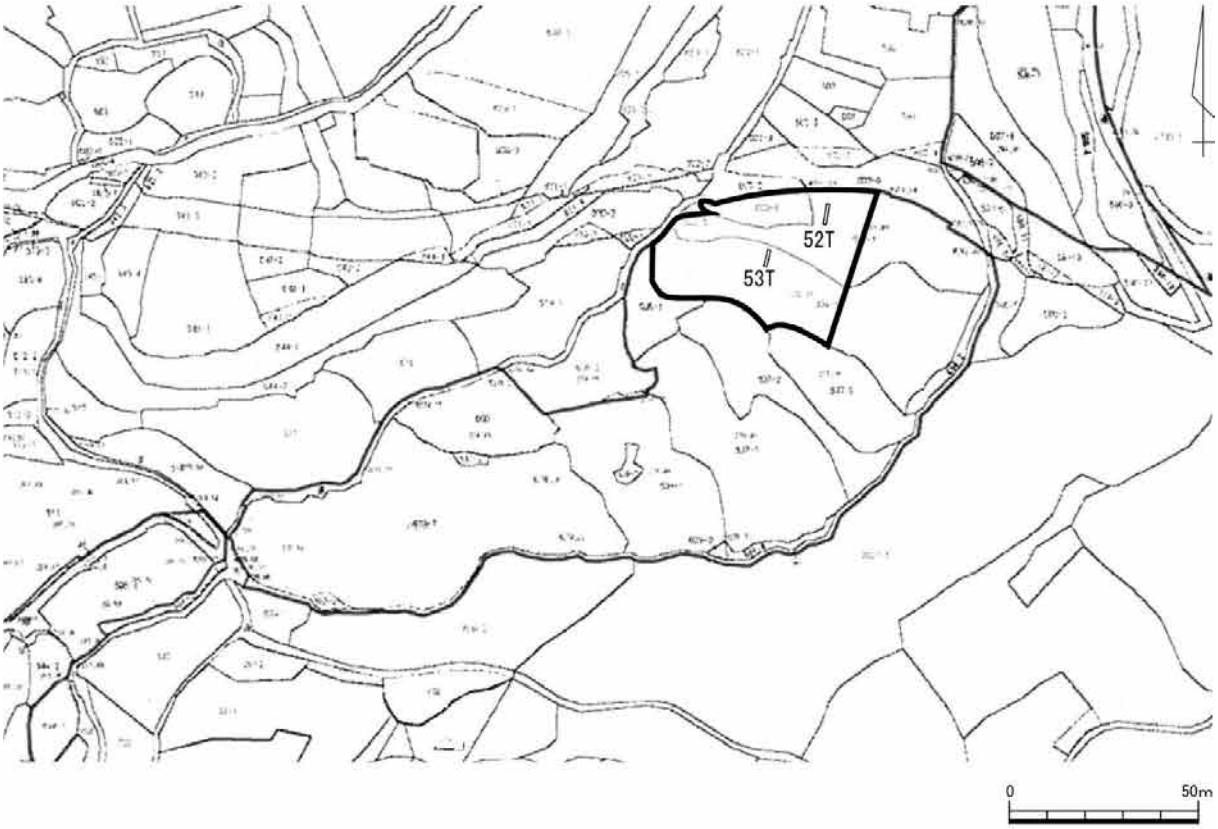
遺構はなく、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。出土遺物は古代以降のものと推測される、表面の摩滅が著しい器形不明の土師器と、弥生土器口縁部と弥生土器あるいは古墳時代土師器と推測される土器の体部に大別できるが、意味ある出土状況も呈しておらず、試掘対象範囲外の高所から二次的に流入してきた可能性が高い。

表５　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地内　令和４年度試掘調査　遺物出土地・観察所見

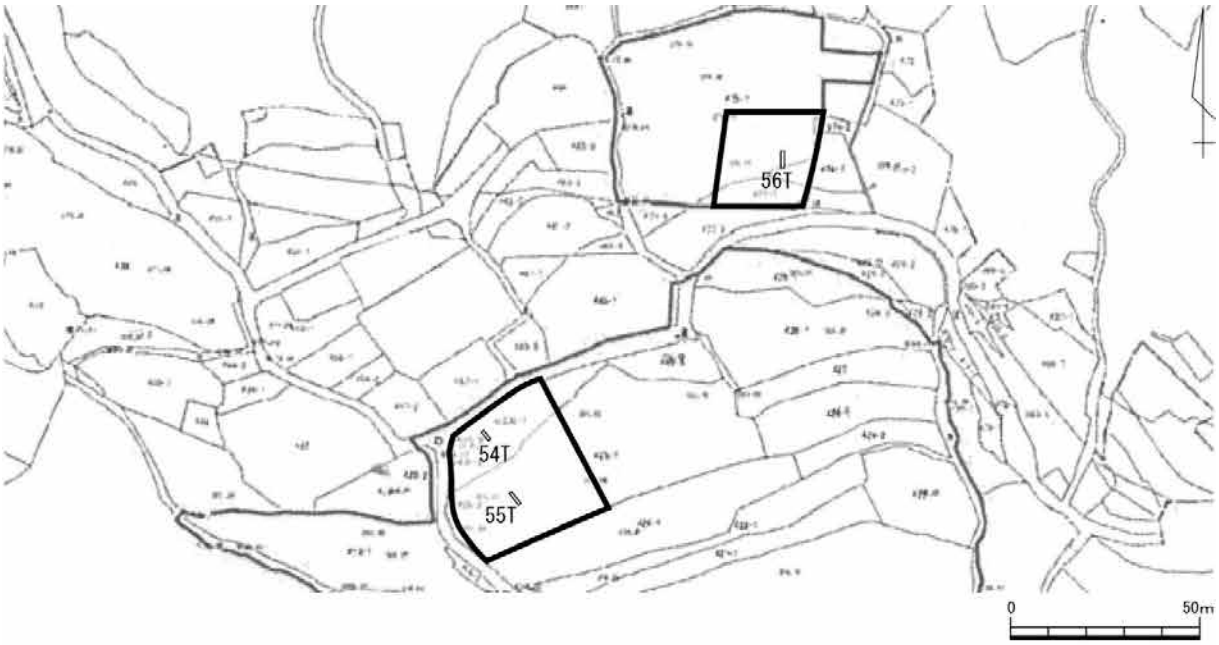
トレンチ名称	観察所見
58Ｔ	土師器の皿か。摩滅が著しく器形・表面の調整は不明。
60Ｔ－１	須恵器…杯底部あり。 土師器…糸切痕ある底部が目立つ。ヘラ切り底部？も１点あり。 金属滓…椀形滓１点、その他も鍛冶滓と考えられる。緑色を呈する部分があり、銅滓の可能性もあり。
60Ｔ－２	須恵器…杯蓋２点、平底の杯？１点、外面にタタキの認められる大型の器形の体部１点。 土師器…底部１点あり。摩滅が著しく調整は不明。 鉄滓…鍛冶滓と考えられる。
61Ｔ－１	土師器…糸切底
61Ｔ－２	須恵器…大型の器形　　土師器…底部
61Ｔ－３	須恵器…甕？口縁部１点 土師器…鍋口縁部１点、皿？底部１点（摩滅が著しく調整不明）
62Ｔ	須恵器…高台付の杯？１点、口縁１点 土師器…口縁部３点、糸切底、瓦器？１点
65Ｔ	須恵器…格子目タタキの体部。摩滅著しい 土師器…摩滅著しい。器形不明
66Ｔ	弥生土器…口縁部１点、凹線 弥生土器あるいは土師器？…体部ハケメ 土師器…口縁部あり、摩滅著しい
67Ｔ	土師器…皿か　摩滅著しい



第６図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ａ地点（1：2,000）

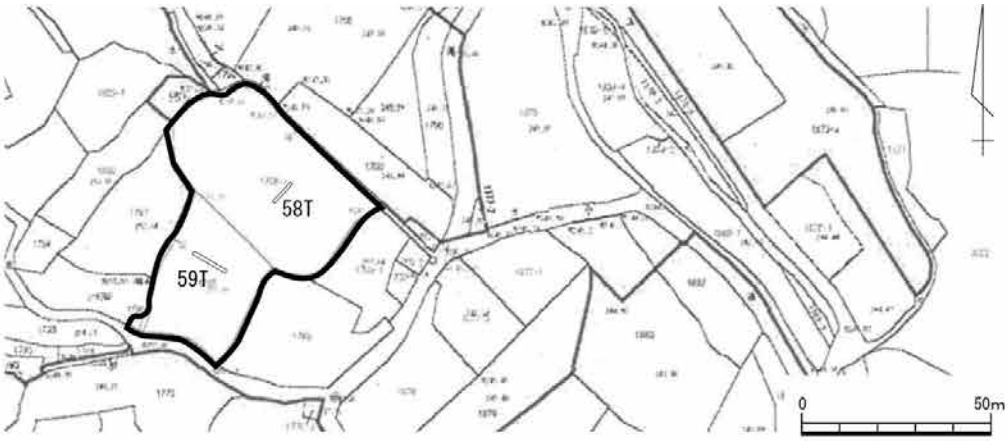


第７図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｂ地点（1：2,000）

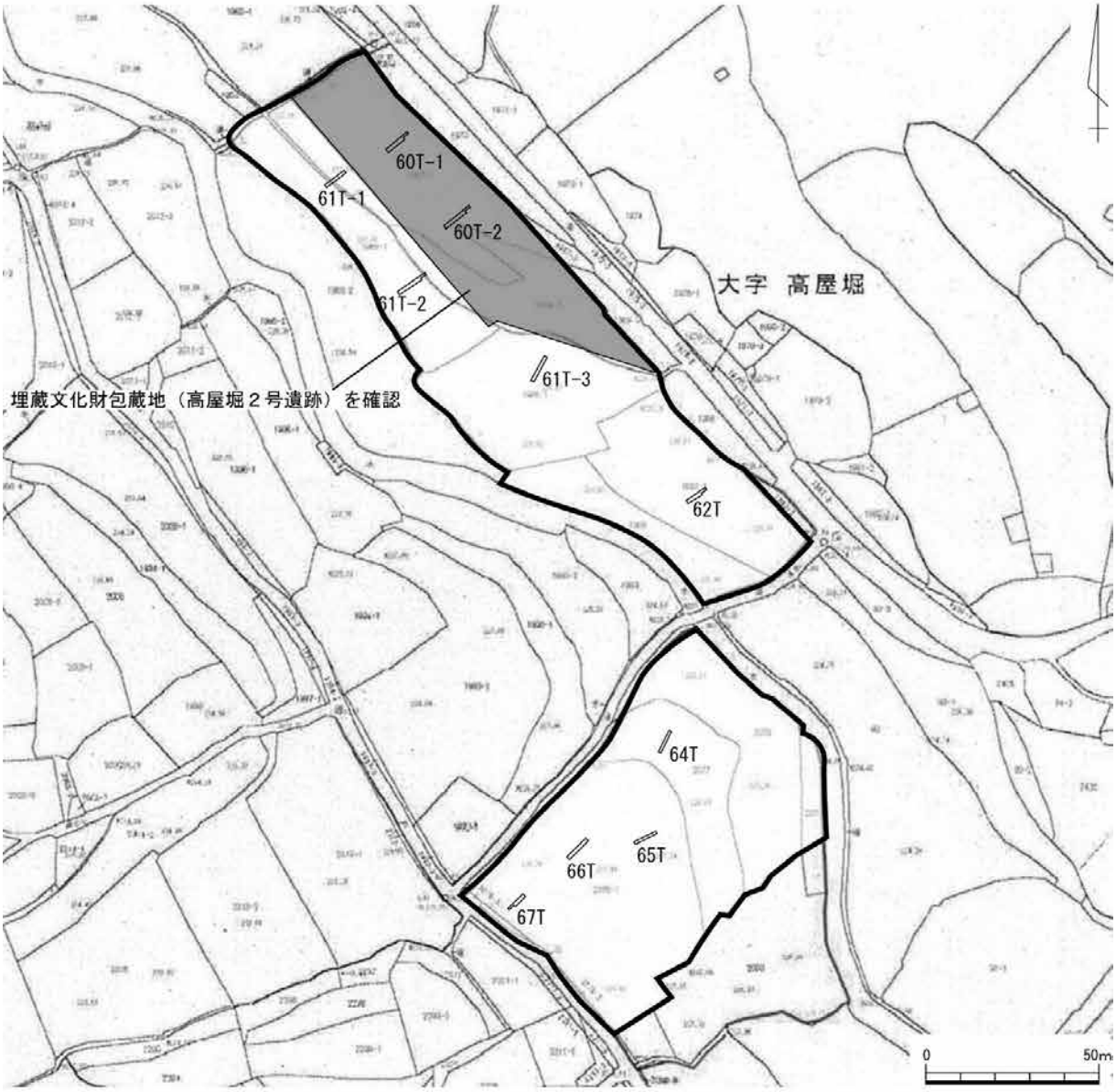


第８図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｃ地点（1：2,000）

第９図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｄ地点（1：2,000）
※　１Ｔ～３Ｔ－２は過年度に調査した試掘坑



第10図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｅ地点（1：2,000）



第11図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘調査Ｆ地点（1：2,000）

表６　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地試掘坑所見

試掘調査地点	トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
A地点	50T	6.0×0.8×0.8 南壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　にぶい黄橙色細粒砂（10YR6/4）。近現代造成土。 Ⅳ　層　褐灰色粗粒砂（5YR4/1）。10 ～30 ㎝大の礫含む。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
	51T	16.0×1.0×1.6 西壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　にぶい黄橙色細粒砂（10YR6/4）。近現代造成土。 Ⅳ　層　明黄褐色粗粒砂（2.5Y7/6）。50 ～80 ㎝大の礫含む。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
B地点	52T	5.5×0.8×1.3 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　灰黄色細粒砂（2.5Y6/2）。床土 Ⅰｃ層　黒褐色粗粒砂（10YR3/1）。10cm 大の礫含む。近現代造成土。 Ⅳ　層　明黄褐色細粒砂（10YR6/8）。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
	53T	4.5×0.8×0.9 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　灰黄色細粒砂（2.5Y6/2）。黄褐色細粒砂（10YR5/6）混じり。床土。 Ⅰｃ層　褐灰色粗粒砂（10YR5/1）。近現代造成土。 Ⅰｄ層　灰黄褐色粗粒砂（10YR5/2）。近現代造成土。 Ⅰｅ層　褐灰色細粒砂（10YR4/1）。近現代造成土。 Ⅱ　層　黒色粘性細粒砂（10YR2/1）。 Ⅲ　層　黄灰色粗粒砂（2.5Y5/1）。 Ⅳ　層　にぶい黄色細粒砂（2.5Y6/4）。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
C地点	54T	3.0×0.8×0.75 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　褐灰色粗粒砂（10YR6/1）。近現代造成土。 Ⅱ　層　黒色粘性細粒砂（10YR2/1）。草木根含む。旧耕作土 Ⅳ　層　にぶい褐色粗粒砂（7.5Y5/3）。50～100 ㎝大の礫含む。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし

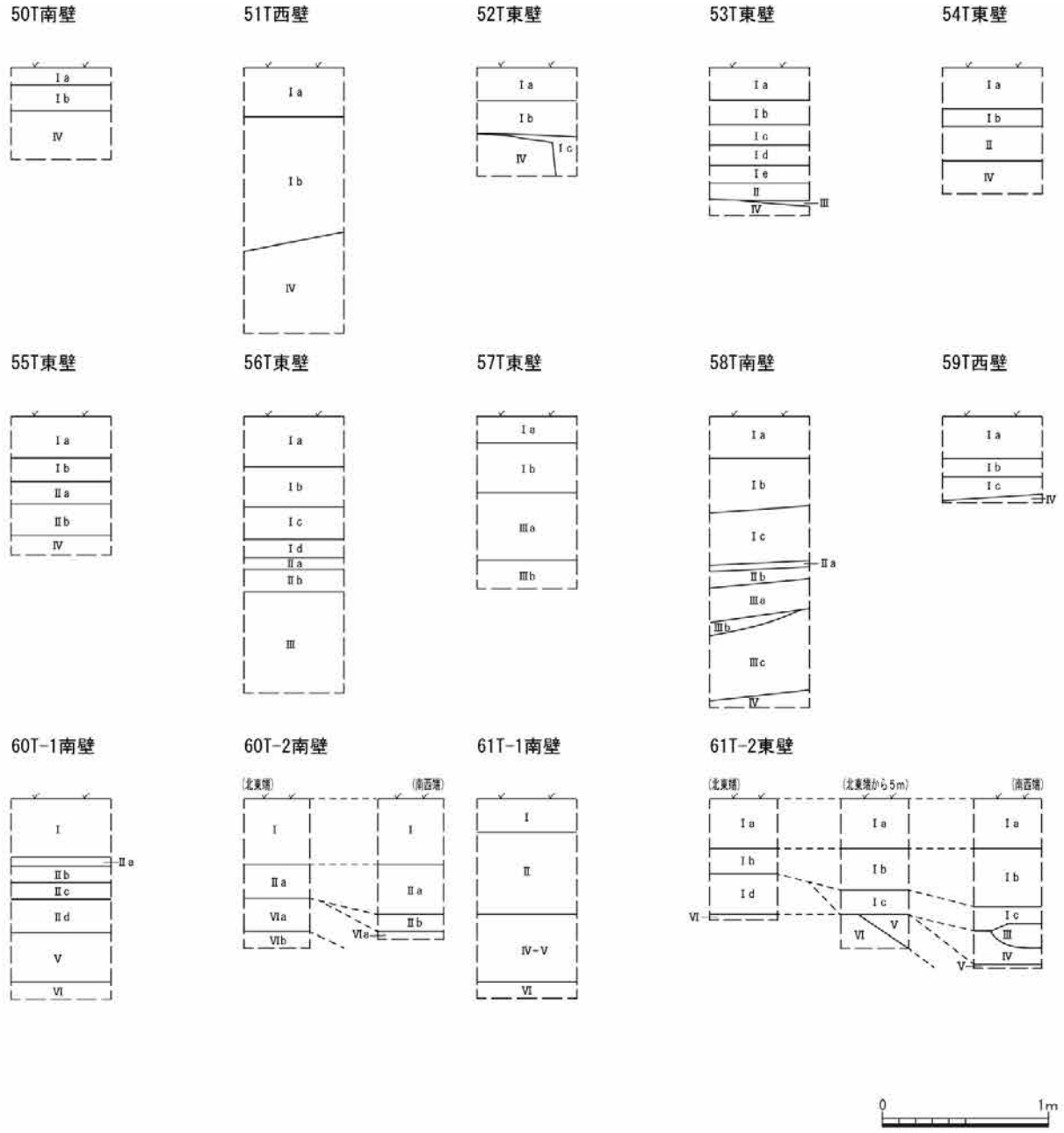
試掘調査地点	トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
C地点	55T	4.0×0.8×0.8 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　褐灰色粗粒砂（10YR6/1）。近現代造成土。 Ⅱａ層　黒色粘性細粒砂（10YR2/1）。草木根含む。旧耕作土 Ⅱｂ層　灰黄褐色細粒砂（10YR4/2）。10～30㎝大の礫多く含む。Ⅱａ層に伴う造成土。 Ⅳ　層　明黄褐色粗粒砂（10YR6/6）。５～10㎝大の風化礫多く含む。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
	56T	4.5×0.8×1.7 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　褐灰色粘性粗粒砂（7.5YR5/1）。近現代造成土。 Ⅰｃ層　明黄灰色粗粒砂（7.5YR7/2）。近現代造成土。 Ⅰｄ層　褐灰色粗粒砂（7.5YR6/1）。近現代造成土。 Ⅱａ層　褐灰色粗粒砂（7.5YR6/1）。明褐色粗粒砂（7.5YR5/8）混じる。 Ⅱｂ層　灰褐色粘性細粒砂（7.5YR4/2）。 Ⅲ　層　黒色粘性粗粒砂（N1.5/）。10～20㎝大の礫含む。地下水と有機物質の腐食による黒泥層。 （湧水のため掘削停止） 出土遺物なし
D地点	57T	14.5×1.0×1.0 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　にぶい褐色粗粒砂（7.5YR5/4）。近現代造成土。 Ⅲａ層　緑灰色粘性細粒砂（5G6/1）。草木根多数あり。自然堆積層。地下水によりグライ化。 Ⅲｂ層　灰色粗粒砂（N6/）。5～30㎝大の風化礫多く含む。自然堆積層。地下水によりグライ化。 （湧水のため掘削停止） 出土遺物なし
E地点	58T	7.0×0.8×1.8 南壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　橙色砂（7.5YR7/6）。5cm大の礫含む。近現代造成土。 Ⅰｃ層　褐灰色粗粒砂（7.5YR4/1）。5～10㎝大の礫含む。近現代造成土。 Ⅱａ層　黒褐色粘性細粒砂（7.5YR3/1）。草木根や農耕具痕あり。旧耕作土。 Ⅱｂ層　にぶい黄褐色細粒砂（10YR5/4）。Ⅱａ層に伴う床土。 Ⅲａ層　褐灰色細粒砂（10YR6/1）。遺物包含。中世堆積層。 Ⅲｂ層　黄褐色細粒砂（10YR5/6）。自然堆積層。 Ⅲｃ層　灰黄褐色粗粒砂（10YR5/2）。風化礫含む。自然堆積層。 Ⅳ　層　橙色粗粒砂（7.5YR6/8）。花崗岩風化岩盤。 出土遺物：土器（土師器）、摩滅した細片

試掘調査地点	トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
E地点	59Ｔ	10.0×1.0×0.7 西壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。水田耕作土。 Ⅰｂ層　灰黄褐色粗粒砂（10YR5/2）。床土。 Ⅰｃ層　褐灰色粘性細粒砂（10YR4/1）。黄褐色粘性細粒砂（10YR5/6）混じる。旧耕作土。 Ⅳ　層　灰白色粗粒砂（10YR8/2）。花崗岩風化岩盤。 出土遺物なし
F地点	60Ｔ－１	8.0×1.2×1.2 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約 30～35cm。水田耕作土。 Ⅱａ層　赤褐色砂混じりシルト（5YR4/6～4/8）。層厚約５～40 cm。Ⅰ層直下は赤み強い。遺物包含。 Ⅱｂ層　褐灰色砂混じりシルト（5YR5/1）。層厚約 10～15cm。径３cm程度までの褐色礫を含む。遺物包含。 Ⅱｃ層　赤褐色砂混じりシルト（5YR4/6～4/8）。層厚約 10～20cm。遺物包含。 Ⅱｄ層　褐灰色砂混じりシルト（5YR5/1）。層厚約 20cm。径３cm程度までの褐色礫を含む。遺物包含。南西寄り（Ⅵ層と直接に接する部分）では下面に耕作痕（鍬の打ち込み痕）を確認。床土層の形成が認められないこと、下面が傾斜していることから、畑として利用されていたものと推測される。 Ⅴ　層　黒褐色（上部, 5YR2/1）～黒色（下部, 5YR1.7/1）シルト。北東寄りのみ堆積し最大層厚約30 cm。下面は凹凸が著しく層境が不鮮明。旧表土。無遺物。 Ⅵ　層　褐色粘土（10YR4/4～4/6）。上面から深さ約 10 cmまで確認。風化し粘土化した花崗岩岩盤。 出土遺物：土器（須恵器、土師器）、金属滓。Ⅱ層中位から最も多く出土。
	60Ｔ－２	10.0×1.0×0.9 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約 40cm。水田耕作土。 Ⅱａ層　褐色（7.5YR5/6）～灰褐色（5YR5/2）を主体とする砂混じりシルト。層厚約20～30 cm。赤褐色・褐灰色の不明瞭な葉理が認められる。最下部（下面から約５cm）は鉄・マンガンの沈着が認められ、やや橙色みを帯びる。遺物包含。 Ⅱｂ層　褐灰色砂混じりシルト（5YR5/1）。試掘坑中央北東寄りから出現し南西側で次第に厚くなり、最大層厚は約 10cm。Ⅳ層に比較的近い色・土質。遺物包含。下面（Ⅵａ層上面）で遺構を確認。 Ⅵａ層　浅黄橙色細粒砂（10YR8/3～8/4）。層厚約20 cm。固く締まる。花崗岩風化岩盤。 Ⅵｂ層　にぶい黄褐色中～粗粒砂（10YR5/4）。上面から深さ約 10cm まで確認。固く締まる。花崗岩風化岩盤。 遺構：Ⅱｂ層下面（Ⅵａ層上面）で溝状遺構１基、小土坑１基を確認。 出土遺物：土器（須恵器，土師器），鉄滓

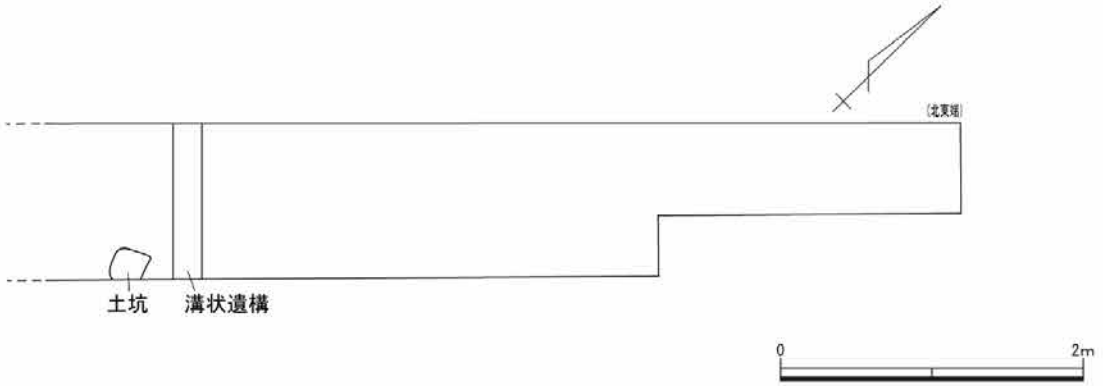
試掘調査地点	トレンチNo.	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
F地点	61Ｔ－１	7.0×0.6×1.2 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約20cm。水田耕作土。 Ⅱ　層　灰褐色（5YR5/2）を主体とする砂混じりシルト。層厚約50㎝。最上部（上面から約10㎝）は鉄分の沈着が認められやや橙色みを帯びる。最下部（下面から約５㎝）も鉄分等の沈着が認められ黄色みを帯びる。遺物包含。 Ⅳ－Ⅴ層　上部の褐灰色砂混じりシルト（10YR5/1）から、下部の黒褐色粘土（10YR3/1）に漸移的に変化する級化成層。層厚約40㎝。旧表土。無遺物。 Ⅵ　層　にぶい黄褐色中粒砂（10YR7/3～6/3）。上面から深さ約10cmまで確認。花崗岩風化岩盤。 出土遺物：土器（土師器）
	61Ｔ－２	10.0×1.2×1.1 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約30cm。水田耕作土。 Ⅰｂ層　褐灰～灰黄褐色（10YR6/1～6/2）を主体とする砂混じりシルト。層厚約15～35㎝、南西寄りが厚くなる。試掘坑中央付近では、灰色（N4/4）の上半部と黄橙色（7.5YR7/8）に細分可能。水田造成に伴う客土、無遺物。 Ⅰｃ層　灰褐色砂混じりシルト（7.5YR4/2）。試掘坑中央付近から南西側のみ認められ、最大層厚約15㎝。水田造成に伴う客土、無遺物。 Ⅰｄ層　褐灰色粗粒砂（10YR4/1）。試掘坑北東寄りのみ認められ、最大層厚約25㎝。径20㎝程度までの花崗岩礫を多く含む。水田造成に伴う客土、無遺物。 Ⅲ　層　橙色（7.5YR7/6～6/8）、上部は粗粒砂、下部は粘土の級化成層。試掘坑南西端のみ認められ、最大層厚約15㎝。河川による運搬・堆積物と推測される。 Ⅳ　層　褐灰色シルト（7.5YR4/1）。試掘坑南西寄りに認められ、最大層厚約20㎝。遺物包含。 Ⅴ　層　黒褐色粘土混じりシルト（7.5YR3/1）。層厚は約20㎝で一定するが、試掘坑中央部より北東側は削剥されている。粘性大。径10㎝程度までのクサリ礫を含む。旧表土。無遺物。 Ⅵ　層　明黄褐色（10YR6/6）の花崗岩岩盤、試掘坑中央部から北東側で上面のみ確認。基盤層。 出土遺物：土器（須恵器、土師器）。表面が摩滅した細片。
	61Ｔ－３	7.0×1.0×1.5 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約30cm。水田耕作土。 Ⅱ　層　にぶい黄褐色(10YR5/3)を主体とする砂混じりシルト。層厚約40～80㎝、南西寄りが厚くなる。試掘坑南西寄りでは下部が次第に褐色みを帯びるとともに混入する砂の粒径が小さくなり、粘土・シルトの平行に堆積する葉層も認められるようになる。遺物包含。 Ⅳ　層　上部は褐色砂(10YR4/4)、下部は黒褐色粘土(10YR3/1)に至る級化成層。上面は波打つ。炭化していない木片（自然に枯死した木の幹・枝等の破片と考えられる）を含む。試掘坑北東端で下面を確認し層厚約80㎝、南西側では上面のみ確認。遺物包含。 Ⅴ　層　黒色細粒砂(10YR1.7/1)。試掘坑北東端で上面を確認。旧表土。無遺物。 出土遺物：土器（須恵器、土師器）。

試掘調査地点	トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
F地点	62T	6.0×1.2×1.45 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約30cm。水田耕作土。 Ⅱ　層　明黄褐色（10YR6/6）を主体とする砂混じりシルト。灰・橙色の砂・シルトの平行葉理が認められる。層厚約50～75㎝で、試掘坑南西寄りが厚くなる。遺物包含。 Ⅲ　層　灰白色（2.5YR8/2）粗粒砂。試掘坑中央部付近からⅡ層とⅣ層の境界部にブロックとして認められはじめ、南西にいくにつれ次第にブロックの径・密度が増して、試掘坑南西端では層厚約10㎝程度の薄層となる。無遺物。 Ⅳａ層　試掘坑北東端では褐色（10YR4/4）、南西にいくにつれ次第に土色の黒みが増し、試掘坑中央部では暗褐色（10YR3/4）、南西端では青灰色（5B5/1）～青黒色（5PB2/1）に至るシルト。層厚は試掘坑北東端で約15㎝、南西側では上面から深さ約30㎝まで確認。遺物包含。 Ⅳｂ層　褐色（10YR4/4）～暗褐色（10YR3/4）の細粒砂混じり粘土。試掘坑北東端で上面から深さ約20㎝まで確認。遺物包含。 出土遺物：土器（須恵器、土師器）。表面が摩滅した細片。
	64T	6.5×0.8×1.15 東壁	Ⅰａ層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約20cm。水田耕作土。 Ⅰｂ層　にぶい黄橙色細粒砂（10YR6/4）。層厚約15㎝。水田床土。 Ⅰｃ層　黒褐色細粒砂（10YR3/1）。試掘坑中央部で確認した幅約40㎝、深さ約15㎝の溝状の落ち込み埋土。過去の水田の区画溝と判断した。 Ⅰｄ層　褐灰色粗粒砂（10YR7/4）。にぶい黄橙色（10YR7/4）ブロックを含む。試掘坑中央付近から北東側のみに認められ、北東にいくほど厚くなる。過去の水田造成土。 Ⅵａ層　灰黄褐色砂（10YR6/2）。層厚は南西側が厚く最大約40㎝、北東にいくほど薄くなり試掘坑北東端近くで認められなくなる。微妙に粒径の異なる平行層理が認められ、基盤の花崗岩風化物が河川により運搬・再堆積したものと判断した。 Ⅵｂ層　灰黄褐色砂（10YR5/2）。層厚約30㎝。径1㎝程度の礫を含む。Ⅵａ層と同様、微妙に粒径の異なる平行層理が認められ、基盤の花崗岩風化物が河川により運搬・再堆積したものと判断した。 Ⅵｃ層　明褐色粗粒砂（10YR5/6）。層厚は上面から深さ10㎝程度まで確認。上面にマンガン沈着。花崗岩の風化岩盤。 出土遺物なし

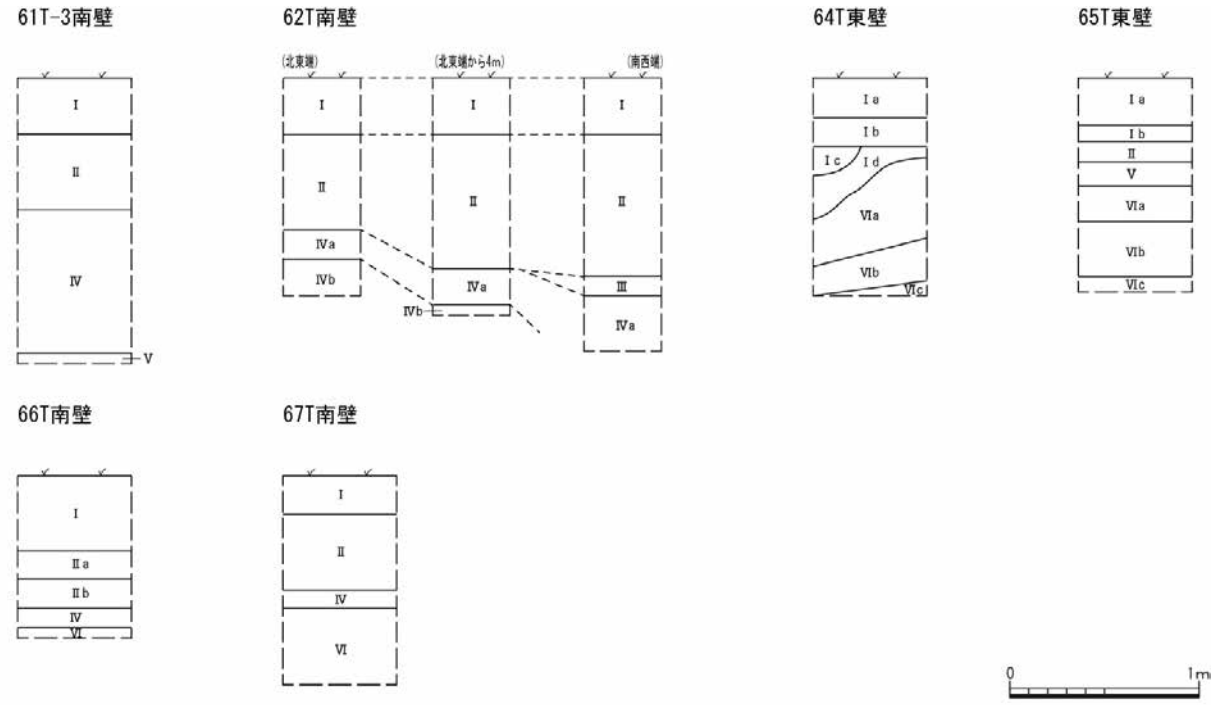
試掘調査地点	トレンチ№	規模（長さ×幅×最大深さ、単位m）	調査所見
F地点	65T	7.0×0.8×1.15 東壁	Ⅰa層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約25cm。水田耕作土。 Ⅰb層　浅黄色細粒砂（2.5YR7/4）。層厚約10～35㎝。水田床土及び造成土。無遺物。 Ⅱ　層　褐灰色細粒砂（5YR4/1）。層厚は南西側が厚く（試掘坑南西端で約10㎝）、試掘坑北東端近くで認められなくなる。遺物包含。 Ⅴ　層　黒色粘土混じり細粒砂（10YR2/1）。層厚約15㎝。下面は植物根等により大きく波打ち、森林あるいは草原の頃に形成されたものと推測される。旧表土。 Ⅵa層　にぶい黄橙色粘土混じり細粒砂（10YR7/2）。試掘坑南西端で層厚約20㎝、その他の部分では上面から深さ10㎝程度まで確認。微妙に粒径の異なる平行層理が認められ、基盤の花崗岩風化物が河川により運搬・再堆積したものと判断した。 Ⅵb層　褐灰色細粒砂（10YR5/1）。径１～２㎝程度の礫を多く含む。Ⅵa層と同様、微妙に粒径の異なる平行層理が認められ、花崗岩風化物が河川により運搬・再堆積したものと判断した。 Ⅵc層　にぶい黄褐色（10YR5/3）を主体とし、黄褐色（10YR5/6）の部分が混じる花崗岩風化岩盤。 出土遺物：土器（土師器）。表面の摩滅した細片。
	66T	8.0×1.2×0.85 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約30～40cm。水田耕作土。 Ⅱa層　黄褐色砂混じりシルト（10YR6/2）。層厚約15～25㎝，南西側が厚い。遺物包含。 Ⅱb層　黒褐色砂混じりシルト（2.5YR3/1）。層厚約15～20㎝、南西側が厚い。Ⅱa層より粘性が高い。Ⅱa層との境界は不明瞭で色調・土質とも漸移的に変化する。遺物包含。 Ⅳ　層　黒色シルト。層厚は最大10㎝程度で、北東側では途切れ途切れに堆積。遺物包含。旧表土。 Ⅵ　層　灰白色（7.5Y8/1～7/1）を基質とする、粘土化した花崗岩風化岩盤。上面のみ確認。上面に鉄分が沈着。 出土遺物：土器（土師器）、表面の摩滅した細片
	67T	6.0×1.2×1.3 南壁	Ⅰ　層　黒褐色砂混じりシルト（2.5Y3/2）。層厚約20cm。水田耕作土。 Ⅱ　層　褐色（7.5YR4/3）～灰褐色（7.5YR5/2）砂を多く含むシルト。層厚約40～65㎝、南西側が厚い。遺物包含。 Ⅳ　層　オリーブ黒色シルト（10GY7/1）。層厚は約10～50㎝程度で、北東側が厚い。試掘坑北東寄りでは上部の砂混じりシルトから下部の粘土へと粒径が漸移的に変化する。遺物包含。旧表土。 Ⅵ　層　明オリーブ灰色（10GY7/1）の花崗岩風化岩盤。最上部の粘土から下位の中粒砂へと粒径が漸移的に変化する。試掘坑南西端で上面から深さ約40㎝まで確認、その他は上面のみ確認。 出土遺物：土器（弥生土器、土師器）。Ⅱ層出土品は胎土が緻密で表面の著しく摩滅した細片、Ⅳ層出土品は弥生土器口縁部と内・外面ともにハケメ調整が認められる弥生土器あるいは土師器の体部。



第12図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地 土層断面図１（1：40）



第13図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地　60Ｔ－２平面図（1：50）

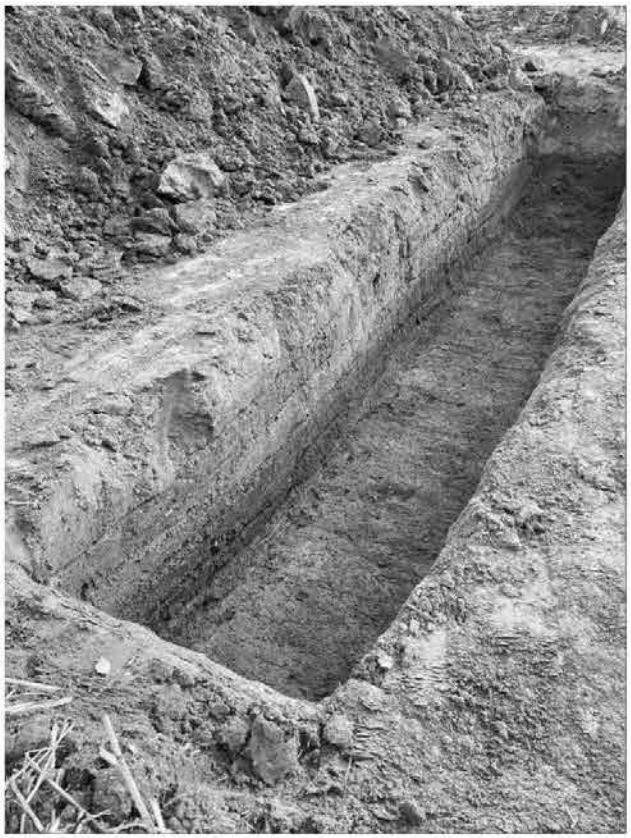


第14図　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地 土層断面図２（1：40）

a　50Ｔ（西から）

b　51Ｔ（南東から）

c　52Ｔ（南西から）



d　53Ｔ（北から）

a　54Ｔ（北から）

b　55Ｔ（北から）

c　56Ｔ（北から）

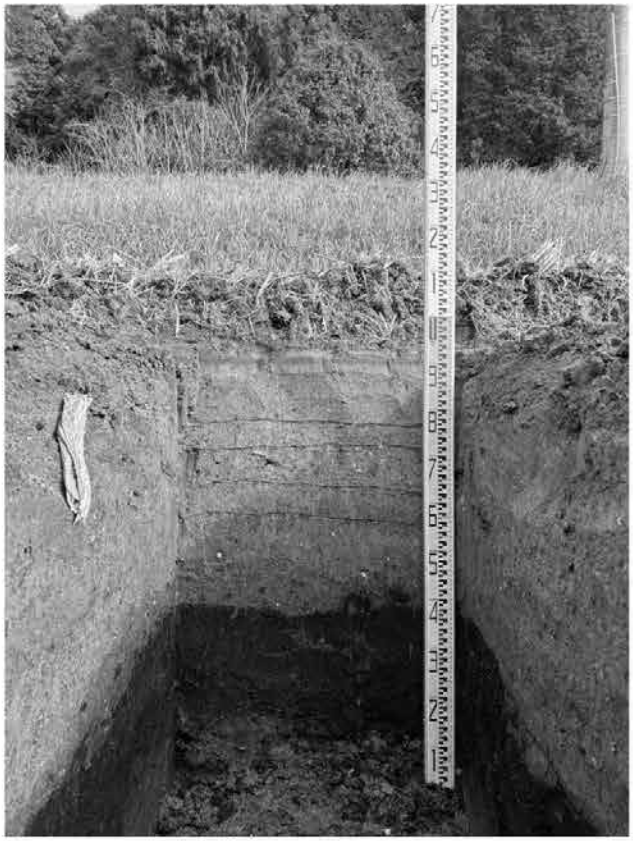
d　57Ｔ（北から）

a　58Ｔ（北から）

b　59Ｔ（西から）

c　Ｆ地点北部（南東から）

a　60Ｔ－１（西から）



b　60Ｔ－１東端土層（西から）

c　60Ｔ－１西端土層　耕作跡（東から）

a　60Ｔ－２（西から）

b　60Ｔ－２東端土層（西から）

c　60Ｔ－２遺構検出状況
（西から）

a　61Ｔ－１（西から）

b　61Ｔ－２（西から）

c　61Ｔ－３（西から）

d　62Ｔ（西から）

a　64Ｔ（北から）

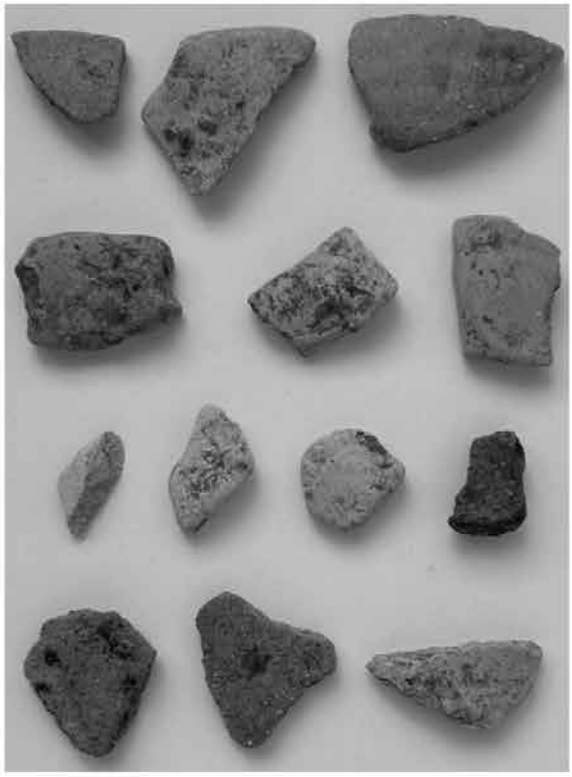
b　65Ｔ（北から）

c　66Ｔ（南東から）

d　67Ｔ（南東から）

a　60T－1　出土遺物（須恵器・金属滓）（縮率約２：３）

b　60T－1　出土遺物（土師器 底部）（縮率約２：３）



a　61Ｔ－１　出土遺物（土師器 口縁部その他）（縮率約２：３）

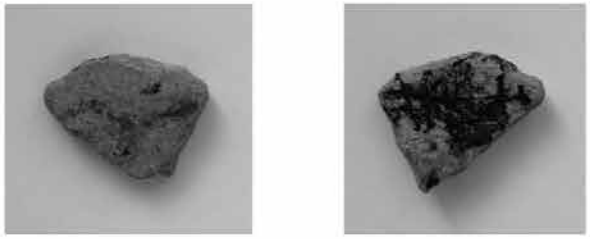
b　60Ｔ－２出土遺物（縮率約２：３）

a　60T－1出土遺物（上9点）、61T－2出土遺物（下7点）（縮率約2：3）

b　61T－3出土遺物（縮率約2：3）

a　62Ｔ出土遺物（須恵器、土師器口縁部・底部）（縮率約２：３）

b　62Ｔ出土遺物（土師器その他）（縮率約２：３）



a　58Ｔ出土遺物（縮率約２：３）

b　65Ｔ出土遺物（上２点）、66Ｔ出土遺物（中５点）、67Ｔ出土遺物（下５点）（縮率約２：３）

３　農業競争力強化基盤整備事業計画地内　令和元（2019）～令和３（2021）年度試掘調査における出土遺物について（補遺）

経緯

本事業計画地内においては、令和元年度から令和４年度まで試掘調査を実施し、現地所見については試掘調査の次年度に報告してきたものの、出土遺物については洗浄・観察等が遅延し、十分な記載ができていなかった。このたび、過年度（令和元～令和３年度）の試掘調査で出土した遺物の整理作業が進捗したことから、成果を公表する。なお、各年度の試掘調査年月日は次の通りである。

令和元（2019）年度（北工区）　令和２年２月 12 日～２月 14 日及び２月 19 日～２月 21 日
令和２（2020）年度（堀工区）　令和３年３月８日～３月 12 日及び３月 15 日
令和３（2021）年度（堀工区）　令和４年３月２日～３月４日及び３月７日～３月 11 日

令和元年度出土遺物について

令和元年度は北工区の試掘調査を実施した。出土地・層位及び出土遺物の内容は表７の通りである。出土遺物は全点を写真撮影し、図版 15～17 に示した。

遺物は全体に摩滅しており、原位置から移動していることを窺わせる。出土範囲は、①試掘対象地南西部の緩斜面（13Ｔ、20Ｔ及び 19Ｔと 20Ｔの間）、②試掘対象地東部の緩斜面（27～31Ｔ、46Ｔ）、③試掘対象地北東部の斜面（40Ｔ、42Ｔ、51Ｔ）の３つに大きく区分できる。

①については、斜面上方に位置する 20Ｔ付近の出土・表面採集量が多い一方、斜面下方の 13Ｔは出土数も少なく破片も小さいことから、19Ｔ･20Ｔより斜面上方から流れ込んだと考えられる。19Ｔの真北に接する尾根は地形の改変が著しく、集落遺跡等が存在していたとしても遺構が残っている可能性はほぼないと考えられるが、農業基盤整備事業計画地外で現在宅地となっている 20Ｔ北側の緩斜面には、何らかの遺構が残っている可能性も残る。出土・採集遺物には、中世を中心とする時期のものと目される土師質土器と、縄文時代晩期のものと目される刻目突帯文土器があり、両時代の断続的な利用が想定される。

②については、③との間に遺物が全く出土しないことや、①で遺構が存在する可能性があると考えた 20Ｔ北側の緩斜面と連続する位置にあることから、①と一連の集落遺跡等が存在した可能性が考えられる。ただし、試掘調査及び現地形観察の結果からは、②の範囲は過去の水田造成等によって旧地形が大きく削剥・改変されていることが予想され、遺構等は残存していないものと判断した。出土遺物には糸切底の土師質土器のほか、サヌカイトの剥片や 20Ｔ出土刻目突帯文土器と類似した胎土の土器も認められることから、①と同様に中世と縄文時代晩期を中心とする時代に属すると推測される。

③についても遺物が摩滅した細片である事に加え、現在の水田が造成される前の地形はかなり起伏が激しかったと予想されることから、斜面上方からの流れ込みと判断した。流入元としては、

農業基盤整備事業計画地外（現在宅地）となっている③範囲北側の平坦面が考えられる。時期については、出土した須恵器、土師質土器いずれも細片であり、古墳時代以降としかいうことができない。

令和２年度出土遺物について

令和２年度は堀工区の試掘調査を実施した。出土地・層位及び出土遺物の内容は表８の通りである。出土遺物は全点を写真撮影し、図版 18～23 に示した。

出土遺物は全体に摩滅しており、原位置から相当距離移動していることを窺わせる。試掘調査対象範囲の全体からまんべんなく出土しており、上層からの攪乱と推測される 22Ｔ－２Ⅲｂ層を除いて磁器が認められない事などから、中世を中心とする時期のものと判断した。奢侈品の位置付けが可能な青磁など、隣接する御薗宇城跡との関連を窺わせる遺物も認められるが、当該城跡より明らかに斜面上方から出土するものも多く、遺構に伴うものもないため直接の関係を保証することはできない。10Ｔや 22Ｔ－１でやや遺物の量が多いことを重視すると、本年度試掘対象範囲の北側に集落遺跡等が存在した可能性が考えられる。

令和３年度出土遺物について

令和３年度は堀工区の北部で試掘調査を実施した。出土地・層位及び出土遺物の内容は表８の通りである。出土遺物は全点を写真撮影し、図版 24～26 に示した。25Ｔでは、完形品あるいはそれに近い残存率の、土師質土器の杯及び皿が出土している。過年度報告書[1]で紹介しているが再掲する。

杯（図版 24　１・２）

１は口径 11.6cm（復元）、底径 7.7cm、器高 3.7cm。色調は内面がにぶい褐色（7.5YR6/3）、外面が橙色（7.5YR7/6）。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は面取りがされている。内外面とも回転ナデ調整で、底面に時計回りの回転糸切り痕が残る。２は底部。底径 8.6cm、残存高 2.4cm。色調は内外面とも橙色（5YR6/6）。内外面とも回転ナデ調整で、底面に時計回りの回転糸切り痕が残る。

皿（同３・４）

３は小皿。口径 7.8cm、底径 6.2cm、器高 2.3cm。色調は内外面とも橙色（7.5YR6/6）。内外面とも回転ナデ調整で、底面に時計回りの回転糸切り痕が残る。４も小皿。口径 8.0cm、底径 6.2cm、器高 2.2cm。色調は内外面とも橙色（7.5YR6/6）。内外面とも回転ナデ調整で、底面に時計回りの回転糸切り痕が残る。

その他の破片資料をみても、器種の特定は困難だが底部が回転糸切り底で、底径比（口径に対する底径の大きさの比）が大きく体部が直立気味の器形のものである点は共通して認められる。本出土地の属する西条盆地を対象とした永田千織らの編年案[2]に照らすと、１・２のような底径比が大きく体部が直立気味の形態の杯は第Ⅲ期（13 世紀末～15 世紀前半）に多く認められると

され、皿についても３・４のように底径比が大きく体部が直立気味の形態のものは第Ⅲ期にも認められる。資料数は限られるものの、第Ⅳ期以降の特徴とされる、底径比が小さく体部が大きく開くような杯・皿がみられないことも踏まえると、25Ｔ出土土器については 13 世紀末～15 世紀前半に属する可能性が高いと考えられる。

その他の試掘坑から出土した遺物は、磁器が認められない事などから中世を中心とする時期のものと判断したが、概して細片で摩滅も著しいことから、原位置から相当距離移動していることを窺わせる。令和２年度に試掘調査を実施した 10Ｔ・22Ｔ－１の出土遺物については、25Ｔを中心とする範囲で確認した遺跡が流出元であることが推測されるが、谷を隔てて西に離れた 35Ｔでも少量の遺物が出土しており、本事業範囲の北方に集落遺跡等が存在した可能性が考えられる。

註

⑴　広島県教育委員会　2023「２　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）に係る試掘調査」『令和３年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書』、21-59 頁。

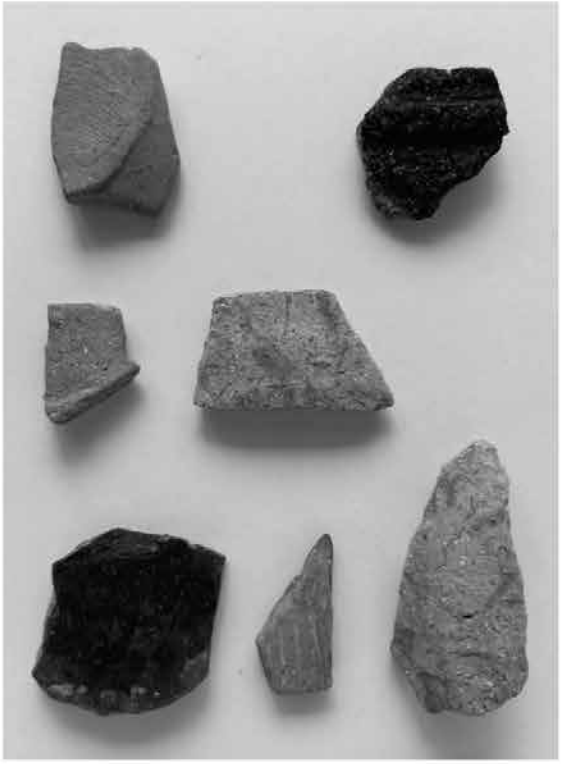
⑵　永田千織・藤野次史　2015「安芸地方における土師質土器坏・皿類の研究（下）」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』６号 広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門、1-70 頁。

表７　農業競争力強化基盤整備事業（北工区）計画地内 令和元年度試掘調査 遺物出土地・層位及び出土遺物一覧

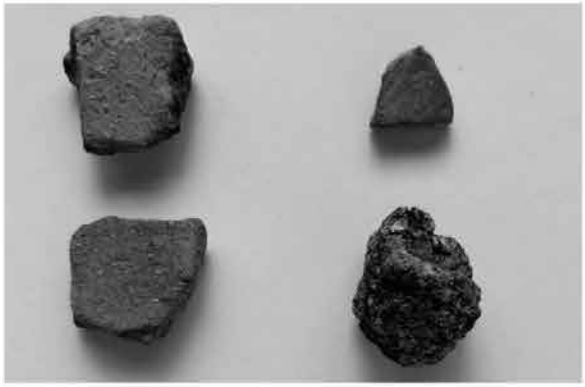
	出土地・層位	遺物
令和元年度試掘調査	13Ｔ　Ⅱ層上面	土師質土器（糸切底）
	20Ｔ　Ⅱａ・Ⅱｂ層	土師質土器（糸切底　口縁部）
	20Ｔ　Ⅲ層	縄文土器（刻目突帯文　縄文晩期）
	19Ｔと 20Ｔの間　表面採集	弥生土器口縁部か
	27Ｔ　Ⅲ層	土師質土器？
	28Ｔ　Ⅲ層	土師質土器？
	29Ｔ　Ⅲ層	土師質土器？
	27～29Ｔの水田　表面採集	サヌカイト剥片
	30Ｔ　Ⅲ層	土師質土器（糸切底）
	31Ｔ　Ⅲｂ層	土師質土器（糸切底）、須恵器
	40・42Ｔ水田　表面採集	須恵器、土師質土器
	46Ｔ　Ⅲ層	土師質土器
	51Ｔ　Ⅰｂ層	須恵器、土師質土器
	51Ｔ水田　表面採集	須恵器、土師質土器

表８　農業競争力強化基盤整備事業（堀工区）計画地内 令和２・３年度試掘調査 遺物出土地・層位及び出土遺物一覧

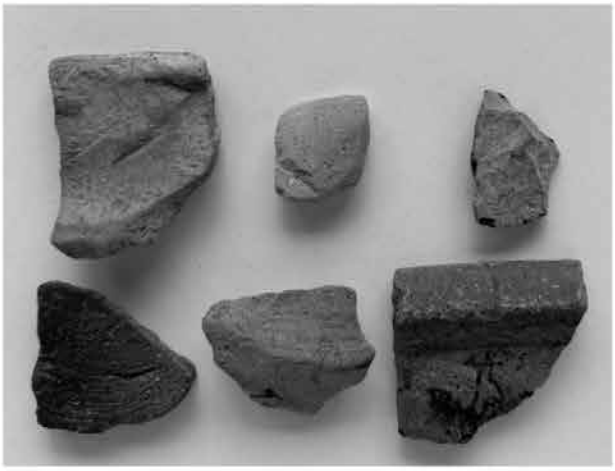
	出土地・層位			遺物
令和二年度試掘調査	御薗宇城跡東側	２Ｔ－１	３層	土師質土器（細片）
			５層	土師器（口縁部含む）
	御薗宇城跡南側	６Ｔ－１	７層	土師質土器（糸切底）
		７Ｔ－１	西端６層	須恵器（外面タタキ）
		８Ｔ－１	５層	土師器
		８Ｔ－２	２層	土師質土器（細片）
			３層	土師質土器（糸切底含む）、須恵器（細片）
		９Ｔ－１	２層(近現代客土)	土師質土器（皿、糸切底）
			９層	土師質土器（糸切底）
		９Ｔ－２	７層	土師質土器（杯、糸切底）
			８層	土師器
			10 層	土師質土器（糸切底）
	御薗宇城跡西側	10Ｔ	中の辺り　２層	陶器（備前か）、土師質土器（糸切底、土鍋口縁部など）
		11Ｔ－１	３層	土師質土器（糸切底）、鉄器
	御薗宇城跡堀跡	19Ｔ－１	３層	青磁、土師質土器
			４層	土師質土器
			９層	陶器
		20Ｔ－１	１層 or２層直上	土師器
		20Ｔ－２	10 層	土師質土器　土鍋口縁部
	御薗宇城跡北側	22Ｔ－１	黒色土	土師器（高杯脚部ほか）
		22Ｔ－２	耕作土	磁器（染付）、陶器
			３層	緑色岩（磨製石斧の未成品？）
			Ⅲｂ層(原図４層)	陶器（唐津焼　皿）、須恵器（外面タタキ）
		23Ｔ	耕作土	土師質土器（糸切底）
		24Ｔ	灰褐色土の最下部	土師質土器
令和三年度試掘調査	25Ｔ		Ⅱａ層	土師質土器。完形品の杯・皿を含み、破片も摩滅が少ないなど、原位置からあまり大きく移動していないと推測される。
	26Ｔ－１		Ⅱ層	土師質土器（細片、摩滅が著しい）
	27Ｔ－１		Ⅱａ層	土師質土器（糸切底破片、摩滅が著しい）
	27Ｔ－２		Ⅱａ層	土師質土器（細片、摩滅が著しい）
			Ⅱｂ層	須恵器（口縁部） 土師質土器（部位不明の破片、摩滅が著しい）
	28Ｔ－２		Ⅱａ層	土師質土器（部位不明の破片、摩滅が著しい）
			Ⅱｂ層	土師質土器（部位不明の破片、摩滅が著しい）
	35Ｔ		Ⅲａ層	土師質土器（鍋口縁部を含む、摩滅が著しい）



a　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（左上１点：13ＴⅡ層、右上１点：20ＴⅢ層、下５点：20ＴⅡ層）



b　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（19Ｔと 20Ｔの間 表面採集）



c　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（上段左２点：29ＴⅢ層、上段右端１点：27 ～ 29Ｔ水田表面採集、下段左端１点：30ＴⅢ層、下段右２点：31ＴⅢｂ層）

c　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（上２段５点：27ⅠⅢ層、下２段４点：28ⅠⅢ層）

b　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（上・中段４点：40・42Ⅰ水田表面採集、下１点：46ⅠⅢ層）

a　令和元年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（上３点：51ＴＩｂ層、下２点：51Ｔの水田表面採集）

a　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（上段左２点：２Ｔ３層、上段右２点：２Ｔ５層、中段左：６Ｔ７層、中段右：７Ｔ－１西端６層、下段：８Ｔ－１　５層）

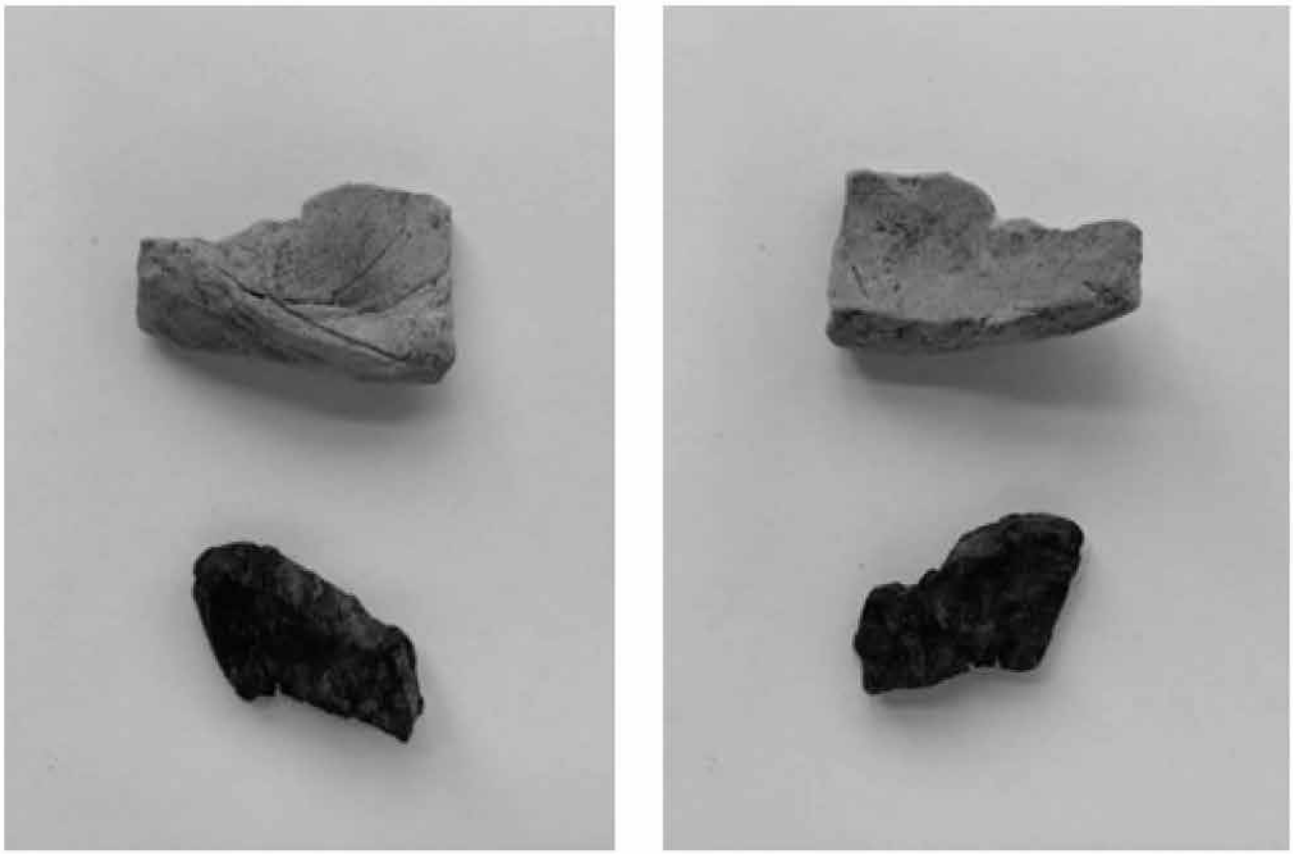
b　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（上段：８Ｔ－２　２層、中・下段：８Ｔ－２　３層）

a　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（９Ｔ－１　２層　土師質土器皿）

b　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（左上：９Ｔ－１　９層、右下：９Ｔ－２　７層）

c　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（左：９Ｔ－２　８層、右：９Ｔ－２　10 層）

a　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（10Ｔ出土遺物）

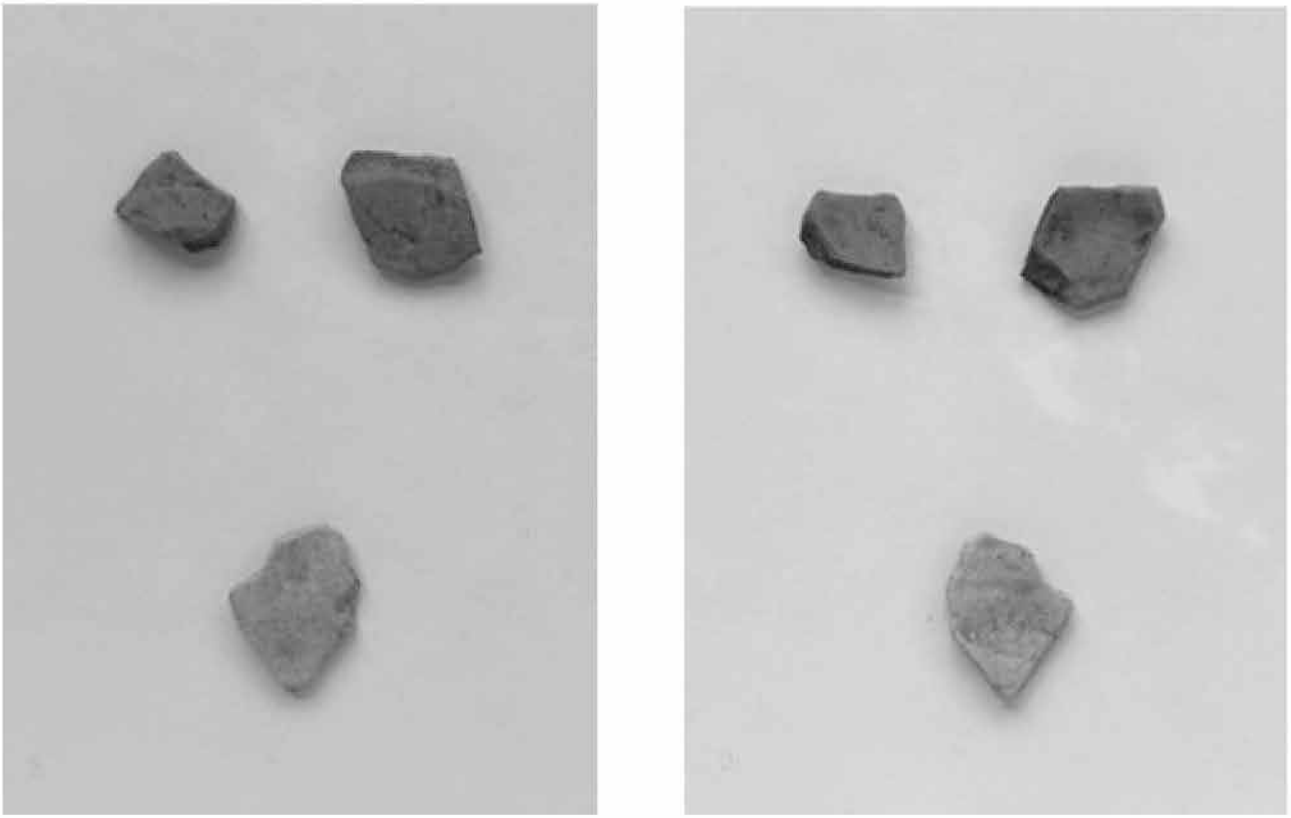


b　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（11Ｔ－１）

令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（左上６点：19Ｔ－１　３層、左下７点：19Ｔ－１　４層、右下１点：19Ｔ－１　９層）

令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（左上１点：20Ｔ－１、左下１点：20Ｔ－２、右９点：22Ｔ－１）

a　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（上２点：22T－２耕作土、左下２点：22T－２　４層、右下１点：22T－２　３層）



b　令和２年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（上２点：23T、下１点：24T）

令和３年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（25ＴⅡａ層）
（土師質土器。番号は広島県教育委員会 2023『令和３年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書』第 12 図と対応。）

令和３年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）（25ⅠⅡａ層、土師質土器・陶器〔右上１点〕）

a　令和３年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（左上２点：26T－１　Ⅱ層、右上１点：27T－１　Ⅱａ層、左下２点：27T－２　Ⅱａ層、右下５点：27T－２　Ⅱｂ層）

b　令和３年度試掘調査出土遺物（縮率約２：３）
（左上１点：28T－２　Ⅱａ層、右上１点：28T－２　Ⅱｂ層、下６点：35T　Ⅲａ層）

４　一般県道瀬野呉線道路改良事業（要試掘地点№６）に係る試掘調査

所　在　地：安芸郡熊野町上深原～下深原

調 査 目 的：一般県道瀬野呉線道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲確認

開発事業者：広島県西部建設事務所

調査年月日：令和５年３月 14 日・15 日

調査対象面積：1,168 ㎡

調 査 結 果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調 査 概 要：

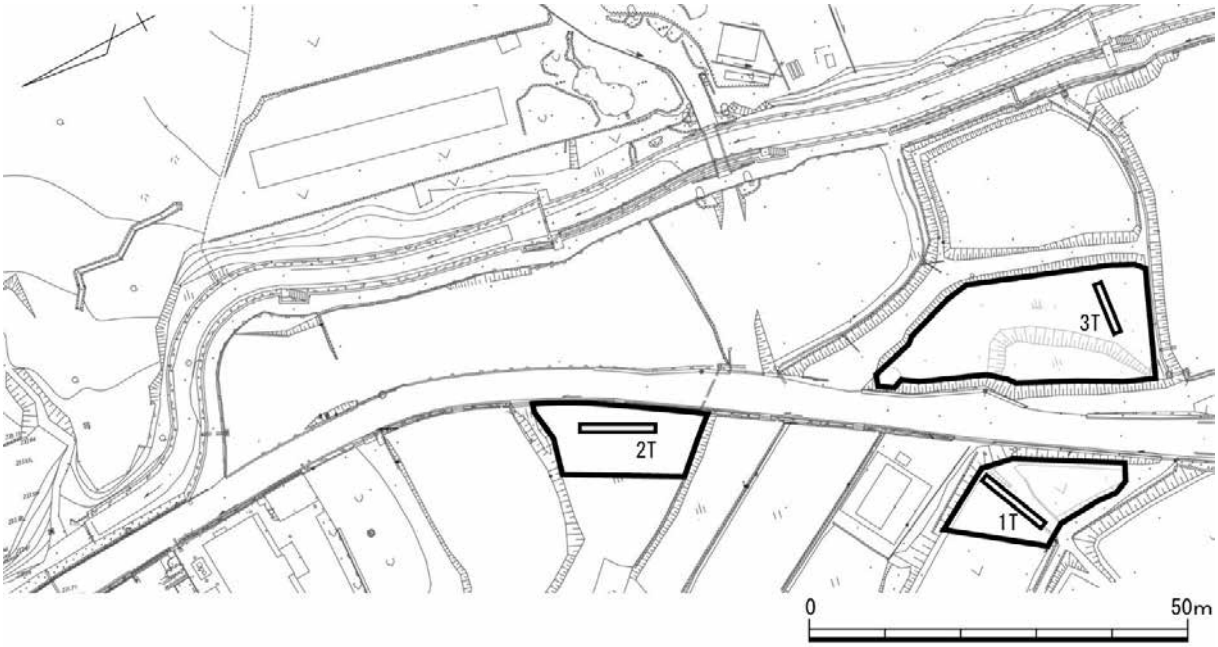
当該事業計画地の試掘・確認調査は平成 26 年度から実施してきた（要試掘地点 No. １～５、いずれも埋蔵文化財包蔵地なし）。令和４年度は要試掘地点 No. ６を調査し、当該事業計画地の試掘・確認調査を全て完了した。

要試掘地点 No. ６の近隣では、旧石器時代の局部磨製石斧が出土した東深原遺跡、中近世の土師質土器が出土した下深原遺跡が所在する。両遺跡ともに遺構は確認されていないが、周囲に集落跡等が存在する可能性があることから、要試掘地点№６も試掘調査の対象となった。本試掘調査は試掘坑を３か所設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

１Ｔでは、埋蔵文化財を確認できなかった。現地は、西から東にのびる丘陵緩斜面に位置する。工事計画地になる前は、棚田として区画整理された場所である。現地形を形成した表土・造成土の下からは、西から東に下る旧地形の表土（Ⅱ層）を確認した。トレンチ西半のⅡ・Ⅲａ層は、

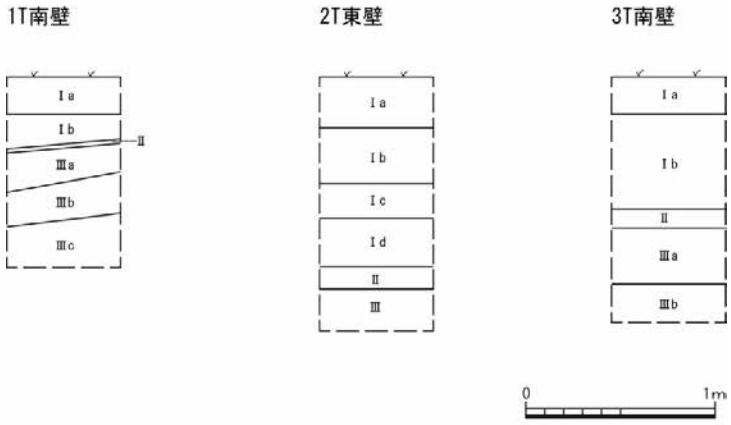
1 下深原遺跡　2 東深原遺跡　※本試掘調査に関連する遺跡のみ表示

第15図　一般県道瀬野呉線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1:25,000）
（国土地理院１：25,000地形図「海田市」図幅を使用）



第16図　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地　試掘坑位置図（1：1,000）

棚田造成の際に削平されている。Ⅱ層及びその直下からは遺構・遺物が見つからず、樹木の根痕も認められるため、時期は不明だが、原野であったと考えられる。Ⅲａ層以下は自然堆積土であり、Ⅲｃ層で花崗岩風化岩盤の基盤層を確認したため掘削を停止した。



第17図　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地土層断面図（1：40）

２Ｔでは、埋蔵文化財を確認できなかった。現地は、南西から北東にのびる丘陵から下った河岸段丘面に位置し、北東側には深原川が流れている。工事計画地になる前は棚田として区画整理された場所であり、近現代に何度も造成が行われていることを確認した。造成土（Ⅰｂ～Ⅰｄ層）の下からは、樹木根が多数残る旧表土（Ⅱ層）を検出したが、Ⅱ層およびその直下から遺構・遺物は見つからず，時期は不明だが、原野であったと考えられる。Ⅱ層の下からは河川由来の水成堆積土（Ⅲ層）を検出した。これより下層で人類活動痕跡が残っている可能性は極めて低いため、掘削を停止した。

３Ｔでは、埋蔵文化財を確認できなかった。現地は、西から東にのびる丘陵から下った河岸段丘面に位置し、東側には深原川が流れている。工事計画地になる前は畑地であり、この畑地形成のための造成土が 50 ㎝近く堆積している。造成土の下からは、樹木根が多数残る旧表土（Ⅱ層）を検出したが、Ⅱ層およびその直下からは遺構・遺物は見つからず、時期は不明だが、原野であったと考えられる。Ⅱ層の下からは自然堆積土（Ⅲａ層）及び河川由来の水成堆積土（Ⅲｂ層）を検出した。これより下層で人類活動痕跡が残っている可能性は極めて低く、湧水もあったため、掘削を停止した。

表９　一般県道瀬野呉線道路改良事業計画地試掘坑所見

トレンチ No.	規模（長さ×幅×最大深さ，単位ｍ）	調査所見
１Ｔ	10.0×1.0×1.02	≪南壁≫ Ⅰａ層　表土 Ⅰｂ層　現代の造成土　にぶい黄褐(10YR5/4)粗砂 Ⅱ　層　旧表土　褐灰(10YR5/1)粗砂　樹木痕あり Ⅲａ層　自然堆積土　明黄褐(10YR6/6)細砂 Ⅲｂ層　自然堆積土　黄褐(10YR5/6)粘性細砂　10 ㎝大の礫多含 Ⅲｃ層　基盤土　明黄褐(2.5Y6/6)細砂　10～30cm 大の風化礫多含　花崗岩風化岩盤
２Ｔ	10.0×1.0×1.35	≪東壁≫ Ⅰａ層　表土 Ⅰｂ層　現代の造成土　にぶい黄橙(10YR7/2)粗砂 Ⅰｃ層　現代の造成土　灰黄褐(10YR5/2)粗砂　空きビンあり Ⅰｄ層　近現代の造成土　褐灰(10YR4/1)粘性細砂 Ⅱ　層　旧表土　にぶい黄橙(10YR7/2)砂と黒褐(10YR3/1)の互層　樹木根多数残る Ⅲ　層　河川由来の水成堆積土　灰黄褐(10YR6/2)砂　20 ㎝大の礫多含
３Ｔ	7.0×1.0×1.30	≪南壁≫ Ⅰａ層　表土 Ⅰｂ層　現代の造成土　オリーブ黒(10Y3/1)　空き缶あり Ⅱ層　旧表土　黒(10YR2/1)粘性細砂　樹木根多数残る Ⅲａ層　自然堆積土　褐灰(10YR4/1)粘性細砂 Ⅲｂ層　河川由来の水成堆積土　褐灰(10YR6/1)砂　10～20 ㎝大の礫多含 （湧水のため、掘削停止）

a　１Ｔ（北西から）

b　２Ｔ（北から）

c　３Ｔ（東から）

附　編

１　広島県廿日市市針山地区採集遺物について－冠遺跡群発掘調査事業　補遺－

はじめに

広島県教育委員会では平成３（1991）年度から平成 12（2000）年度まで、県内に所在する重要遺跡の保存対策立案を目的として、佐伯郡吉和村（現・廿日市市）・佐伯町（同）・山口県玖珂郡錦町（現・岩国市）にまたがって所在する冠遺跡群の発掘調査事業を実施した。本稿で紹介する資料は平成５（1993）年に、当該事業の一環で行った周辺地域の分布調査の過程で採集されたものである。採集品には安山岩の原石と石器資料があり、原石については藁科哲男氏に蛍光Ｘ線装置による分析[1]を委託し、同氏が過去に分類・命名した「飯山群」と微量成分比が一致する旨を公にするとともに[2]、当該遺跡の存在について広島県遺跡地図における周知[3]等を行ってきた。資料の全体像や詳細な内容については未公表のままとなっていたが、このたび遺物の図化や記録類の整理作業を実施したため、報告するものである。

本稿作成に際しては、本遺跡の発見者である下瀬洋一氏（故人）の協力と御教示によるところが大きい。氏の生前に本稿をまとめることができなかった失礼をお詫びするとともに、深く感謝の意を表する次第である。

遺跡の位置（第 18 図）

西中国山地中央の広島・島根・山口県境に位置する冠山は、打製石器の石材として広範囲に流通している安山岩類[4]の噴出源として知られているが、その南側にも現在の広島・山口県境となっている尾根の脊梁部に分布域が続き、それらの尾根を源流とする沢や河床などに安山岩類の転石を認めることができる。

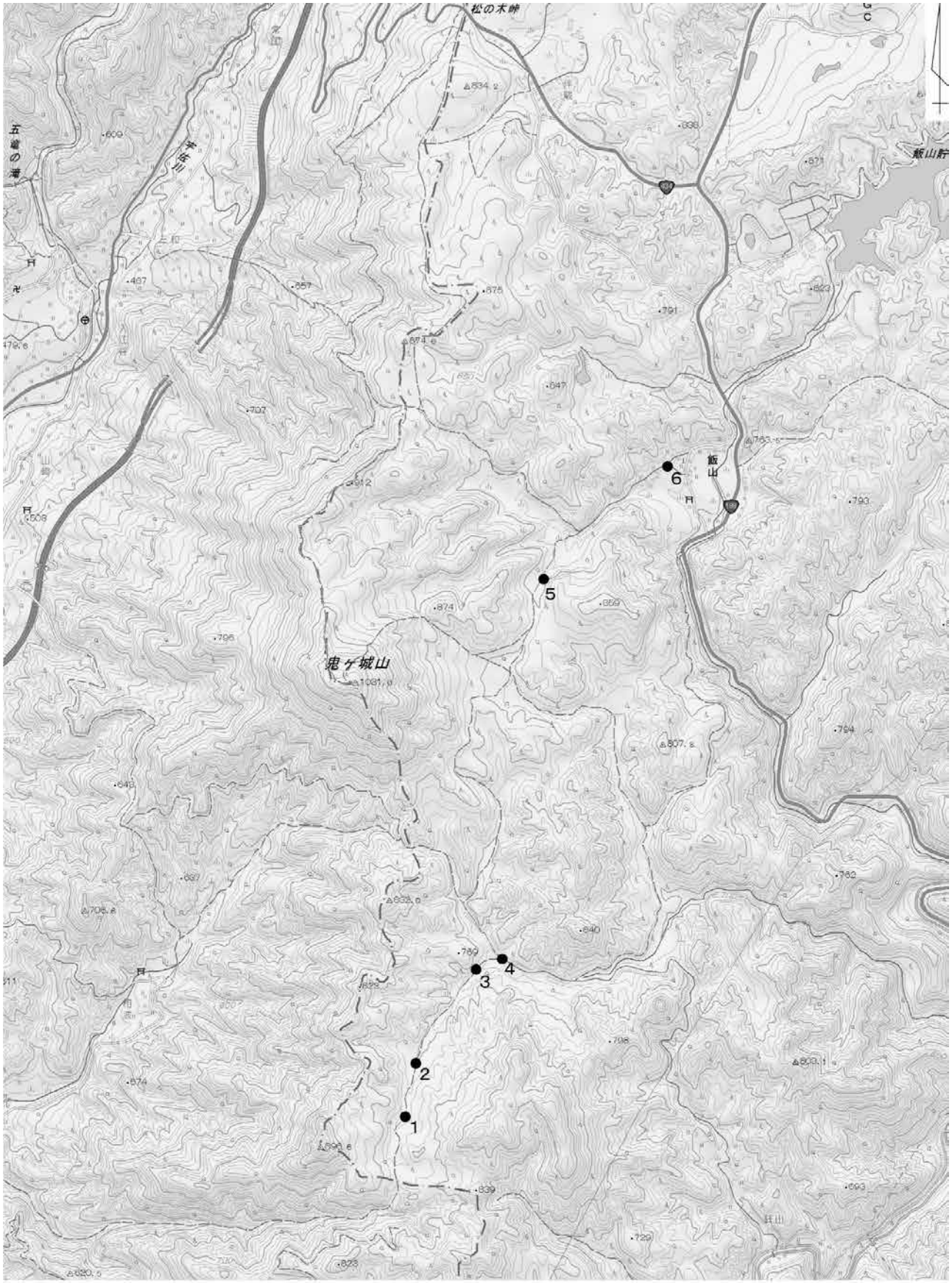
お鉢山遺跡は脊梁東側の沢に沿って分布しており、Ａ～Ｄ地点は鬼ヶ城山南側、Ｅ地点は鬼ヶ城山東側の、小瀬川水系の小河川に沿う狭い谷底に立地している。遺物は林道道路敷の、表層部の土壌が削剝された範囲で認められた。遺跡の範囲は周囲に広がっていると予想されるが、道路外は地表面が露出しておらず、地下の遺物包含状態を確認することができなかった。また林道部分も含めてかなりの傾斜地にあることから、地形から遺跡の範囲を推測することも難しかった。

大河遺跡はさらに北方の、飯山集落のある盆地中央部の、小河川に面した微高地上に位置する。

遺物について

採集品全体の概要、石質、風化度

各遺跡・地点での採集品は、合計 228 点である。ただし、お鉢山遺跡Ａ地点では安山岩の露頭の確認にとどまり、人為物は採集できなかった。採集品の説明に先立って、石材の分類について述べておく。



1 お鉢山遺跡Ａ地点　2 お鉢山遺跡Ｂ地点　3 お鉢山遺跡Ｃ地点　4 お鉢山遺跡Ｄ地点　5 お鉢山遺跡Ｅ地点　6 大河遺跡

第18図　各遺跡位置図（１：25,000）（国土地理院１：25,000地形図「宇佐郷」「安芸冠山」図幅を使用）

採集品は全て冠地域産と推測される安山岩である。肉眼観察により、石質を次のように分類した。

Ｉａ類　冠遺跡群分類[5]のＩａ類と同じ。風化が進行した剥離面は暗青灰色で、淡い青灰色の縞模様が見えるものもあるが概して均質・緻密で夾雑物も少ない。礫面は概して凹凸が少なく、梨肌状を呈するものもある。過去に藁科哲男氏による蛍光Ｘ線分析で「飯山群」と判定された遺物はたいていこの石質である。

Ｉａ２類　冠遺跡群出土遺物ではほぼ目にすることのない石質である。Ｉａ類に比べて明るい色調で、風化が進んだ剥離面はやや灰色みを帯びた暗青灰色である。縞模様はほとんど見えないが石理が発達しており、石理と交差する方向の剥離面では剥離の進行方向が不規則に変化したり、随所にハックル[6]が生じていたりする。

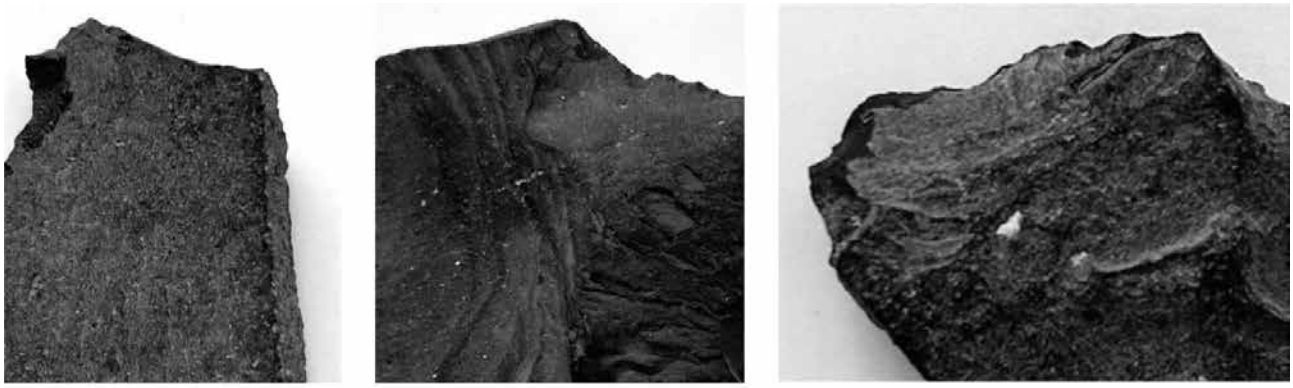
Ｉｂ類　冠遺跡群分類のＩｂ類と同じ。風化が進行した剥離面はＩａ類よりやや明るい青灰色である。縞模様も明瞭で夾雑物の量も多い。

Ｉｃ類　冠遺跡群分類のＩｃ類と同じ。風化が進行した剥離面はＩｂ類よりさらに明るい灰色で、やや暗い青灰色の縞模様が認められる。夾雑物の量も多い。

また、採集品の剥離面の風化度には差異が認められる。採集品の人為性や帰属時期を検討する手がかりになると考え、次のように分類した。

風化度Ａ　風化が進行し、冠遺跡群の後期旧石器時代遺物と同等の風化度を呈する。

風化度Ｂ　風化度はＡに比べて弱く、黒っぽい色で光沢もあるが、新鮮な剥離面（後述Ｃ）と



Ｉａ類　Ｉａ２類　Ｉｂ類

写真１　石質分類（縮率不同）

風化度Ａ　風化度Ｂ（画面下側の剥離面は風化度Ａ）　風化度Ｃ　風化度Ｄ

写真２　風化度分類（縮率不同）

比較すると若干風化していることが分かる。冠遺跡群などの縄文時代の遺物と同等の風化度を呈する。

風化度Ｃ　全面が黒色で光沢のある、新鮮な剥離面。

風化度Ｄ　一見風化が進行したような色調を呈するが、剥離面全体に斑点状の荒れや無数の傷、稜上に磨滅や多数のパーカッションマークなどが認められ、転磨を受けて表面が変化したと考えられる。

お鉢山遺跡Ｂ地点

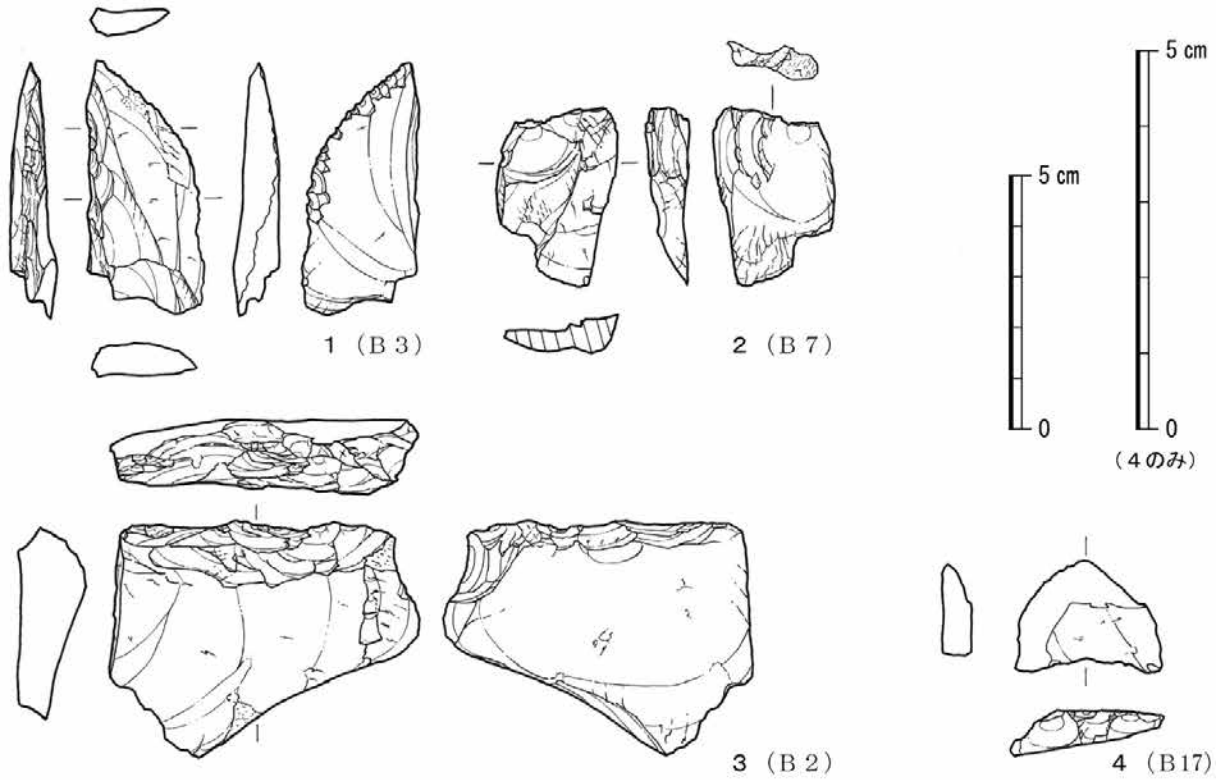
採集品は 50 点ある。内訳は、削器１点、剥片・砕片[7] 42 点、破砕礫３点である。石質は、一定以上の大きさを有し分類できたものは全て安山岩Ｉａ類で、表面の風化度はＡが 18 点（分類できたものの総数 40 点の 45%。１点の遺物に複数の風化度が認められる場合は風化度の高い方に算入した。以下同。）、Ｂが 19 点（47.5%）、Ｃが３点（7.5%）である。

削器（第 19 図１）

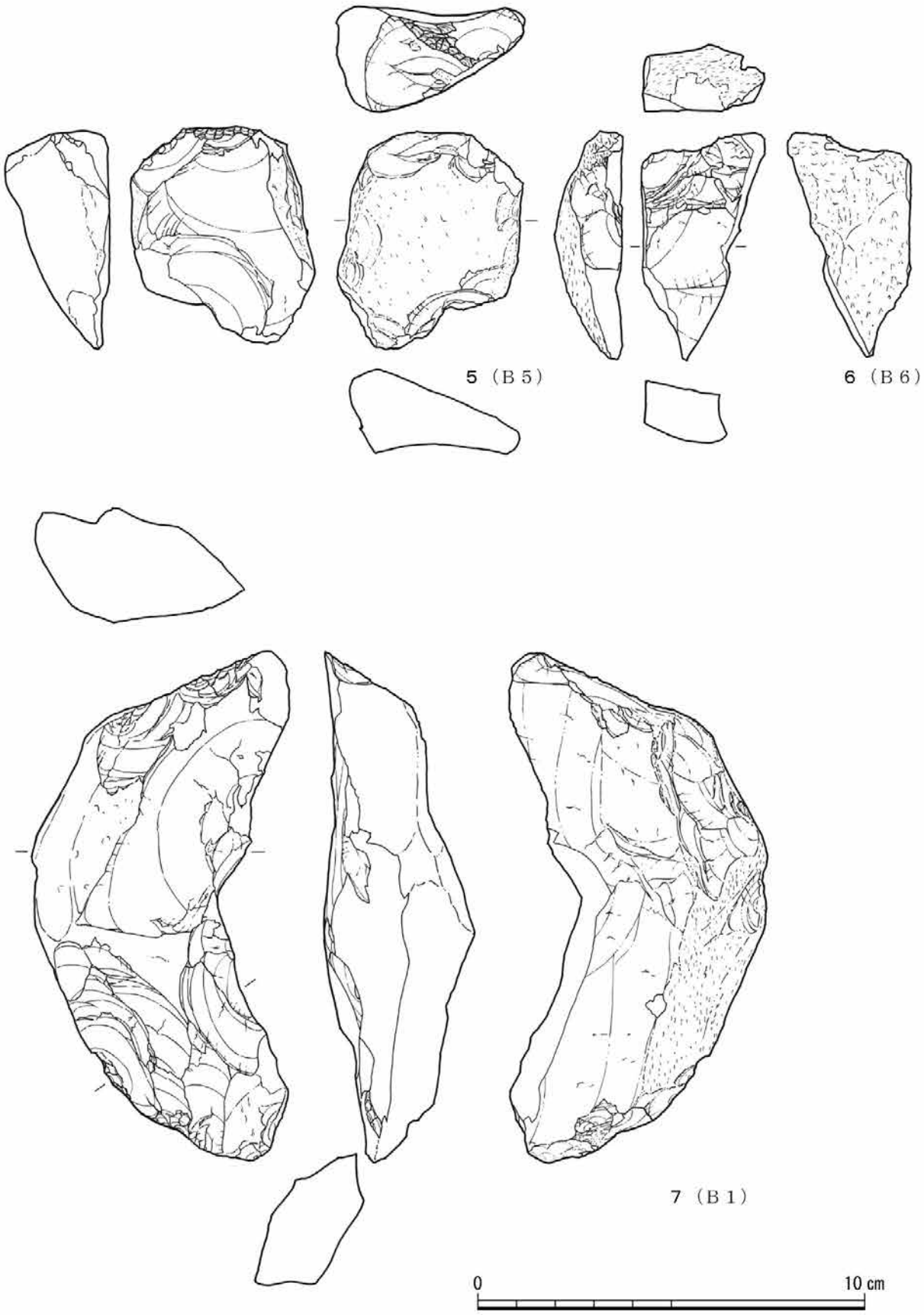
腹面左側縁に浅く二次加工を施し機能部としている。二次加工は打点の間隔が空いて剥離面の重なりが小さくなっており、刃縁部がわずかに波打つ。背面左縁部は素材剥片を折断した後、折断面に生じたウートゥル・パッセを除去するような急角度の二次加工を施している。

剥片（第 19 図２・３）

背面の剥離面構成が単純でごく小形のものが大部分を占め、剥片剥離技術の特徴を窺い知ることのできるものは少ない。



第19図　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物１（４のみ１：１、その他２：３）



第20図　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物２（２：３）

２は縦長の形状を呈するが､腹面左側縁末端部が石理の影響を受け蝶番状になったためであり、元々縦長剥片を意図したとは思えない。背面は主要剥離面と同方向の剥離である。打面に礫面が一部残る。

３は背面下部に石核素材面と考えられる平坦な剥離面が認められ、板状の剥片素材石核から剥離されていると推測される。背面上側縁から打面側への細かい剥離が施され、打面が山形になっているが、翼状剥片の剥離を意図した可能性もあるが、背面上部の先行作業面が複数の小さな剥離面で構成され、打点が左右に振れていると認められることから、翼状剥片に該当しないと判断した。

石核破片か（第 19 図４）

上側面の平坦な剥離面を打面として、複数の剥離が１㎝に満たない間隔で施される。打面と作業面のなす角度は急角度である。下側面は全面が後世の剥離面で元々の形状が分からず、上側面もネガ・ポジ不明で、ナイフ形石器、掻器、二次加工ある剥片等の可能性も考えられるが、打面に相当する上側面が平坦であることから一応、石核の打面縁の破片と考えておく。

石核（第 20 図５～７）

５は背面のほぼ全面が礫面である｡稜上にパーカッションマークが多数認められる平滑な面で、川で転磨を受けた亜円礫素材と推測される。上側面の剥離面を打面として、正面で剥片を剥離している。

打面縁に顕著な潰れが認められ若干鈍角気味の剥離である事、作業面の下側縁から表裏両面に対向する方向の剥離が入っている事から、両極打法で剥片を剥離したものと推測される。

６は裏面から上側面にかけて広く礫面が残る。礫面は角が丸みを帯び、亜円礫の分割礫あるいは剥片が素材と考えられる。上側縁から剥片を剥離したと同時に左側面が垂直割れを起こしたと推測される。

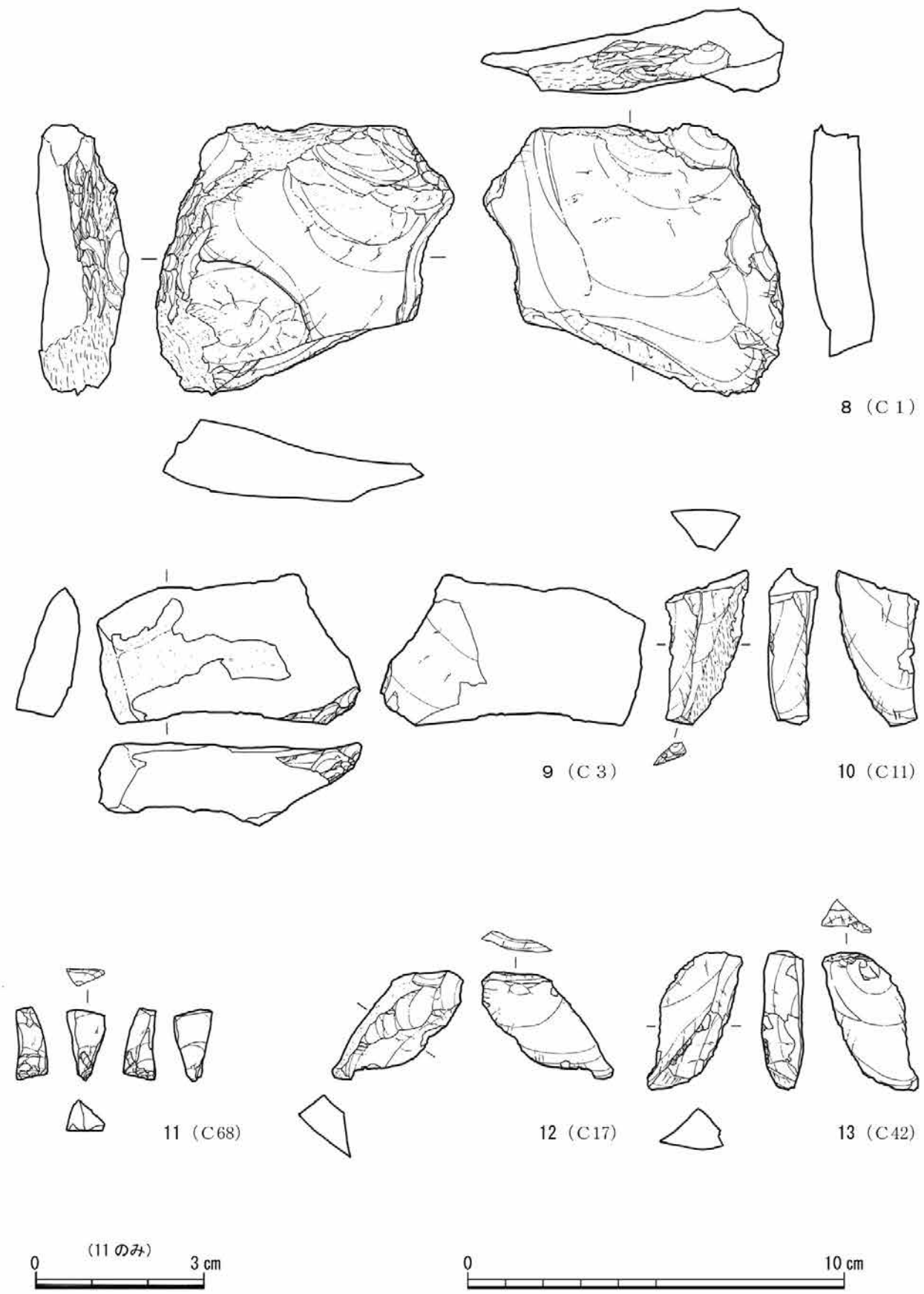
７は屈曲した角柱状の礫の周縁から対向方向に横長の剥片を剥離している。礫面は角が取れて丸みを帯び、パーカッションマークや潰れ状の剥離面も随所に認められることから、円礫を素材としていることが分かる。裏面にみられる剥離面も風化がやや進行し、稜が磨滅して丸みを帯びていることから転礫当時の自然破砕面と推測される。したがって、作業面は表側の一面に限定されているといえる。

お鉢山遺跡Ｃ地点

採集品は 138 点ある。内訳は、削器１点、二次加工ある剥片２点、楔形石器削片１点、剥片・砕片 117 点（破砕礫の可能性あるものも含む)、破砕礫 10 点、礫４点である。石質は、安山岩Ｉａ類が 130 点、Ｉａ２類が２点、Ｉｂ類が１点で、表面の風化度はＡが 46 点（総数 133 点の 34.6%)、Ｂが 73 点（54.9%)、Ｃが８点（6.0%)、Ｄが６点（4.5%）である。

削器（第 21 図８）

板状の剥片の背面左側縁にやや急角度の二次加工が施され、腹面右側縁にも平坦な二次加工が認められる。素材剥片の打面と背面左下側面に礫面が残り、素材剥片は礫を輪切りにするように



第21図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物１（11のみ１：１、その他２：３）

剥離されたものと推測される。剥離面は、風化が進行して灰色みの強い部分、風化度が弱く青黒色を呈する部分、後世に破砕した新鮮な面があり、風化の最も進んだ部分は原礫時の古い割れ傷と推測される。

二次加工ある剥片（第 21 図９・10）

９は大部分が新鮮な欠損面で、元々の形状は推測困難である。背面は平滑かつ稜上にパーカッションマークが無数に認められ､水流等により他の石などと頻繁に衝突した自然面と判断される。背面下側縁右端にやや急角度の二次加工が施されている。

10 は縦長の剥片の末端に背面側から急角度の剥離を施す。上部は欠損している。背面は右寄りに礫面が残り、その他は主要剥離面と同一方向の剥離面である。

楔形石器削片（第 21 図 11）

左右両側面の下側縁に潰れ状の剥離痕が認められ、上側面は折れ面である。主要剥離面は下から剥離が進行している。

剥片（第 21 図 12～第 23 図 30）

縦長のもの（12・13）と長幅比１：１前後ないしやや横長のもの（14～30）があり、後者の中には比較的大型・厚手かつ剥離面構成も単純で、原材からの粗割り過程で生じたと推測されるもの（28～30）が含まれる。

12 及び 13 は末端が細くなる、ねじれた縦長の形状を呈する。いずれも背面の剥離方向は主要剥離面と一致せず、偶然に縦長の剥片が生じたにすぎない可能性がある。13 の背面中央の稜上には潰れ状の小さな剥離面が連続しており、ローリングを受けた可能性がある。

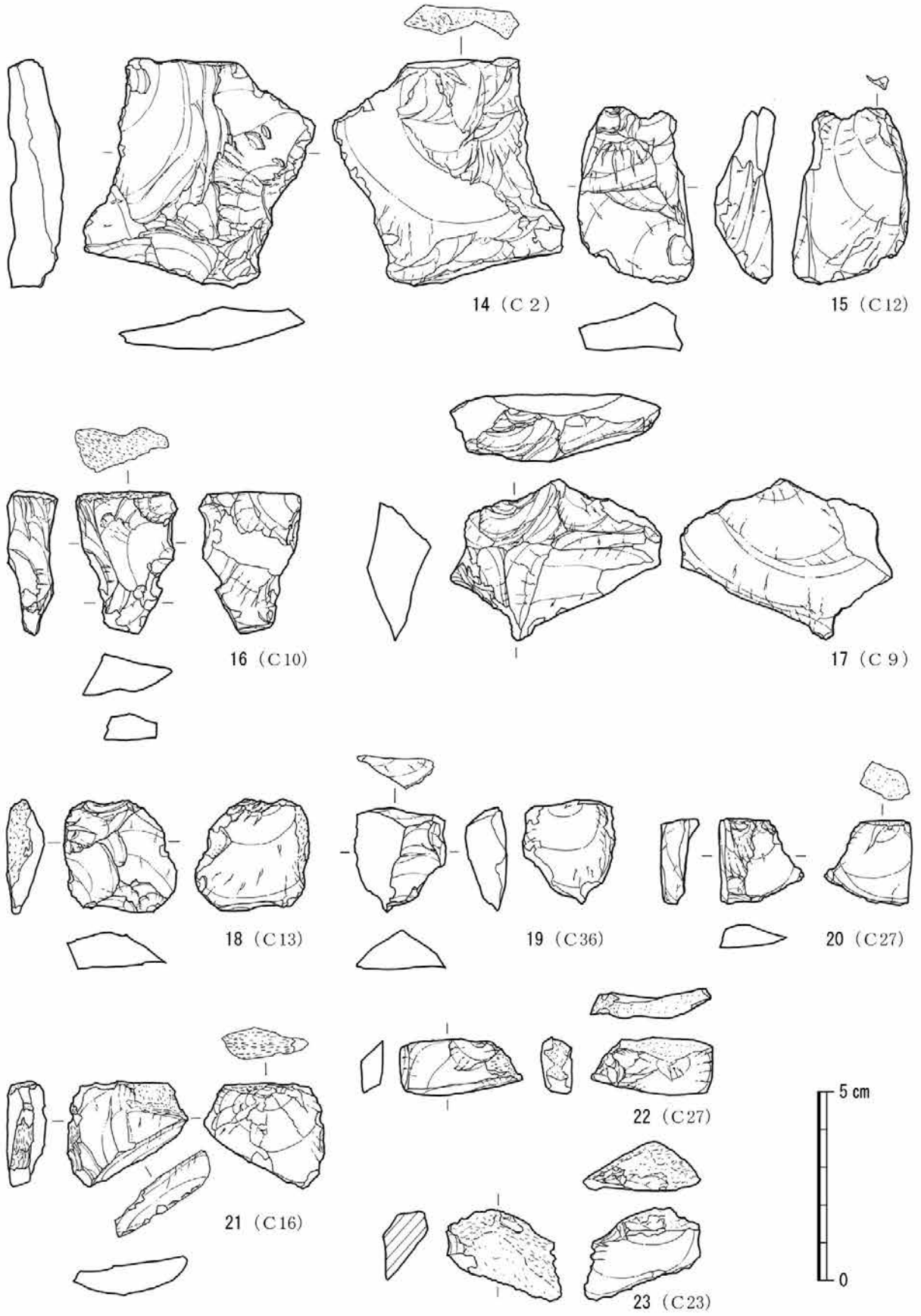
重複比１：１前後の一群のうち、14～19 は背面が複数の剥離面で構成されているが、主要剥離面とは剥離方向が一致せず、打面を頻繁に転位するような石核から生産されたことが窺われる。14・16 は石理の影響で、随所にハックルが認められる。16 は主要剥離面と同時に垂直割れを起こしたと推測される。

15 はやや縦長の形状であるが、主要剥離面の打点は腹面右端に寄っており垂直割れに近い。打面は単剥離面、背面下半部及び右側面は平坦で素材時の剥離面と推測される。背面の他の剥離面は主要剥離面と同一方向の剥離で、打面と作業面を固定して剥片剥離を行う石核から剥離されたものと推測される。

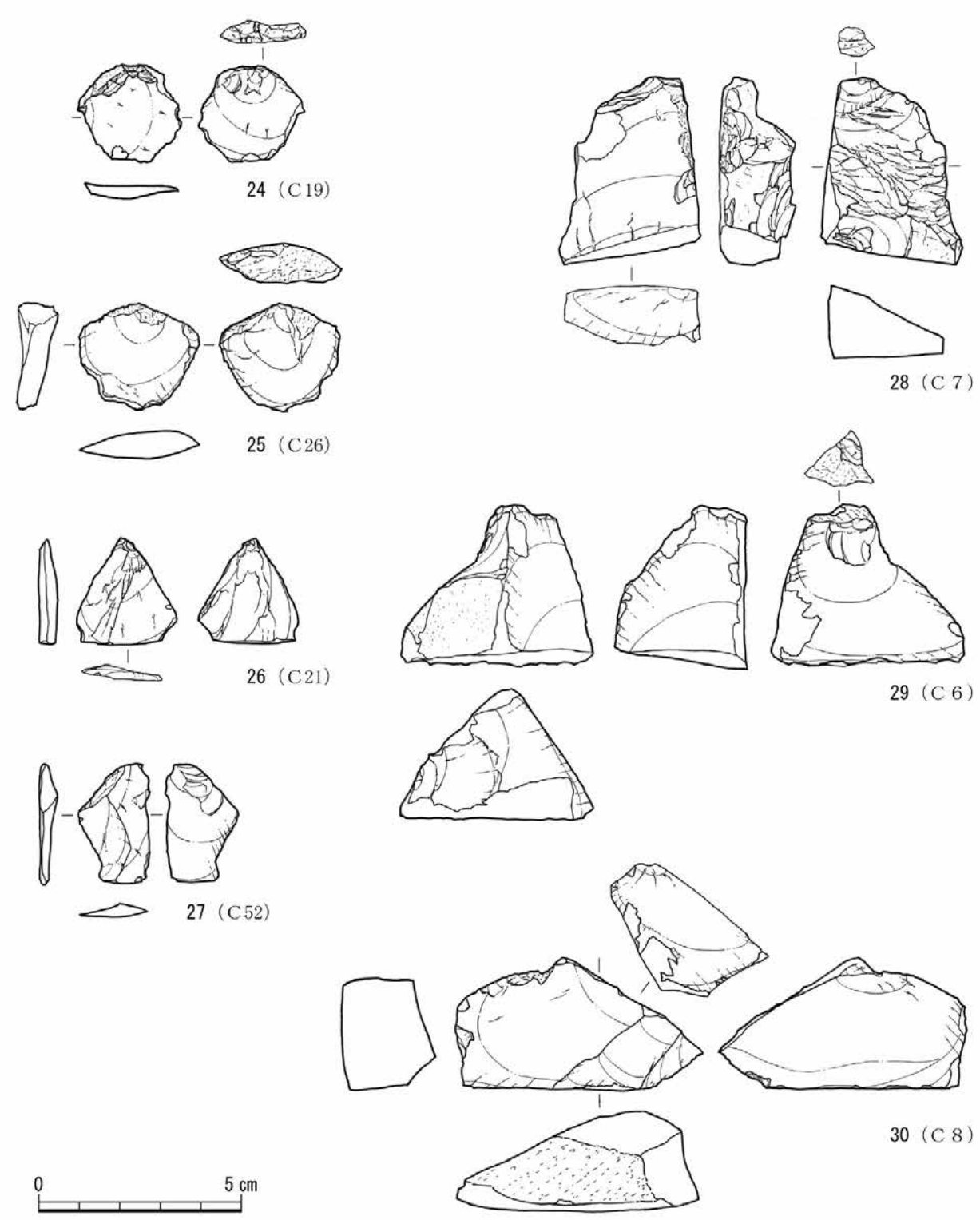
17 は、背面は風化が進行し青灰色、腹面は風化度が弱く黒みが強いが、背面縁辺部などに認められる後世の新鮮な剥離面に比べると風化している。背面と腹面の剥離に時期差があった（旧石器時代の遺物を縄文時代以降に石器素材として再利用した等）と推測され、背面は多方向からの剥離面で構成されており、求心状に剥片を剥離する石核から生産されたものと推測される。打面は点状である。

18 は線状打面で、剥片剥離の衝撃で打面が破砕したと推測される。背面の剥離面構成から、求心状の剥離を行うような石核から生産されたものと考えられる。

19 は背面左半部の広い範囲が新鮮な剥離面であるが、主要剥離面のリングの回り方から表面が



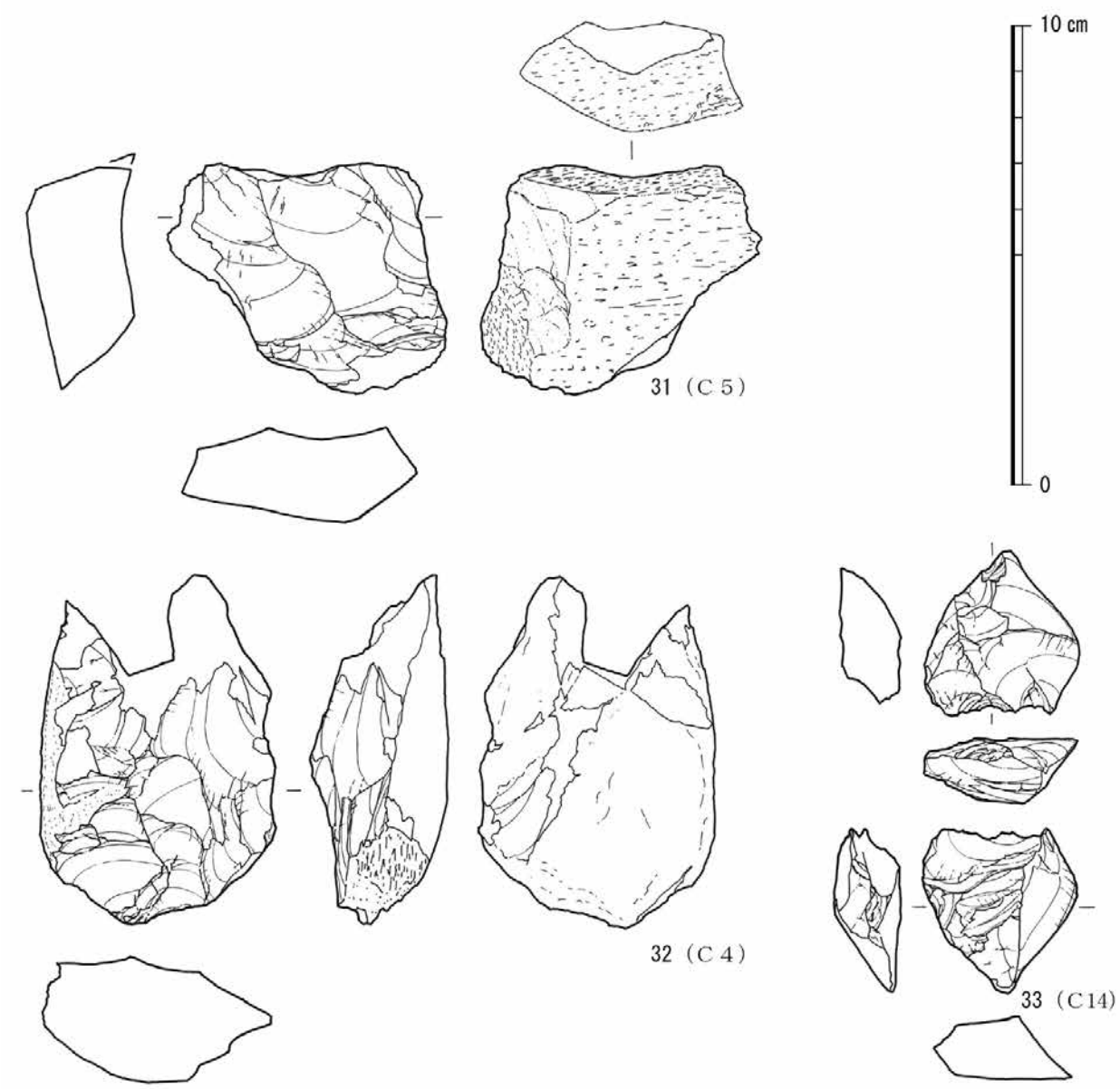
第22図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物２（２：３）



第23図　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物３（２：３）

薄く剥落した程度で欠損前と形状が大きく変化しているものではないと推測される。

20～22・24・25 は背面がほぼ単一の剥離面で構成される。打面に礫面が残り、礫からの初期段階の剥離で生じたと推測される。23 も背面の大部分が礫面で、礫の角の部分から剥離されたこと



第24図　お鉢山遺跡C地点採集遺物４（２：３）

が分かる。

26・27 はいずれも薄身である。26 は点状打面、27 は線状打面で、バルバ・スカーなど剥片剥離時に副次的に生じたものの可能性がある。

28 は、背面及び右側面に礫面が広く残る。稜上にパーカッションマークが多数認められ、河川等で転磨を受けた亜角礫素材と分かる。背面及び右側面に認められる平坦な剥離面、主要剥離面下半部に認められる左側からの剥離も礫同士の衝突による偶発剥離や古い割れ傷、下側面も礫当時に生じた割れ傷を起点として剥片剥離と同時に生じた折れ面と推測される。打面は複数の剥離面で構成されるが、背面と同様に細かい傷が無数に付き表面が荒れていることから、素材時の偶発剥離痕の可能性もある。

29 は三角錐に近い厚手の形状を呈する。礫面打面で、背面左半部も他の面に比べて風化が著し

く進んでいたことから原礫時の自然破砕面と推測される。背面右半部は素材分割面と考えられる広く平坦な剥離面、下側面も古い割れ傷等を起点に偶発的に生じた折れ面の可能性がある。

30 は、上側面にある径１～1.5cm の夾雑物を起点として主要剝離面と背面右上側面の剥離が進行している。下側面は礫面で、凹凸は少ないがパーカッションマークや磨滅痕など、転磨を受けた痕跡は認められない。厚手で背面の剥離面も概して広く、礫を分割する段階で生じたものと推測される。

石核（第 24 図 31～33）

打面・作業面を固定し剥片剥離を行うもの（31）、打面が石核の周縁を巡り求心状に剥片剥離が進行するもの（32）、打面と作業面を入れ換えながら剥片剥離を行うもの（33）がある。

31 は打面と裏面が礫面で、分割礫が素材と推測される。平坦な礫面を打面として剥片剥離を行っている。作業面に残る各剥離面は大きく切り合っており、目的剥片の形状を推測することは難しい。

32 は上部が大きく欠損しているが、裏側の礫面の丸みから、鶏卵程度の大きさの扁平な円礫が素材であったと推測される。作業面は表面のみである。

33 は打面と作業面を入れ換えながら、長幅比１：１ないしやや横長の剥片を剥離している。裏面左下部分の剥離面は素材の主要剥離面と推測されるポジ面であることから、剥片素材と判断されるが、当該剥離面及び正面側の素材面は風化が進行しており、古い時代の石器を再利用した可能性が考えられる。

お鉢山遺跡Ｄ地点

採集品は 20 点ある。内訳は、剥片・砕片 13 点（うち翼状剥片１点、縦長剥片３点）、破砕礫３点、人為物かどうかの判断ができない破砕片４点である。石質は、安山岩Ｉａ類が 11 点、Ｉｃ類が１点で、表面の風化度はＡが５点（総数９点の 55.6%）、Ｃが３点（33.3%）、Ｄが１点（11.1%）である。

縦長剥片（第 25 図 34～36）

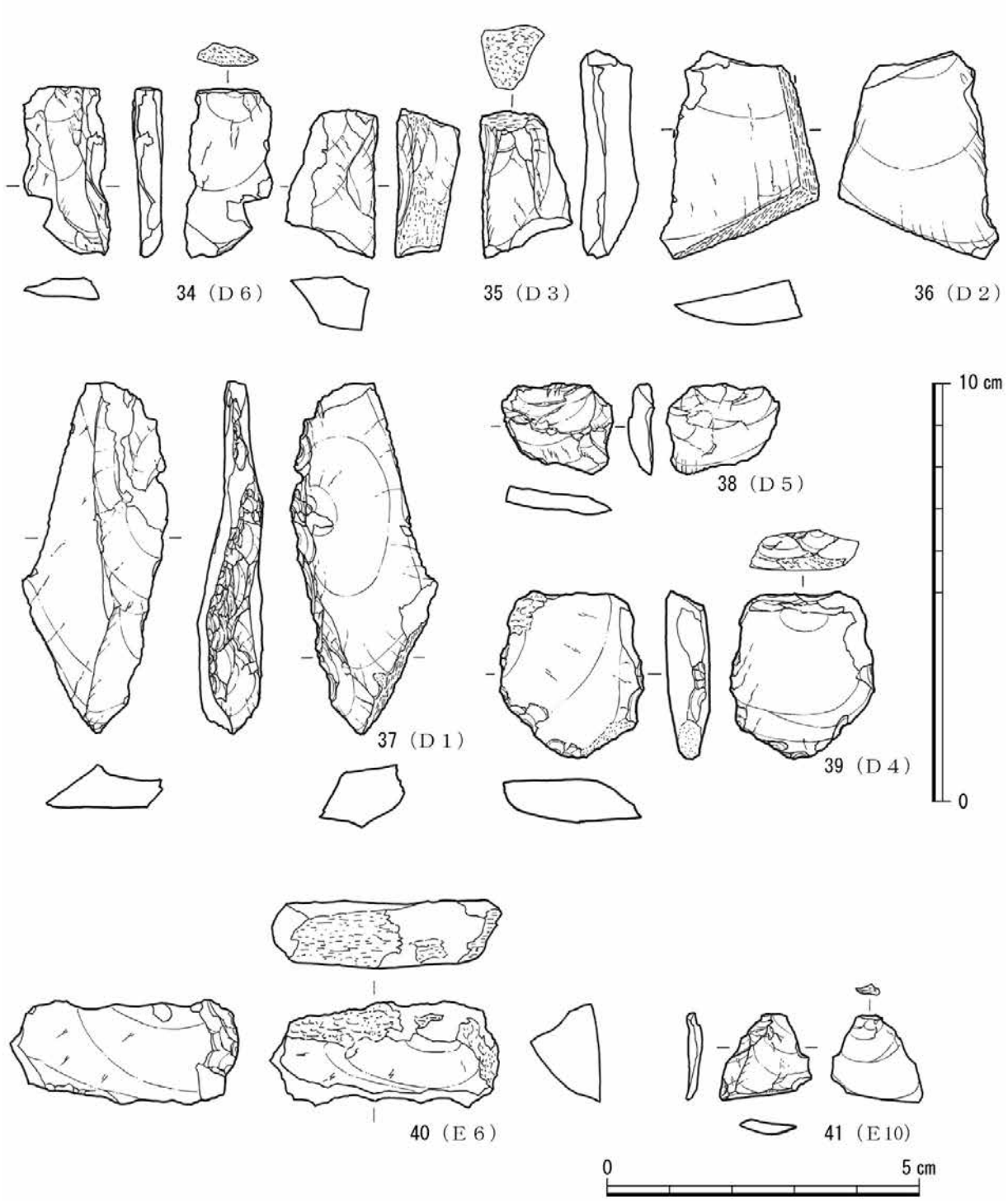
34 は単設打面の石核から生産されたことが分かる。打面は礫面で、主要剥離面との角度が 90°に近い。

35 は末端側が欠損しており正確な全体形状が分からない。主要剥離面が剥離した際の垂直割れによって偶然に縦長の形状になったのかもしれないが、縦長剥片の可能性あるものとして紹介する。背面の剥離面は平坦で、素材時の剥離面の可能性があるが、主要剥離面と同じく上方向からの加撃により生じたものと推測される。打面及び背面右側面の広い範囲に礫面が残る。

36 も打面寄りが欠損して正確な全体形状が分からず、意図して縦長剥片を剥離した確証はないが、可能性あるものとして紹介する。背面の剥離面は平坦で素材時の剥離面の可能性があるが、主要剥離面と同じく上方向からの加撃により生じたものと推測される。背面右側面及び下側面に礫面が残る。

翼状剥片（第 25 図 37）

主要剥離面の打点は背面の左寄り（実測図では上側）に若干寄っているが、打面調整の剥離は入念で、石核いっぱいの幅で翼状剥片を剥離する意図で施されていたことは確実であろう。末端側の一部に礫面が認められ、翼状剥片の剥離作業が進行して石核の奥行が短くなった段階で剥離されたものであることが分かる。



第25図　お鉢山遺跡D地点採集遺物（34～39、２：３）、お鉢山遺跡Ｅ地点採集遺物（40・41、１：１）

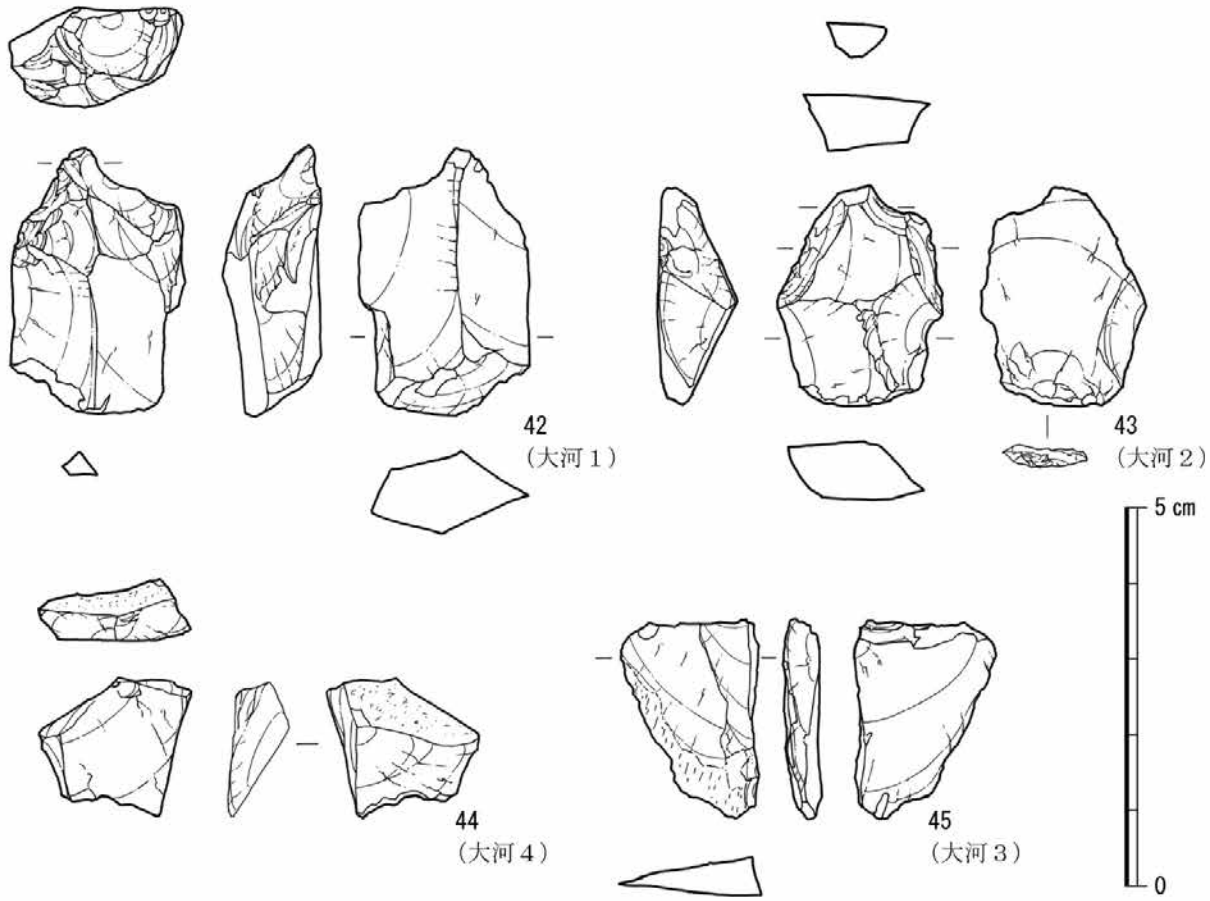
剥片（第 25 図 38・39）

38 はやや横長の形状を呈する。背面は、概ね主要剥離面と同一方向の剥離面で構成される。打面は線状で、縄文時代以降のものの可能性が考えられる。

39 は長幅比およそ１：１の形状を呈する。全体的に表面が荒れており、縁辺に不規則かつ稜の磨滅した剥離面が多数認められることから、水流等による転磨を受けたものと推測される。打面の一部及び背面左上隅・右下隅に礫面が認められるほか、背面の剥離面も主要剥離面などに比べて一段と荒れが著しく、自然破砕後に水流等により転磨を受けた自然面の可能性もある。打面は複剥離面である。

お鉢山遺跡Ｅ地点

採集品は 20 点ある。内訳は、剥片あるいは破砕礫４点、砕片４点、破砕礫 12 点である。石質は全て安山岩Ｉａ類で、表面の風化度はＡが５点（総数 20 点の 25%）、Ｂが３点（15%）、Ｃが 10 点（50%）、Ｄが２点（10%）である。採集品のほとんどは新鮮な剥離面と礫面のみで構成されるものである。採集地が林道の道路敷であることから、道路造成や車両の通行等による自然破砕品と考えられる。その他に、風化の進行した剥離面で構成されるものも一定数認められるが、概して長辺１cm 台の小形品ばかりで、打面が不明瞭であったり、転磨により生じたと思われる潰れ状の剥離、稜上のパーカッションマークや摩滅、剥離面表面の微細な傷などがみられることか



第26図　大河遺跡採集遺物（１：１）

ら、隣接する沢の水流などによって自然破砕した可能性が高い。

剥片あるいは自然破砕礫（第 25 図 40・41）

採集品のうち、一定程度風化した剥離面が認められ転磨の形跡がみられない遺物で最も大きなもの（40）と、打点が明瞭なもの（41）を図化した。40 は礫面を打面としている。打点付近が欠損しポジティブバルブなどは不明瞭である。背面もネガポジ不明瞭な平坦な剥離面で、自然破砕品の可能性もある。41 は背面が腹面と同一方向の剥離面で構成されている。末端にあたる下側縁は折れ状で、主要剥離面の剥離と同時に折損した可能性が高い。

大河遺跡

採集品は４点ある。内訳は、二次加工ある剥片２点、剥片２点である。石質は全て安山岩Ｉａ類で、表面の風化度はＡが３点（総数の 75%）、Ｂが１点（25%）である。

二次加工ある剥片（第 26 図 42・43）

42 は石核転用品と推測される角柱状の素材の一端にやや急角度の二次加工を施している。錐状石器と見ることもできるが、二次加工が粗く、意図的に末端を尖らせているという意図を見出し難い事から二次加工ある剥片とした。耕作等の後世の影響によるものと推測される細かい傷が全体に認められる。

43 は長幅比１：１前後の剥片を素材とし、左右両側縁に背腹両面から急角度の二次加工を施している。背面左下側縁の抉りがやや深く、下端部を尖らせた錐状石器の可能性もあるが、下端部が欠損している事に加え、二次加工が粗い事から 42 と同様に二次加工ある剥片とした。

剥片（第 26 図 44・45）

44 は打点直下から垂直割れを起こしており、剥離時の衝撃で折れたと推測される。打面は礫面である。

45 は薄身の剥片で、背面下部には礫面が残っている。上側面が折れて打面が失われているほか垂直割れを起こしており、いずれも剥片剥離の衝撃で折れたものと推測される。

４　まとめ

各遺跡・地点の時期について

お鉢山遺跡Ａ地点

「遺跡」と呼称しているが、明瞭な人為物は確認されていない。安山岩の露頭であり、今後の調査研究の進展により、石材を採集した痕跡等が発見される可能性がある。

お鉢山遺跡Ｂ地点

一見翼状剥片に類似した剥離面構成の剥片（第 19 図３）もあるが、時期が特定できるような形態的特徴が見出せる遺物は乏しい。第 20 図５のような両極打法による剥片剥離が行われた石核は、周辺地域では後期旧石器時代槍先形尖頭器文化期や縄文時代の石器群中に認められるもので、その他の遺物も剥離面の風化があまり進行していないものが目立つことから、後期旧石器時代終末頃以降のものが主体となる可能性が高い。

お鉢山遺跡Ｃ地点

縦長の剥片を素材とする二次加工ある剥片（第 21 図 10）は後期旧石器時代ナイフ形石器文化期に属する可能性があるが、全体に時期が特定できる形態的特徴を見出すことが難しい。礫面の状態から石質が同じと認められるものでありながら、剥離面の風化度を見ると風化が進行して灰色に近い色調となっているものと、風化があまり進行しておらず黒みや光沢が強いものがあり、縄文時代以降の遺物と旧石器時代の遺物が混在している可能性もある。

お鉢山遺跡Ｄ地点

縦長剥片と翼状剥片が時期の指標となる。中国地方においては、縦長剥片関連資料は姶良丹沢火山灰（以下「ＡＴ」という。）下層の島根県原田遺跡第７層[8]や岡山県恩原１遺跡Ｒ文化層[9]、ＡＴ上層では冠遺跡群第Ⅲ層石器群[10]、北広島町樽床遺跡Ｇ地点[11]などで確認されており、藤野次史・多田仁両氏[12]（以下、「藤野・多田編年」という。）は後期旧石器時代ナイフ形石器文化後半期（第Ⅱａ期から第Ⅲ期）に位置付けている。翼状剥片など瀬戸内技法関連資料はＡＴ上層にあたる冠遺跡Ｂ地点[13]、恩原２遺跡Ｓ文化層[14]などで確認されており、藤野・多田編年で第Ⅱｂ期～第Ⅲ期に位置付けられている。本地点採集品は表面採集資料のため各資料の間に一括性の保証はないが、両者を共伴するものと考えた場合、藤野・多田編年の第Ⅱｂ期ないし第Ⅲ期に帰属するものと判断される。

お鉢山遺跡Ｅ地点

大部分が自然破砕品と考えられ、遺跡としての認定や帰属時期の特定は困難である。わずかながら人為物の可能性があるものがみられ、評価については今後の資料数の増加を待ちたい。

大河遺跡

時期が特定できるような形態の遺物がない。遺物によって表面の風化進行度合いが異なっており、相当の時期幅がある可能性もある。

お鉢山遺跡の特徴について

お鉢山遺跡Ｂ～Ｅ地点採集品の石質は、Ｉａ類とＩａ２類がほとんどである。各地点とも礫面を残す遺物が多数を占め（表 10）、近隣の沢などで同じ石質の転礫を多数見ることができる点と考え併せると原材をごく近くで確保していたことが窺える。特にＢ地点とＣ地点では礫面に転磨の痕跡が認められる遺物が目立ち、遺跡近くの沢・河床で採集した転礫を原材として使用していると考えられる。

Ｉａ類に関しては、本稿紹介のＤ地点採集翼状剥片及び原石について過去に藁科哲男氏に蛍光Ｘ線分析を依頼し、「飯山群」との判定結果を得ている[15]。「飯山群」と同定された石器は広島県内のほか島根・山口・香川・愛媛県内の出土資料にも認められ（表 11）、時期ごとの地理的分布に変化はあるものの、後期旧石器時代ナイフ形石器文化前半期（藤野・多田編年Ｉａ期）から縄文時代後・晩期ないし弥生時代までの間、直線距離で概ね 100～150 ㎞までの範囲内に流通していたものと推測される。

Ｉａ２類については、鬼ヶ城山南方の沢にＩａ類の転礫と混在して普通に認められる石材であ

るが、Ⅰａ類に比べて質の劣るものであり、これまで冠遺跡群等でも当該石材を用いた石器が認められなかったことから、石器に利用される石材と認識していなかった。お鉢山遺跡でも使用例は少なく、補助的・限定的な利用にとどまると考えられるが、周辺の遺跡の出土資料の再観察など注意が必要である。

お鉢山遺跡は各地点とも狭い谷の底近くにあり、一般的な旧石器時代遺跡や丘陵頂上や緩斜面の多い冠遺跡群とは立地が異なるものの、石材産出・採集地の直近に位置する石器製作跡すなわち原産地遺跡として性格付けることが可能である。一帯はほとんどが山林であることを考慮すると、周囲にも同様の石材原産地遺跡が点在する可能性もあり、今後継続して注視が必要であろう。

表 10　お鉢山遺跡各地点の礫面を残す遺物の割合

地点名	Ｂ地点	Ｃ地点	Ｄ地点
総点数（砕片、破砕礫除く）	10	85	6
うち礫面を残す遺物点数（カッコ内は割合%）	7（70.0%）	66(77.6%)	5（83.3%）

表 11　蛍光Ｘ線分析により「飯山群」と判定された遺物の確認された遺跡一覧

所在地		遺跡・文化層等名称	時期 （ローマ数字は藤野・多田編年）	器種・点数 （点数のみは器種不明）	出典
広島県	廿日市市針山	お鉢山遺跡D地点	Ⅱｂか	翼状剥片１点	註(1)及び本稿
	廿日市市吉和	冠遺跡群 12Ｔ	Ⅳ	尖頭器4点、使用痕ある剥片2点、二次加工ある剥片2点	註(1)(13)
		冠遺跡Ｃ地点	Ⅲ？	剥片１点	
		冠遺跡D地点Ⅲ層	Ⅱｂ	剥片３点	註(1)(16)
		冠遺跡 12Ｇ	Ⅱａ	剥片１点	註(1)(5)
	広島市佐伯区	円明寺遺跡	縄文早期	６点	註(17)(18)
				剥片２点	註(1)(18)
	広島市佐伯区	利松遺跡	縄文早期	１点	註(18)(19)
	安芸太田町	上殿遺跡	縄文早期	１点	註(18)(20)
	北広島町	地宗寺遺跡	Ⅰａ	剝片１点	註(1)(21)
		樽床遺跡群G地点		剝片１点第 24 図 179	註(1)(11)
		樽床遺跡群N２地点		剝片１点第 23 図 161	
		樽床遺跡群大橋地点		剝片１点第 27 図 202	
島根県	益田市	※石見空港 10-A-3	不明	１点	註(22)「飯山の組成に似る」
		※フケ田平遺跡	不明	原石１点	
	奥出雲町	原田遺跡７層	Ⅱａ	剥片 11 点、チップ１点	註(8)
		原田遺跡５層	Ⅱｂ	二次加工ある剥片3点、使用痕ある剥片2点、剥片11点	
		原田遺跡２～４層	Ⅲ	スクレイパー３点、二次加工ある剥片１点、使用痕ある剥片３点、剥片７点、石核２点	
	邑南町	横道遺跡	縄文早期末～前期	１点	註(18)
	津和野町	喜時雨遺跡	旧石器	ナイフ形石器１点	註(23)
		大蔭遺跡	縄文晩期後半～弥生前期初頭?	２点	註(24)
			弥生後期前半？	１点	
山口県	山口市小郡下郷	長谷遺跡	縄文後・晩期か	５点	註(25)
香川県	高松市中間町	中間西井坪遺跡	Ⅱｂ	ＲＦ１点	註(26)
	丸亀市郡家町	郡家田代遺跡	旧石器	剥片１点	註(27)
	坂出市川津町	川津六反地遺跡	縄文か（土器共伴せず）	調整ある剥片１点、剥片１点	註(28)
愛媛県	宇和島市津島町	池ノ丘遺跡	早・前期	１点	註(18)

註

(1) 藁科哲男 2001「冠遺跡群出土遺物の原材産地分析」『冠遺跡群』Ⅷ　広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター、179-195 頁。
(2) 広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター2001 『冠遺跡群』Ⅷ
(3) 広島県教育委員会HP「広島県遺跡地図」 https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki_file/kyouiku/pdf/ d_08hatukaiti.pdf (令和５年４月 27 日閲覧)。このほか、藤野次史 1994「中国地方　瀬戸内技法関連資料地名表・分布図　広島県」中・四国旧石器文化談話会 (編)『瀬戸内技法とその時代』資料編　中・四国旧石器文化談話会、36 頁　にも紹介がある。
(4) 下記地質図（下記）では玄武岩や安山岩とされているが、本稿では一括して安山岩類という。
高橋裕平・牧本　博・脇田浩二・酒井　彰 1989「津田地域の地質」地質調査報告　５万分の１地質図幅　高知(13)第１号　通産省工業技術院地質調査所産総研地質調査総合センター2022「20 万分の１日本シームレス地質図 V2」https://gbank.gsj.jp/seamless（閲覧日：令和５年２月 25 日)。
(5) 広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター1998 『冠遺跡群』Ⅴ。
(6) アレ・ツィルク（上峯篤史訳）2020『石の目を読む』京都大学学術出版会。
(7) 本稿では、長さ・幅のいずれかが 1.5cm に満たない剥片及び主要剥離面の打点が不明瞭で偶発的に破砕したと考えられる剥片を砕片とした。
(8) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008 『原田遺跡』４　尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 12　国土交通省中国地方整備局・島根県教育委員会。
(9) 恩原遺跡発掘調査団 2009『恩原１遺跡』。
(10) 冠遺跡Ａ・Ｂ・Ｃ地点、Ｄ地点第Ⅲ層、第 56 グリッド第Ⅲ層石器群などが該当する。
(11) 芸北町教育委員会 1986『樽床遺跡群の研究』。発掘調査によるものではないが、断面採集資料の存在等から、遺物出土層位を漸移層中に求めることができる。
(12) 藤野次史・多田　仁 2010「中国・四国地方」稲田孝司・佐藤宏之（編)『講座　日本の考古学』１　旧石器時代　上　青木書店、544-575 頁。
(13) 広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター1983『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(4)』。
(14) 岡山大学文学部考古学研究室 1996『恩原２遺跡』。
(15) 註(1)文献。なお、「飯山群」に関しては当初、出土石器の分析結果から冠山近隣の道の原産地「Ｈ群」と呼称されていたが、その後原産地が確認され「飯山群」に改称された（藁科哲男・東村武信 1988「石器原材の産地分析」『鎌木義昌先生古稀記念論集論集　考古学と関連科学』鎌木義昌先生古稀記念論集刊行会、447-491 頁）ことから、本稿では文献等で「Ｈ群」とされたものも含めて記述を進める。
(16) (財)広島県埋蔵文化財調査センター1989『冠遺跡群　Ｄ地点の調査』。
(17) 広島県教育委員会 1971『円明寺（延命寺）遺跡発掘調査報告』。
(18) 藁科哲男・東村武信 1990「石器原材の産地分析から推考した瀬戸内海地域を中心とした交流・交易の研究『内海文化研究紀要』第 18・19 合併号　広島大学文学部内海文化研究施設、17-47 頁。
(19) 川越哲志 1968「広島県佐伯郡五日市町利松住吉遺跡の調査」『広島大学文学部紀要』日本・東洋　第 28 巻１号　広島大学文学部、188-213 頁。
(20) 河瀬正利 1987「広島県山県郡戸河内町上殿遺跡の縄文時代早期遺物の研究」『広島大学文学部紀要』第 46 巻広島大学文学部、155-184 頁。
(21) 広島県教育委員会・(財) 広島県埋蔵文化財調査センター1982『地宗寺遺跡発掘調査報告』。
(22) 藁科哲男・東村武信 1991「島根県内遺跡出土のサヌカイト、黒曜石製遺物の石材産地分析」『一般国道９号松江道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅷ（布田遺跡）建設省松江国道工事事務所・島根県教育委員会、111-121 頁。
(23) 藁科哲男 2000「喜時雨遺跡出土のサヌカイトおよび安山岩製遺物の原材産地分析」『喜時雨遺跡』津和野町教育委員会、54-62 頁。
(24) (有)遺物材料研究所 2010「大蔭遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原材産地分析」『大蔭遺跡　第１・２・４・６・７・８次発掘調査報告書』津和野町教育委員会、124-141 頁。
(25) (有)遺物材料研究所 2009「長谷遺跡出土の黒曜石、安山岩製遺物の原材産地分析」『長谷遺跡』(財)山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センター、46-74 頁。
(26) 藁科哲男 2001.12.28「中間西井坪遺跡出土石器、石片の原材産地分析」『中間西井坪遺跡』Ⅲ　第２分冊　四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第三十七冊　(財)香川県埋蔵文化財調査センター、29-56 頁。
(27) 藁科哲男 1997「四国横断自動車関連遺跡出土のサヌカイト製遺物の石材産地分析」『三条黒島遺跡　川西北七条Ⅰ遺跡』四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第二十七冊　(財)香川県埋蔵文化財調査センター、281-291 頁。
(28) (有)遺物材料研究所 2014「川津六反地遺跡出土サヌカイト製遺物の産地分析」『川津六反地遺跡　川津昭和遺跡』国道 438 号道路改良工事・県道富熊宇多津線道路改良工事・城山河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　香川県教育委員会、224-240 頁。

表 12　お鉢山遺跡、大河遺跡採集品台帳

お鉢山遺跡Ｂ地点

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
1	石核	Ia	B	6.6	13.25	3.9	243	円礫		第 20 図 7
2	剥片	Ia	B	4.7	6.1	1.5	32	背面　僅か		第 19 図 3
3	削器	Ia	A	5.05	2.3	0.9	8.8	なし		第 19 図 1
4	破砕礫	Ia	C	9.5	7.0	3.4	200	円礫	剥離面が全て新鮮。後世の破砕品か	
5	石核	Ia	B	5.65	4.85	2.7	57.4	背面全面、円礫		第 20 図 5
6	石核	Ia	B	5.9	3.2	1.75	26.4	裏面・打面、円礫		第 20 図 6
7	剥片	Ia	B	3.6	2.5	0.85	5.5	打面の一部		第 19 図 2
8	砕片	Ia	B	2.3	3.3	1.2	8.1	円礫	自然破砕	
9	剥片	Ia	B	1.8	2.2	0.6	1.8	打面		
10	剥片	Ia	A・B	2.0	2.1	0.4	1.6	なし		
11	砕片	Ia	A	2.0	1.5	0.8	1.9	打面		
12	砕片	Ia	A	1.8	1.8	1.2	3.7	打面		
13	砕片	Ia	B	1.7	2.5	0.9	2.8	なし		
14	砕片	Ia	A	1.3	2.1	1.1	2.7	円礫　背面1/2		
15	剥片	Ia	A	1.5	1.9	0.5	1	打面		
16	破砕礫	Ia	C	1.3	2	0.6	1.5	あり	剥離面全て新鮮、後世の破砕	
17	石核破片か	Ia	B	0.6	2	0.4	1.4	なし		第 19 図 4
18	砕片	Ia	A	1.5	1.7	1	2.1	打面		
19	砕片	Ia	A	1.6	1.5	0.3	0.7	なし		
20	砕片	Ia	A	1.1	1.7	0.5	0.8	なし		
21	砕片	Ia	A	1	1.6	0.8	1.3	側面		
22	砕片	Ia	A	1.1	1.8	0.4	0.7	末端側面		
23	砕片	Ia	B	1.5	0.8	0.5	0.7	なし		
24	破砕礫	Ia	C	1.5	0.8	0.5	0.5	あり	剥離面全て新鮮	
25	砕片	Ia	A	1.5	0.8	0.3	0.5	なし		
26	砕片	Ia	A	0.8	1.7	0.4	0.4	なし		
27	砕片	Ia	A	1.5	0.7	0.3	0.3	なし		
28	砕片	Ia	B	1	1.2	0.3	0.4	なし		
29	砕片	Ia	A	1.1	1.1	0.3	0.3	なし		
30	砕片	Ia	A	0.9	1.1	0.2	0.2	なし		
31	砕片	Ia	A	0.9	1.2	0.3	0.2	なし		
32	砕片	Ia	B	1	1.2	0.3	0.2	なし		
33	砕片	Ia	B	0.9	1.2	0.3	0.2	なし		
34	砕片	Ia	B	0.7	1.1	0.2	0.1	なし		
35	砕片	Ia	A	0.7	1.2	0.4	0.2	側面		
36	砕片	Ia	B	0.8	0.8	0.2	0.1	なし		
37	砕片	Ia	B	0.8	1	0.2	0.1	なし		
38	砕片	Ia	B	1	0.6	0.3	0.2	側面		
39	砕片	Ia	B	1.1	0.6	0.6	0.2	なし	大部分が新鮮な剥離面	
40	砕片	Ia	B	0.9	0.8	0.1	0.1	なし		
41	砕片						0.1		註記なし	
42	砕片						0.1		註記なし	
43	砕片						0.1		註記なし	
44	砕片						0.1		註記なし	
45	砕片						0.1		註記なし	
46	砕片						0.1		註記なし	
47	砕片						0.1		註記なし	
48	砕片						0.1		註記なし	
49	砕片						0.1		註記なし	
50	砕片						0.1		註記なし	

お鉢山遺跡Ｃ地点

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
1	削器	Ib	B	9.2	8.0	2.4	113.0	打面・末端側面		第 21 図 8
2	剥片	Ia2	A	6.1	6.15	1.5	45.1	打面　平滑		第 22 図 14
3	二次加工ある剥片	Ia	A	4.0	7.0	2.2	52.8	背面　平滑		第 21 図 9
4	石核	Ia	B	7.65	5.15	3.0	106.1	亜円礫		第 24 図 32
5	石核	Ia	B	5.00	6.1	2.4	69.1	平滑		第 24 図 31
6	剥片	Ia	B	4.05	4.8	3.25	46.6	打面・背面　平滑		第 23 図 29
7	剥　片	Ia	A	4.55	3.5	1.9	29.2	平滑		第 23 図 28

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
8	剥片	Ia	A・B	3.3	6.05	2.5	44.5	平滑		第 23 図 30
9	剥片	Ia	A・B	4.25	5.6	1.8	29.7	なし		第 22 図 17
10	剥片	Ia2	A	3.85	2.75	1.3	11.5	打面　平滑		第 22 図 16
11	二次加工ある剥片	Ia	A	4.15	2.2	1.3	9.9	平滑		第 21 図 10
12	剥片	Ia	A	4.7	3.0	1.6	17.1	なし		第 22 図 15
13	剥片	Ia	A(～B)	3.0	3.05	1.0	9.0	打面・左側面		第 22 図 18
14	石核	Ia	A・B	3.6	3.15	1.45	13.9	なし		第 24 図 33
15	砕片	Ia	B	2.6	3.4	1.3	9.3	なし		
16	剥片	Ia	B	2.8	3.2	1.05	9.4	打面･背面右上部		第 22 図 21
17	剥片	Ia	A	2.9	3.5	1.05	6.6	背面左半部		第 21 図 12
18	剥片	Ia	A	1.9	2.6	0.45	2.1	打面		
19	剥片	Ia	A	2.4	2.6	0.65	3.2	打面の一部		第 23 図 24
20	剥片	Ia	A	1.5	3.2	0.8	3.5	打面･背面右側面		第 22 図 22
21	剥片	Ia	B	2.65	2.5	0.45	2.3	なし		第 23 図 26
22	剥片	Ia	A	2.5	2.7	0.65	3.8	打面・左側面		
23	剥片	Ia	A(～B)	2.4	3.1	1.3	6.3	背面・打面全面		第 22 図 23
24	剥片	Ia	D	2.4	2.9	1.0	7.8	背面・打面全面		
25	砕片	Ia	B	2.3	3.3	1.5	8.3	背面・打面全面		
26	剥片	Ia	B	2.65	3.0	1.0	5.7	打面		第 23 図 25
27	剥片	Ia	A	2.3	2.3	1.0	3.9	打面		第 22 図 20
28	剥片	Ia	B	2.3	2.3	0.95	4.5	なし		
29	砕片	Ia	B	2.1	3.8	0.9	5.6	なし	後世破砕品か、全剥離面の打点・バルブ不明瞭	
30	剥片	Ia	A	1.4	3.3	0.7	2.4	背面		
31	砕片	Ia	B	1.9	2.8	0.7	2.9	なし	打面・打点不明瞭	
32	破砕礫か	Ia	C	2.5	2.2	0.6	1.9	打面	剥離面が全て新鮮	
33	剥片	Ia	A	2.5	1.5	1.1	3.2	なし	垂直割れ	
34	剥片	Ia	A	2.9	1.6	0.7	2.2	背面右側面		
35	剥片	Ia	A	1.7	2.0	0.95	2.1	背面		
36	剥片	Ia	B	2.75	2.35	1.1	5.8	なし	欠損部多い	第 22 図 19
37	自然破砕礫	Ia	D	2.6	4.5	1.7	17.3		剥離面の稜が磨滅し丸みを帯びる。転磨を受けた可能性高い。	
38	剥片	Ia	B	1.6	4.5	1.0	6.4	打面		
39	破砕礫	Ia	C	3.5	1.3	1.1	6.2	背面		
40	剝片	Ia	B	2.0	2.7	1.0	4.6	打面	背腹面の剥離方向一致　自然破砕の可能性高	
41	砕片	Ia	D	2.4	1.9	1.1	5.4	背面		
42	剝片	Ia	B	3.7	2.55	1.1	7.7	なし	縦長状	第 21 図 13
43	剥片	Ia	B	1.5	2.7	0.7	2.3	なし		
44	礫	Ia	D	3.9	1.6	1.2	7.4	全面	棒状	
45	礫	Ia	―	3.8	2.2	1.7	13.1	全面	新鮮な欠け面あり	
46	破砕礫	Ia	D	2.5	2.8	1.0	5.5			
47	砕片	Ia	B	1.7	3.7	0.9	3.4	背面	打面･打点不明瞭｡礫表皮の自然剥離か	
48	礫	Ia	―	2.4	2.3	0.9	5.6	全面	新鮮な欠け面あり	
49	砕片	Ia	B	1.8	2.8	1.4	4.4	打面		
50	破砕礫	Ia	D	2.3	1.6	1.0	4.1	打面・背面	自然破砕か	
51	剥片	Ia	B	2.9	1.8	0.55	2.6	背面左寄り 1/3		
52	剥片	Ia	A	3.0	1.8	0.45	1.8	なし		第 23 図 27
53	剥片	Ia	B	1.7	2.8	0.5	2.1	なし		
54	剥片	Ia	B	2.4	1.8	1.1	4.5	打面、背面の大部分		
55	破砕礫	Ia	C	2.0	1.8	1.4	5.2	あり		
56	砕片	Ia	B	1.8	2.2	0.5	2.4	背面		
57	剥片	Ia	A	1.7	2.3	1.1	3.2	打面		
58	剥片	Ia	A	1.1	2.6	0.65	2.4	背面右側面		
59	剥片	Ia	A	1.5	1.8	0.7	2.7	なし		
60	砕片	Ia	B	1.8	2.1	0.7	2.3	なし	明瞭な打点なし	
61	砕片	Ia	B	2.0	1.9	0.45	1.6	なし		
62	剥片	Ia	B	1.6	2.4	0.6	1.9	なし		
63	剥片	Ia	B	1.6	2.0	0.25	1.0	打面の一部		
64	剥片	Ia	B	1.6	1.7	0.4	1.3	なし		
65	剥片	Ia	B	1.8	1.5	0.7	1.8	なし	打面寄りは折れて失われている	
66	剥片	Ia	B	1.2	2.3	0.5	1.1	背面の一部	垂直割れ	
67	砕片	Ia	B	2.2	1.3	0.8	1.8	なし		
68	楔形石器削片	Ia	A	1.9	1.0	0.85	1.3	なし		第 21 図 11
69	砕片	Ia	B	1.3	1.5	0.5	1.1	側面	打面・打点とも不明瞭	

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
70	砕片	Ia	B	1.8	1.3	0.45	0.9	背面の一部	垂直割れ	
71	砕片	Ia	B	1.3	1.7	0.8	1.5	なし		
72	砕片	Ia	A	1.85	1.35	0.5	0.8	背面右側面		
73	砕片	Ia	B・C	1.0	2.0	0.8	1.1	背面		
74	砕片	Ia	A	1.0	2.4	0.5	1.0	なし		
75	破砕礫	Ia	C	1.3	1.6	0.5	0.9	打面	打面以外は全て新鮮な剥離面	
76	砕片	Ia	A	1.35	1.6	0.2	0.5	なし		
77	砕片	Ia	B	1.5	1.5	0.6	1.2	背面右側面		
78	剥片	Ia	A	1.4	2.1	0.6	1.2	なし		
79	剥片	Ia	A	2.2	1.2	0.4	0.7	背面左側面		
80	剥片	Ia	B	1.4	1.8	0.4	0.7	打面		
81	砕片	Ia	B	1.8	1.4	0.5	0.8	背面		
82	砕片	Ia	B	1.1	2.0	0.75	1.1	なし	主要剥離面はC	
83	砕片	Ia	B	1.45	1.4	0.8	1.4	背面		
84	砕片	Ia	B	1.1	1.5	0.3	0.4	なし		
85	砕片	Ia	B	1.9	1.4	0.9	2.0	背面の一部	垂直割れ	
86	砕片	Ia	B	1.4	1.8	0.7	1.0	なし		
87	剥片	Ia	B	1.7	1.9	0.3	0.9	なし		
88	剥片	Ia	B	1.5	1.8	0.5	1.1	打面		
89	砕片	Ia	A	1.4	1.5	0.3	0.7	なし		
90	砕片	Ia	B	1.4	1.6	0.3	0.8	打面		
91	砕片	Ia	B	1.2	1.6	0.6	1.0	なし		
92	砕片	Ia	B	1.3	1.4	0.4	0.7	背面全面		
93	砕片	Ia	B	1.6	1.2	0.4	0.7	打面		
94	剥片	Ia	B	1.25	1.5	0.4	0.7	背面右側面		
95	砕片	Ia	B	1.3	1.1	0.5	0.8	なし		
96	砕片	Ia	B	1.0	2.0	0.6	0.9	背面全面		
97	砕片	Ia	C・D	1.3	1.5	0.4	0.6	なし	背面はD、腹面はC。自然破砕品	
98	砕片	Ia	B	1.0	1.5	0.2	0.4	背面		
99	砕片	Ia	A	1.3	1.25	0.4	0.6	なし		
100	砕片	Ia	B	1.3	1.15	0.4	0.6	なし		
101	砕片	Ia	B	1.5	1.4	0.6	1.0	打面		
102	砕片	Ia	A	1.7	0.6	0.6	0.9	背面左側面		
103	砕片	Ia	A	1.4	0.9	0.3	0.3	打面		
104	砕片	Ia	A	1.0	1.4	0.1	0.2	背面の一部		
105	砕片	Ia	B	1.1	1.4	0.4	0.7	なし		
106	砕片	Ia	A	1.1	1.3	0.2	0.3	背面		
107	砕片	Ia	B	0.8	1.5	0.3	0.5	背面		
108	砕片	Ia	B	1.4	1.0	0.3	0.4	なし		
109	砕片	Ia	A	0.8	1.2	0.3	0.5	背面の一部		
110	破砕礫	Ia	C	1.4	0.9	0.6	0.6	なし	全面が新鮮な剥離面	
111	砕片	Ia	A	0.7	1.6	0.7	0.4	打面		
112	砕片	Ia	B	1.5	1.2	0.6	0.7	なし		
113	砕片	Ia	B	1.0	1.3	0.3	0.5	打面		
114	砕片	Ia	A	1.2	1.1	0.1	0.1	なし		
115	砕片	Ia	B	1.3	0.9	0.5	0.5	なし		
116	砕片	Ia	B	1.0	1.1	0.2	0.2	打面		
117	破砕礫	Ia	C	1.3	0.8	0.6	0.5	あり	礫面と新鮮な剥離面のみで構成	
118	砕片	Ia	A	0.9	1.35	0.3	0.3	なし		
119	砕片	Ia	B	1.3	0.9	0.55	0.5	なし		
120	破砕礫	Ia	B・C	1.45	0.6	0.4	0.3	一部		
121	砕片	Ia	B	1.2	0.7	0.4	0.4	なし		
122	砕片	Ia	B	1.0	0.9	0.2	0.2	なし		
123	砕片	Ia	B	0.9	1.25	0.4	0.3	背面の一部	垂直割れ	
124	砕片	Ia	B	0.9	1.4	0.5	0.3	打面		
125	砕片	Ia	A	1.2	0.7	0.25	0.2	なし	一見、細石刃に類似した形状	
126	砕片	Ia	A	0.8	1.1	0.2	0.2	なし		
127	砕片	Ia	B・D	1.0	0.8	0.25	0.2	なし		
128	砕片	Ia	B	0.8	0.95	0.2	0.1	なし		
129	砕片	Ia	B	0.85	0.8	0.2	0.1	なし		
130	砕片	Ia	A	0.6	1.15	0.3	0.1	なし		
131	砕片	Ia	A	1.05	0.7	0.25	0.2	なし		
132	砕片	Ia	A	0.7	0.7	0.2	0.1	なし		
133	砕片	Ia	D	0.9	0.8	0.4	0.2	背面		

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
34	砕片						0.1	なし	註記なし	
135	砕片		B				0.1	なし	註記なし	
136	砕片		B				0.1	なし	註記なし	
137	砕片或いは破砕礫		C				0.1	なし	註記なし	
138	礫						0.8	全面	註記なし	

お鉢山遺跡 D 地点

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
1	翼状剥片	Ia	A	3.5	8.45	1.55	31.3	側面	蛍光 X 線分析済	第 25 図 37
2	縦長剥片	Ia	A	5.0	3.75	1.4	20.8	側面・末端	打面欠	第 25 図 36
3	縦長剥片	Ia	A	3.55	2.2	1.5	12.0	打面・側面	下部欠	第 25 図 35
4	剥片	Ia	D	4.0	3.4	1.05	18.5	背面の一部		第 25 図 39
5	剥片	Ic	A	2.2	2.7	0.7	2.9		線状打面	第 25 図 38
6	縦長剥片	Ia	A	4.1	2.1	0.7	6.8	打面		第 25 図 34
7	破砕礫か	Ia	C	2.0	1.4	0.6	1.5		剝離面が新鮮。後世の破砕品か	
8	砕片	Ia		1.0	2.2	0.6	1.5	背面の一部		
9	剥片の一部	Ia		0.9	2.1	0.5	1.3		剝離面の風化度にばらつき。後世の破砕品か	
10	破砕礫	Ia	C	1.4	1.5	0.4	1.1	側面	剝離面が新鮮。後世の破砕品か	
11	破砕礫	Ia	C	1.0	1.15	0.4	0.6		剝離面が新鮮。後世の破砕品か	
12	砕片	Ia		0.8	1.4	0.3	0.3		点状打面	
13	砕片						0.1		註記なし　砕片の欠片	
14	砕片						0.1		註記なし　砕片の欠片	
15	砕片						0.2		註記なし　砕片の欠片	
16	破砕片						0.1		註記なし　全て新鮮な剥離面	
17	砕片						0.1		註記なし　砕片の欠片	
18	破砕片						0.1		註記なし　全て新鮮な剥離面	
19	破砕片						0.1		註記なし　全て新鮮な剥離面	
20	破砕片						0.1		註記なし　全て新鮮な剥離面	

お鉢山遺跡 E 地点

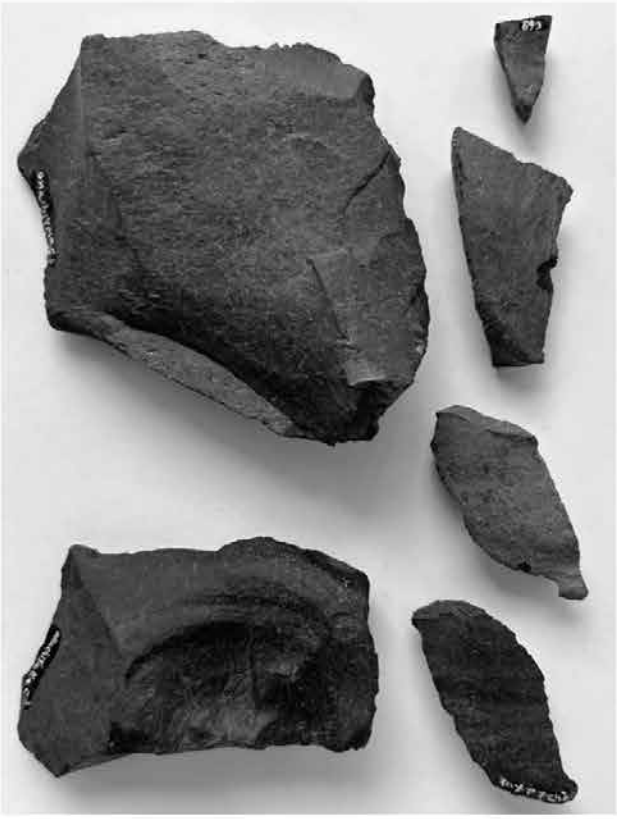
番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
1	破砕礫	Ia	C	4.1	5.6	1.8	36.3	あり	点状打面 全て新鮮な剥離面	
2	破砕礫	Ia	C	3.9	4.6	1.1	17.7	あり	打面が破砕　全て新鮮な剥離面	
3	破砕礫	Ia	C	2.9	4.8	1.6	21.2	亜円礫	点状打面　全て新鮮な剥離面	
4	破砕礫	Ia	C	3.0	3.0	1.9	15.5	亜角礫	全て新鮮な剥離面	
5	破砕礫	Ia	C	2.3	2.4	1.0	5.3	亜角礫	点状打面　全て新鮮な剥離面	
6	剥片あるいは破砕礫	Ia	B	1.7	3.65	1.1	7.5	打面	打点不明瞭　自然破砕品の可能性あり	第 25 図 40
7	破砕礫	Ia	D	1.55	2.05	0.45	1.8	なし	全体が転磨を受け表面が荒れる	
8	破砕礫	Ia	C	1.1	1.95	0.7	1.5	なし	剥離面の大半新鮮。近年の破砕礫か	
9	砕片あるいは破砕礫	Ia	A	2.0	1.4	0.3	0.8	なし	打面不明瞭　自然破砕の可能性あり	
10	砕片	Ia	A	1.4	1.45	0.25	0.4	なし	下側縁は折れ状	第 25 図 41
11	破砕礫	Ia	C	1.1	1.3	0.35	0.5	なし	裏面が新鮮な剥離面	
12	砕片	Ia	A	1.55	1.1	0.25	0.3	なし	打点不明瞭　自然破砕品の可能性あり	
13	砕片	Ia	A	0.9	1.2	0.2	0.3	なし	打点不明瞭　自然破砕品の可能性あり	
14	砕片あるいは破砕礫	Ia	B	0.85	1.2	0.3	0.3	あり	裏面がやや新鮮な剥離面　折れ面は新鮮な剥離面	
15	破砕礫	Ia	D	1.0	1.6	0.4	0.6	背面全面	風化強　剥離面全体が荒れており転磨を受けている	
16	剥片あるいは破砕礫	Ia	B	1.1	1.0	0.35	0.4	なし	裏面がやや新鮮な剥離面　折れ面は新鮮な剥離面	
17	破砕礫	Ia	C	1.1	1.0	0.25	0.3	なし	裏面が新鮮な剥離面	
18	破砕礫	Ia	C	0.8	1.15	0.5	0.5	背面全面	裏面が新鮮な剥離面	
19	砕片	Ia	A	0.75	0.8	0.45	0.3	打面	打点不明瞭　自然破砕品か	
20	破砕礫	Ia	C	0.7	1.0	0.55	0.4	なし	裏面が新鮮な剥離面	

大河遺跡

番号	器種	石質	風化度	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	礫表皮	所見	本稿挿図番号
1	二次加工ある剥片	Ia	A・B	2.3	3.55	1.3	10.0	なし	石核素材、錐状？	第 26 図 42
2	二次加工ある剥片	Ia	A	2.9	2.2	1.05	6.3	なし	錐状？	第 26 図 43
3	剥片	Ia	A	2.65	1.85	0.5	1.9	背面の一部	垂直割れ、打面欠損	第 26 図 45
4	剥片	Ia	B	1.85	2.0	0.8	2.3	打面	垂直割れ	第 26 図 44

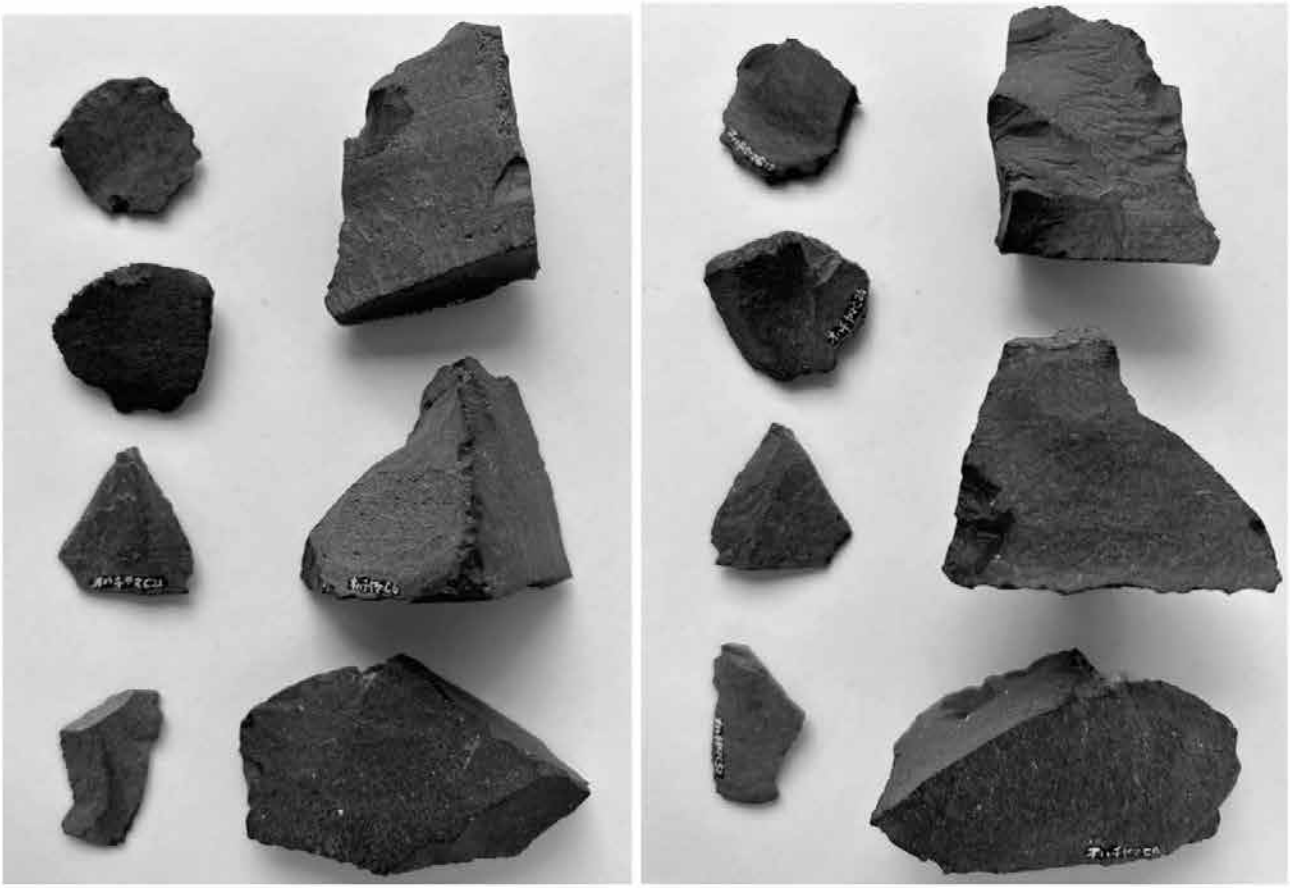
お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物（縮率約２：３）

a　お鉢山遺跡Ｂ地点採集遺物（非図化品、縮率約２：３）
遺物番号　左下４、最上段左から（以下同）８～16、２段目 18～24、３段目 25～30、４段目 31～36、５段目 37～40、最下段 41～50（註記なし）

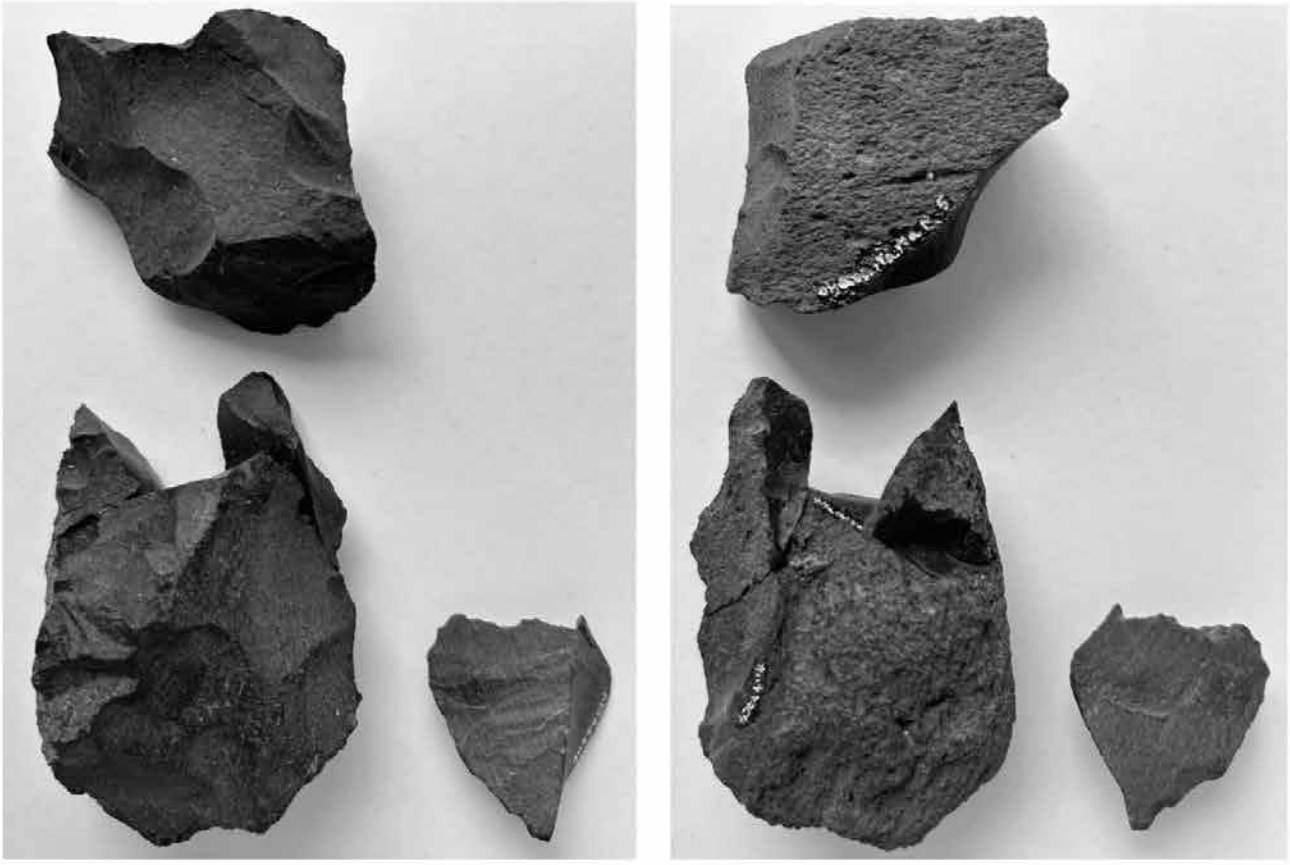


b　お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物１（縮率約２：３）

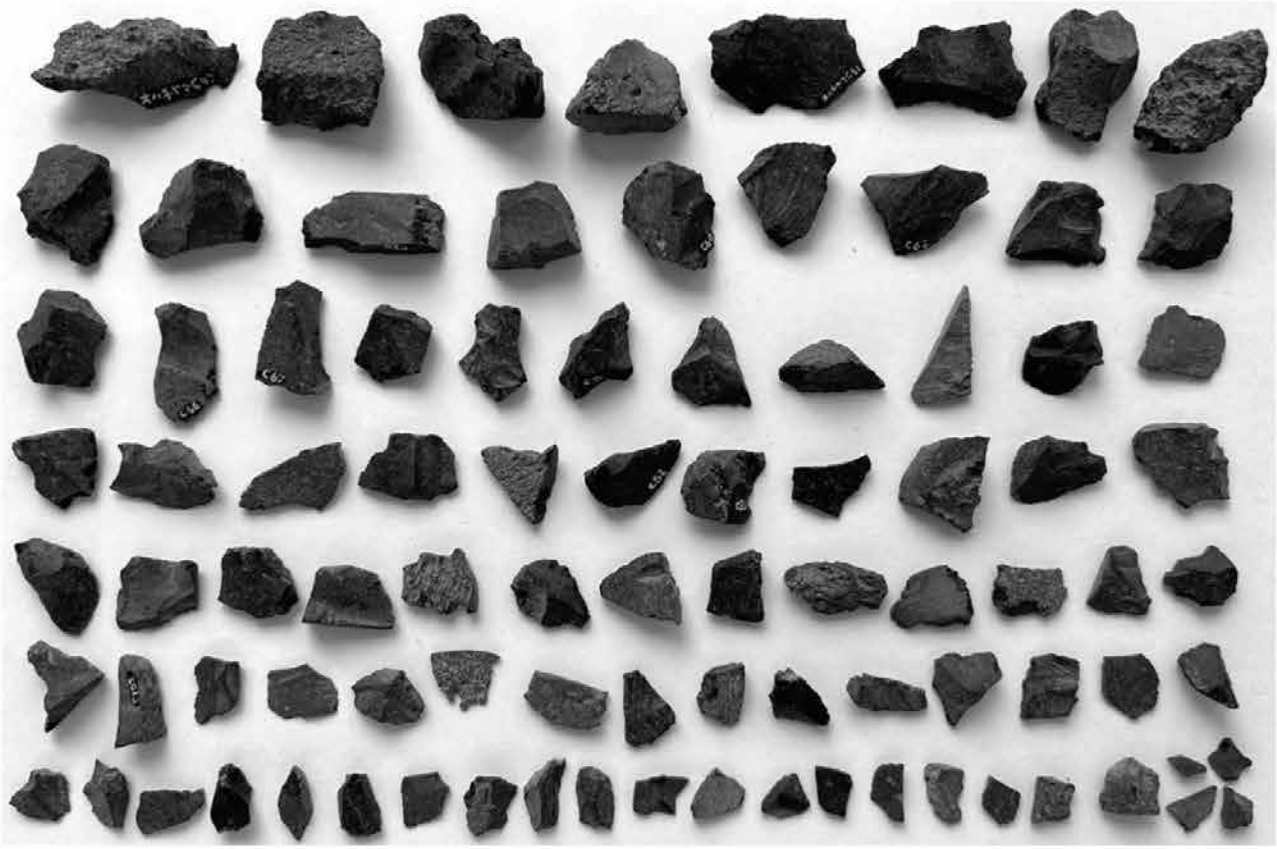
お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物２（縮率約２：３）



a　お鉢山遺跡C地点採集遺物３（縮率約２：３）



b　お鉢山遺跡C地点採集遺物４（縮率約２：３）



お鉢山遺跡Ｃ地点採集遺物５（非図化品、縮尺約２：３）

遺物番号　１段目左から（以下同）47～51・53～55、２段目56～64、３段目65～67・69～76、４段目77～87、５段目88～100、６段目101～115、最下段116～138

お鉢山遺跡D地点採集遺物（縮率約２：３）
遺物番号　１段目 実測図掲載資料第25図34～39、２・３段目 実測図非掲載資料　２段目左から遺物番号７～12、３段目左から13～20（註記なし）

a　お鉢山遺跡Ｅ地点採集遺物（縮率約２：３）
1段目 実測図掲載資料 第25図40・41、2～4段目 実測図非掲載資料　2段目左から（以下同）遺物番号1～4、3段目5・7～9・11～15、4段目16～20

b　大河遺跡採集遺物（縮率約２：３）

２　福原２号遺跡出土の指輪の元素分析

はじめに

福原２号遺跡（東広島市西条町寺家所在）は平成 25 年度に発掘調査を行い、『狐川１号遺跡・福原２号遺跡・福原３号遺跡　都市計画道路吉行飯田線街路改良事業に伴う発掘調査報告書』で報告された遺跡である。弥生時代から近世の集落跡で、近世の遺構は調査区のほぼ全域に広がる。

指輪は、近世の大規模な掘り込み（SX10）の底面に位置する溝状遺構（SD5）から出土した。SD5 は SD4 と共に SX10 の底面に位置し、土層観察から３基の遺構は同時期に存在し、廃絶時期もほぼ同時期と判断された。また出土遺物等の検討により、SX10 は 18 世紀中頃に埋め戻されたものと考えられる。

当該指輪の素材は目視により石と報告された。しかし、報告書刊行後も全国的に近世遺跡の発掘調査事例は増加したが、指輪の出土例は確認されていない。そのため、指輪以外の可能性がないかを確認するため、当該遺物を観察したところ、欠損した箇所に緑青が発生したように見えた。報告書刊行後に劣化が進行し、緑青が明瞭になった可能性がある。つまり、石製ではなく金属製の指輪の可能性が高まった。当該指輪の素材が金属であった場合、報告内容を訂正するとともに、保管方法を変更する必要がある。以上のことから、広島県教育委員会文化財課と協議し、指輪の素材を明らかにするため元素分析を実施した。

資料

当該指輪の規模は外径 2.0×2.1 ㎝、内径 1.6×1.75 ㎝、厚さ 0.1～0.3 ㎝、幅 0.35～0.6 ㎝である。指輪の内面は平坦で、外面は丸みを帯びる。また、指輪の正面と思われる片側は他の位置に比べ、幅が広く、厚い。表面の色調は暗灰オリーブ色である。表面に数カ所の欠損が確認でき、欠けた箇所は明緑灰色で、緑青に似る。分析にあたり詳細に観察した結果、欠損した範囲内に指輪の縁辺部が含まれており、その縁辺部の狭小な範囲で削跡が認められた。その部分には金属のような光沢がわずかに確認できる。

分析法

非破壊による分析を検討した結果、蛍光 X 線分析とエネルギー分散型 X 線分析を行うことになった。いずれの分析も試料に含まれる元素の種類を特定し、その量を計測することができる。蛍光 X 線分析法は試料に X 線を照射して発生する蛍光 X 線のエネルギーと数を計測する。エネルギー分散型 X 線分析は試料に電子線を照射して得られる X 線から、元素の種類を特定するものである。

写真３　指輪
（手前中央やや左側の表面が欠損し、その上部縁辺部に光沢が認められる）

いずれも試料から発生するＸ線を分析するが、蛍光Ｘ線分析は数十μｍの深さから発生するＸ線を分析し、エネルギー分散型Ｘ線分析は数μｍの深さから発生するＸ線を分析するものである。なお、元素分析の実施には広島県立総合技術研究所西部工業技術センターの協力を仰いだ。

分析結果

蛍光Ｘ線分析

実施日：令和５年３月２日　　成果品：定性分析チャート、ピーク同定結果、ＳＱＸ分析結果

※　ＳＱＸ分析とは、ＦＰ（ファンダメンタルパラメータ）法による理論強度計算を用いる半定量分析プログラムである。定性分析の結果をもとにした感度ライブラリを用いて試料の元素含有量を計算するもので、分析にあたって必要であった標準試料を準備する必要がない。

エネルギー分散型Ｘ線分析

実施日：令和５年３月２日及び４月 11 日

成果品：測定ポイント写真（一部を除く）、定性分析チャート、簡易定量分析結果（ZAF 法）

※　ZAF 法とは、標準試料とのずれを分析条件ごとに係数を求めて補正する方法である。標準試料があれば比較的精度の高い定量分析が可能であるが、今回、標準試料は用いていない。

まとめ

蛍光Ｘ線分析やエネルギー分散型Ｘ線分析の分析装置が示す元素含有率はいずれも得られたピーク強度から装置が算出するもので、厳密な定量ではない。それでも複数位置の分析により、材質の傾向が把握できるものと予想した。

「表 13　蛍光Ｘ線分析の結果一覧表」及び「表 14　エネルギー分散型Ｘ線分析の結果一覧表」に元素の定性・定量分析結果をまとめた。酸素は資料の酸化によるものと考えられる。また、炭素やケイ素、アルミニウムなどは資料に付着した土砂等に由来するものであろう。その他では錫が多く含まれ、次に銅や鉛が含まれていた。

蛍光Ｘ線分析では、資料の表面と表面を欠損した部分を分析した。欠損部は緑青の可能性のある箇所である。エネルギー分散型Ｘ線分析では、①資料の表面、②表面と欠損部の間の表面に近い部分（表では「表面付近」と表現）、③欠損部、④指輪縁辺部でわずかに光沢を確認できる部分、⑤光沢が確認された付近（表では「光沢部付近」と表現）である。①表面及び②表面付近は錫の割合が高く、銅・鉛の割合が低い傾向が認められる。③欠損部は、①表面と同様に錫の割合が銅・鉛の割合が低いが、その差は①表面ほど顕著ではない。④光沢部分は、銅と錫の割合が逆転し、銅の割合が高い。またその周辺⑤は銅と錫がほぼ割合が同じである。

含有率の傾向としては、錫が最も高く、次いで銅と鉛が同程度である。分析位置により各元素の含有率が異なり、表面に近いほど錫の含有率が高く、銅の含有率が低い。一方、地金が露出していると思われる、光沢のある部分は銅の含有率が錫より高い。加えて、テスターにより光沢部分の導電性を調べたところ、通電性を有することが確認できたことからも、本資料の材質は金属

である可能性が極めて高い。

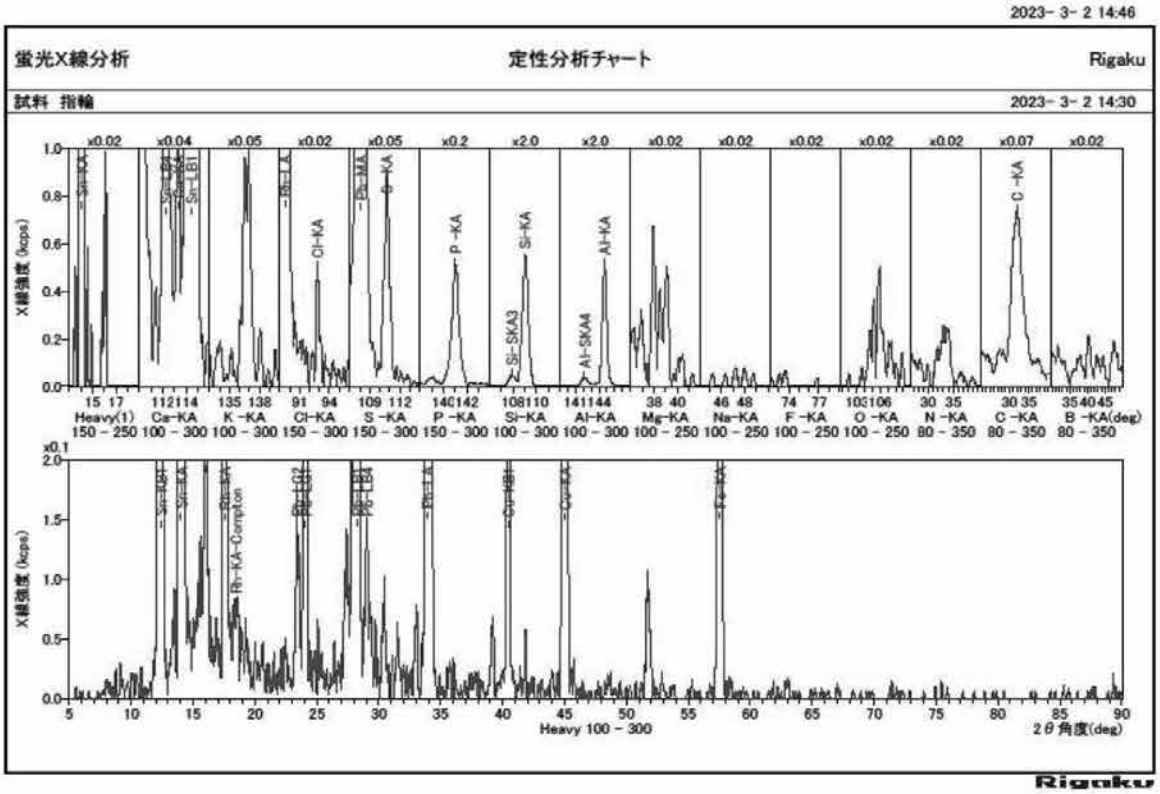
分析位置により元素の含有率が大きく異なる理由は判然としないが、いずれにしても指輪の素材は錫・銅・鉛の合金の可能性が高いことが明らかになった。中世から近世においては装身具としての指輪は存在しないものと考えられており、さらに当該時期の遺跡においても現在まで確認されていない。報告書では、近世遺構から出土したことで指輪の所属時期を近世と推定していたが、新しい時期の混入品と考える方が合理的であろう。

表 13　蛍光 X 線分析の結果一覧表

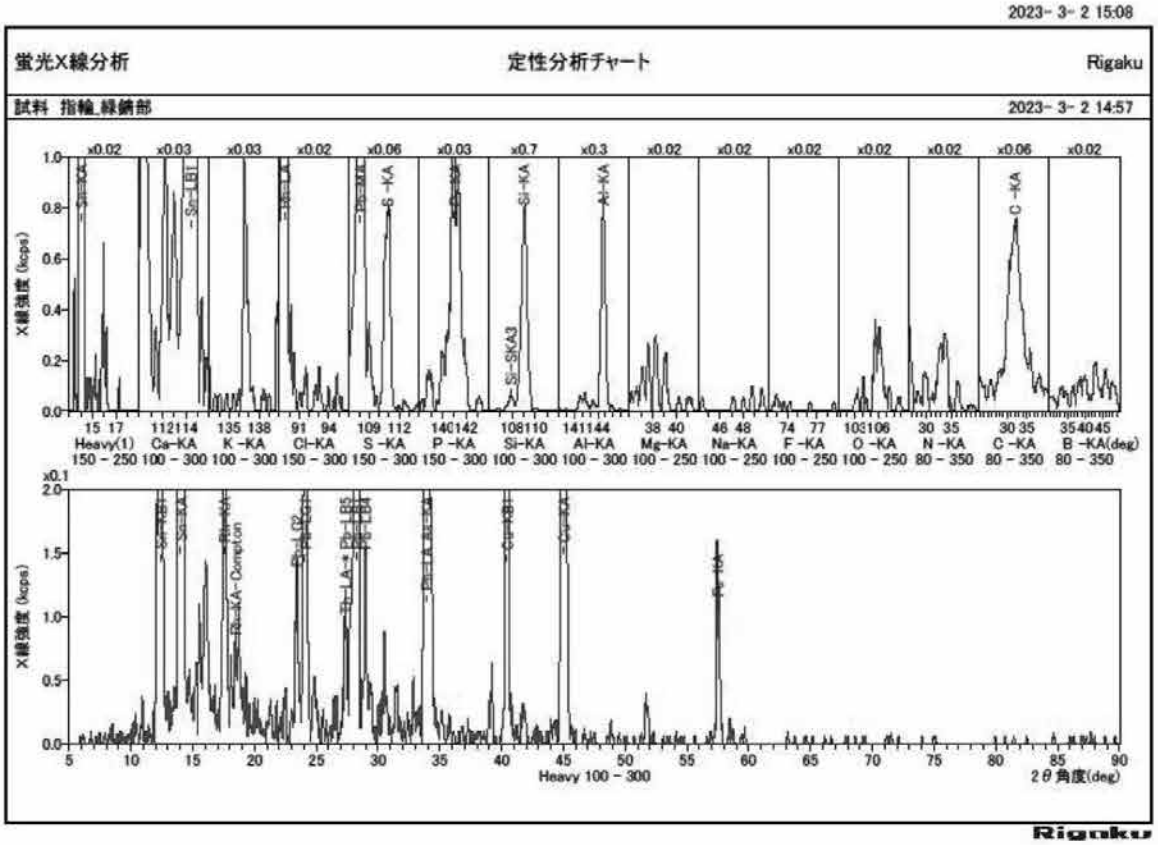
	C	Al	Si	P	S	Cl	Ca	Fe	Cu	As	Sn	Pb	O	合計
	炭素	アルミニウム	ケイ素	リン	硫黄	塩素	カルシウム	鉄	銅	ヒ素	スズ	鉛	酸素	
表面	8.81	5,14	6.4	0.3	0.14	0.1	0.17	1.62	2.09	0	5.77	2.35	67.1	100
欠損部	12	1.93	4.5	0.14	0.18	0	0	0.24	1.82	0.17	3.22	1.6	74.2	100

表 14　エネルギー分散型 X 線分析の結果一覧表

	C	Al	Si	Ti	P	S	Cl	Fe	Cu	Ag	Sn	Pb	O	合計
	炭素	アルミニウム	ケイ素	チタン	リン	硫黄	塩素	鉄	銅	銀	スズ	鉛	酸素	
表面 V000	8.36	7.32	7.96	0.19	0	0	0	3.12	3.05	0	15.9	4.93	49.2	100
表面付近 V005-002	5.67	0.88	3.85	0	0.47	0	0	0.11	5.36	0	32.3	8.56	40.8	100
表面付近 V000-0003	6.37	0.84	4.22	0	0.46	0	0	1.76	5.44	0	34.2	9.14	37.6	100
欠損部 V000-002	6.74	1.56	4.85	0	0.54	0.25	0	0	9.91	0	22.8	9.54	43.8	100
欠損部 V002	9.37	2.32	4.81	0	0.32	0.39	0	4.17	3.37	0	22.9	5.42	47	100
欠損部 V005-003	5.9	2.67	5.09	0	0.38	0	0	0	4.77	0	27.7	9.3	44.2	100
光沢部 V006-008	10.2	2.12	3.63	0	0	0.79	0.5	2.56	30.7	0	13.1	5.9	30.4	100
光沢部付近 V000-0001	4.84	1.46	3.21	0	0.23	0.6	0.33	0	43.8	0	16.5	4.44	24.6	100
光沢部付近 V000-004	555	5.1	8.25	0	0.38	0	0	0	12.3	0	15.8	6.41	46.2	100
光沢部付近 V005-006	5.04	0.69	3.97	0	0.56	2.89	0	0	16.7	2.38	21.1	12.3	34.4	100
光沢部付近 V005-007	6.91	2.58	5.21	0	0.4	0.36	0.44	2.21	16.6	0	16.9	8.08	40.4	100



第27図　定性分析チャート（表面）



第28図　定性分析チャート（欠損部）

表15　ピーク同定結果（表面）

2023- 3- 2 14:46

ピーク同定結果

試料：　指輪　　x=-0.3 y= 0.0　　分析日時：　2023- 3- 2 14:30

アプリケーション：　Mapping_坂田　　ファイル：　指輪_M001

スペクトル	No.	ピーク位置 (deg)	ネット強度 (kcps)	BG強度 (kcps)	線種
Heavy	1	12.401	1.092	0.036	Sn-KB1
	2	14.035	5.030	0.043	Sn-KA
	3	16.015	0.221	0.046	
	4	17.564	0.559	0.024	Rh-KA
	5	23.413	0.130	0.026	Pb-LG2
	6	24.069	0.470	0.021	Pb-LG1
	7	28.238	2.107	0.044	Pb-LB1
	8	29.021	0.119	0.031	Pb-LB4
	9	33.915	2.126	0.003	Pb-LA
	10	40.448	0.349	0.009	Cu-KB1
	11	45.019	1.883	0.005	Cu-KA
	12	57.520	0.687	0.009	Fe-KA
	13	18.440	0.071	0.000	Rh-KA-Compton
	14	12.400	0.712	0.022	Sn-KB1
	15	14.038	3.177	0.021	Sn-KA
	16	16.001	0.150	0.018	
	17	17.561	0.319	0.011	Rh-KA
	18	23.377	0.091	0.017	
	19	24.043	0.240	0.014	Pb-LG1
	20	28.238	0.947	0.030	Pb-LB1
	21	33.915	0.997	0.003	Pb-LA
	22	40.446	0.170	0.006	Cu-KB1
	23	45.020	0.765	0.004	Cu-KA
	24	57.504	0.247	0.003	Fe-KA
	25	18.440	0.033	0.000	
Heavy(1)	1	14.048	0.382	0.003	Sn-KA
	2	14.051	0.279	0.002	Sn-KA
Ca-KA	1	112.273	0.043	0.012	Sn-LB4
	2	113.326	0.037	0.007	Ca-KA
	3	114.455	0.342	0.007	Sn-LB1
Cl-KA	1	89.522	0.094	0.043	Rh-LA
	2	92.802	0.010	0.000	Cl-KA
S -KA	1	108.113	0.279	0.021	Pb-MA
	2	110.697	0.043	0.002	S -KA
P -KA	1	141.018	0.101	0.002	P -KA
Si-KA	1	107.922	0.084	0.007	Si-SKA3
	2	109.025	1.094	0.005	Si-KA
Al-KA	1	142.128	0.064	0.005	Al-SKA4
	2	144.684	1.020	0.006	Al-KA
C -KA	1	31.873	0.046	0.006	C -KA

Rigaku

表16　ピーク同定結果（欠損部）

2023- 3- 2 15:08

ピーク同定結果

試料：　指輪_緑錆部　　分析日時：　2023- 3- 2 14:57

アプリケーション：　B-U_Solid_N_168　　ファイル：　指輪_緑錆部_坂田

スペクトル	No.	ピーク位置 (deg)	ネット強度 (kcps)	BG強度 (kcps)	線種	
Heavy	1	12.408	0.684	0.048	Sn-KB1	
	2	14.036	3.389	0.039	Sn-KA	
	3	17.570	0.256	0.023	Rh-KA	
	4	23.397	0.137	0.004	Pb-LG2	
	5	24.068	0.398	0.005	Pb-LG1	
	6	27.365	0.105	0.012	Th-LA-*	Pb-LB5
	7	28.237	1.626	0.010	Pb-LB1	
	8	28.958	0.146	0.009	Pb-LB4	
	9	33.933	1.602	0.017	Pb-LA	As-KA
	10	40.439	0.364	0.002	Cu-KB1	
	11	45.034	1.804	0.008	Cu-KA	
	12	57.486	0.096	0.004	Fe-KA	
	13	18.440	0.079	0.000	Rh-KA-Compton	
	14	12.065	0.137	0.001	Sn-KB2	
	15	12.404	0.475	0.001	Sn-KB1	
	16	14.033	2.092	0.020	Sn-KA	
	17	17.556	0.124	0.017	Rh-KA	
	18	23.431	0.090	0.008	Pb-LG2	
	19	24.063	0.180	0.009	Pb-LG1	
	20	28.244	0.788	0.027	Pb-LB1	
	21	33.928	0.694	0.005	Pb-LA	As-KA
	22	40.440	0.182	0.001	Cu-KB1	
	23	45.026	0.751	0.004	Cu-KA	
	24	18.440	0.041	0.000		
Heavy(1)	1	14.031	0.252	0.001	Sn-KA	
	2	14.025	0.170	0.000	Sn-KA	
Ca-KA	1	114.408	0.145	0.011	Sn-LB1	
Cl-KA	1	89.532	0.057	0.016	Rh-LA	
S -KA	1	108.131	0.139	0.015	Pb-MA	
	2	110.814	0.043	0.003	S -KA	
P -KA	1	141.017	0.037	0.003	P -KA	
Si-KA	1	107.917	0.039	0.002	Si-SKA3	
	2	109.028	0.557	0.003	Si-KA	
Al-KA	1	144.679	0.251	0.005	Al-KA	
C -KA	1	31.949	0.038	0.005	C -KA	

Rigaku

表17　ＳＱＸ分析結果（表面）

2023- 3- 2 15:01

SQX分析結果

試料名：指輪
分析日時：2023- 3- 2 14:30
アプリケーション：Mapping_坂田
試料タイプ：金属 & 合金
残分：O
マッチングライブラリ：
試料フィルム吸収補正：
不純物補正：
ファイル：指輪_M001

No.	成分名	分析値	単位	検出下限	分析線	X線強度	規格化前
1	C	8.81	mass%	1.22760	C -KA	0.0457	8.8063
2	Al	5.14	mass%	0.02805	Al-KA	1.0196	5.1404
3	Si	6.40	mass%	0.03008	Si-KA	1.0939	6.3978
4	P	0.298	mass%	0.01074	P -KA	0.1005	0.2980
5	S	0.142	mass%	0.01144	S -KA	0.0426	0.1418
6	Cl	0.0980	mass%	0.01938	Cl-KA	0.0096	0.0980
7	Ca	0.167	mass%	0.08233	Ca-KA	0.0375	0.1668
8	Fe	1.62	mass%	0.07317	Fe-KA	0.6869	1.6176
9	Cu	2.09	mass%	0.03009	Cu-KA	1.8835	2.0914
10	Sn	5.77	mass%	0.35094	Sn-KA	0.3823	5.7693
11	Pb	2.35	mass%	0.05963	Pb-LB1	2.1066	2.3475
12	O	67.1	mass%				67.1252

Rigaku

表18　ＳＱＸ分析結果（欠損部）

2023- 3- 2 15:09

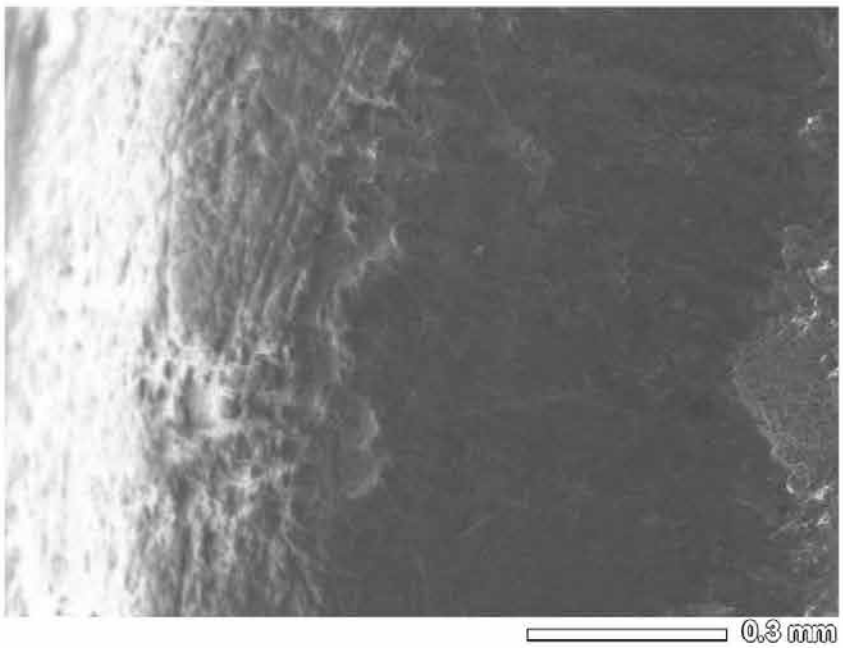
SQX分析結果

試料名：指輪_緑錆部　　分析日時：2023- 3- 2 14:57
アプリケーション：B-U_Solid_N_168　　試料タイプ：金属 & 合金
残分：O
マッチングライブラリ：
試料フィルム吸収補正：　　不純物補正：
ファイル：指輪_緑錆部_坂田

No.	成分名	分析値	単位	検出下限	分析線	X線強度	規格化前
1	C	12.0	mass%	1.98122	C -KA	0.0376	12.0366
2	Al	1.93	mass%	0.07543	Al-KA	0.2509	1.9278
3	Si	4.50	mass%	0.07105	Si-KA	0.5568	4.5045
4	P	0.143	mass%	0.03329	P -KA	0.0365	0.1425
5	S	0.182	mass%	0.03637	S -KA	0.0425	0.1817
6	Fe	0.242	mass%	0.06678	Fe-KA	0.0964	0.2417
7	Cu	1.82	mass%	0.03031	Cu-KA	1.8039	1.8151
8	As	0.171	mass%	0.10719	As-KA	1.6018	0.1707
9	Sn	3.22	mass%	0.16815	Sn-KA	0.2521	3.2196
10	Pb	1.60	mass%	0.03086	Pb-LB1	1.6256	1.5967
11	O	74.2	mass%				74.1631

Rigaku

View000

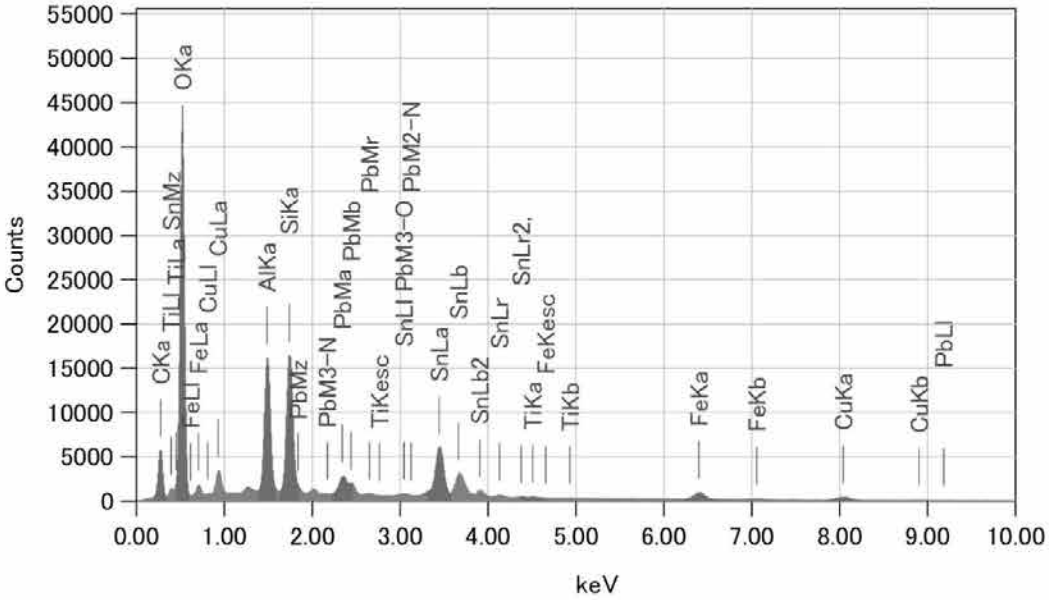


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 100
測定日時	：2023/03/02
画素数	：512 x 384

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：126.01 sec
有効時間	：120.00 sec
デッドタイム	：4 %
計数率	：9509 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



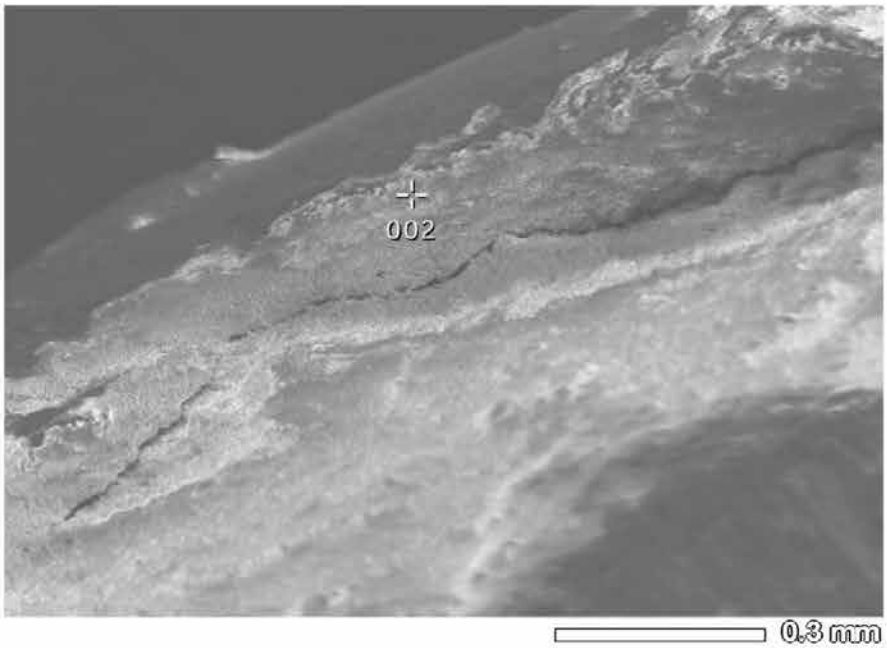
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0935

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	8.36	0.02	15.16				4.1177
O K	0.525	49.17	0.08	66.96				48.2997
Al K	1.486	7.32	0.03	5.91				7.6550
Si K	1.739	7.96	0.03	6.18				9.1795
Ti K	4.508	0.19	0.01	0.09				0.2397
Fe K	6.398	3.12	0.03	1.22				4.0522
Cu K	8.040	3.05	0.05	1.05				3.8014
Sn L	3.442	15.90	0.06	2.92				17.6221
Pb M	2.342	4.93	0.04	0.52				5.0326
合計		100.00		100.00				

JED-2300 *AnalysisStation*　JEOL

第29図　エネルギー分散型X線分析結果（表面：V000）

View005-002

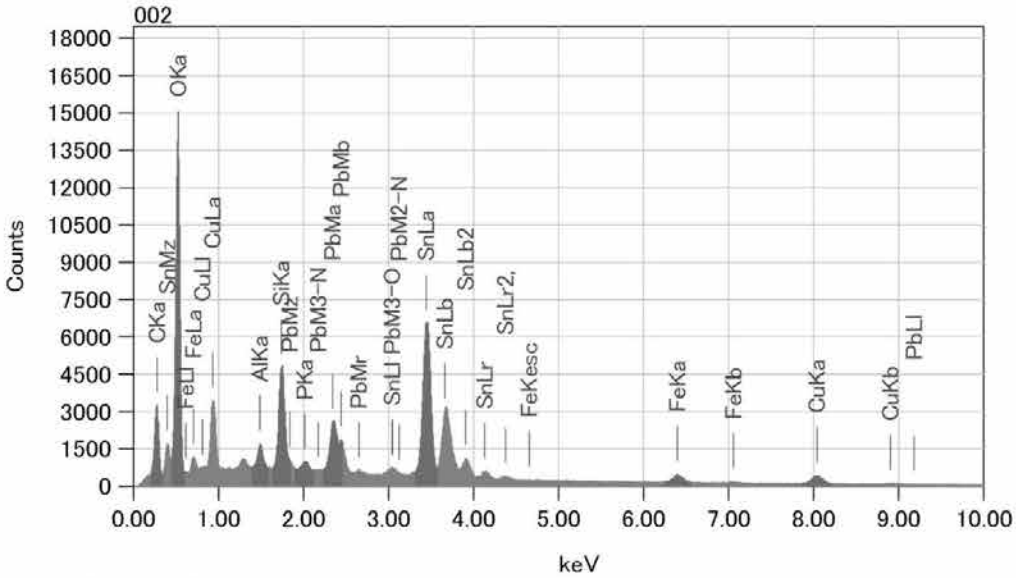


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 100
測定日時	：2023/03/02
画素数	：512 x 384

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：59.02 sec
有効時間	：55.48 sec
デッドタイム	：6 %
計数率	：11951 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



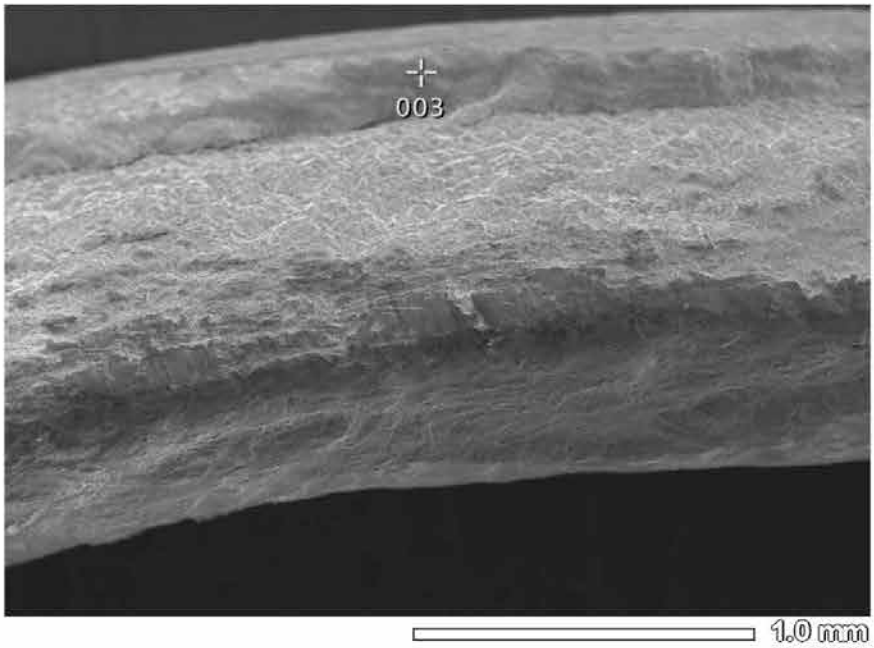
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ： 0.0952

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	5.67	0.02	12.96				4.1291
O K	0.525	40.82	0.12	70.01				30.9704
Al K	1.486	0.88	0.02	0.90				0.9114
Si K	1.739	3.85	0.03	3.76				4.7263
P K	2.013	0.47	0.01	0.42				0.6222
Fe K	6.398	2.11	0.04	1.04				2.9694
Cu K	8.040	5.36	0.09	2.31				7.3395
Sn L	3.442	32.28	0.12	7.46				38.5835
Pb M	2.342	8.56	0.07	1.13				9.7482
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第30図　エネルギー分散型X線分析結果（表面付近：V005-002）

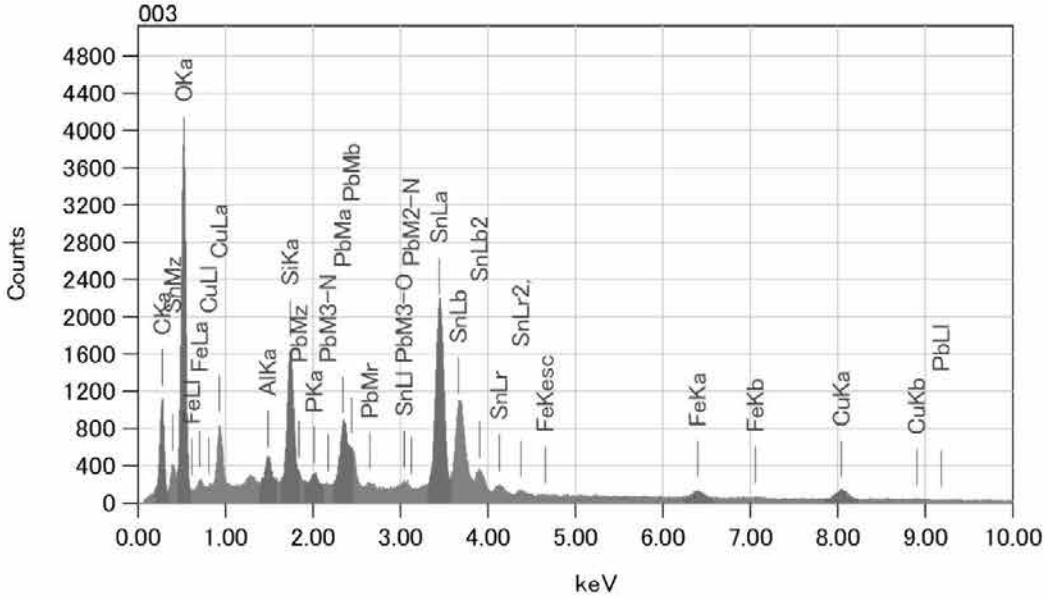
View000-003



タイトル　：IMG1

装置　：6510(LA)
加速電圧　：15.00 kV
倍率　：x 50
測定日時　：2023/04/11
画素数　：1024 x 768

測定条件
装置名　：6510(LA)
加速電圧　：15.0 kV
照射電流　：7.47500 nA
PHAモード　：T3
経過時間　：61.42 sec
有効時間　：60.00 sec
デッドタイム　：2 %
計数率　：3479 cps
エネルギ範囲　：0 - 20 keV



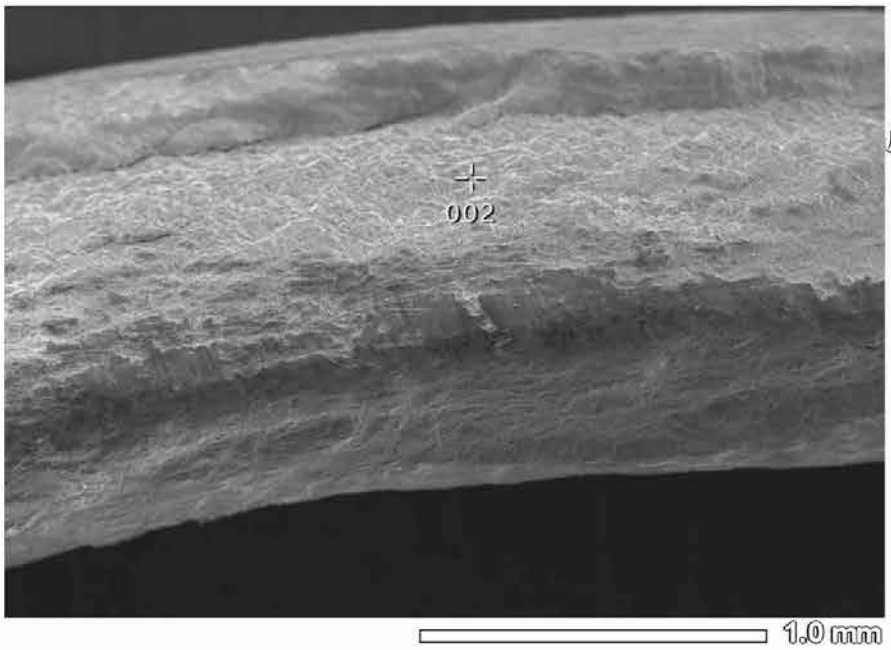
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0997

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	6.37	0.04	15.06				4.6514
O K	0.525	37.57	0.22	66.63				27.2376
Al K	1.486	0.84	0.03	0.89				0.8716
Si K	1.739	4.22	0.05	4.26				5.2025
P K	2.013	0.46	0.02	0.42				0.6092
Fe K	6.398	1.76	0.07	0.90				2.4949
Cu K	8.040	5.44	0.17	2.43				7.5084
Sn L	3.442	34.19	0.22	8.17				40.9753
Pb M	2.342	9.14	0.13	1.25				10.4492
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第31図　エネルギー分散型X線分析結果（表面付近：V005-003）

View000-002

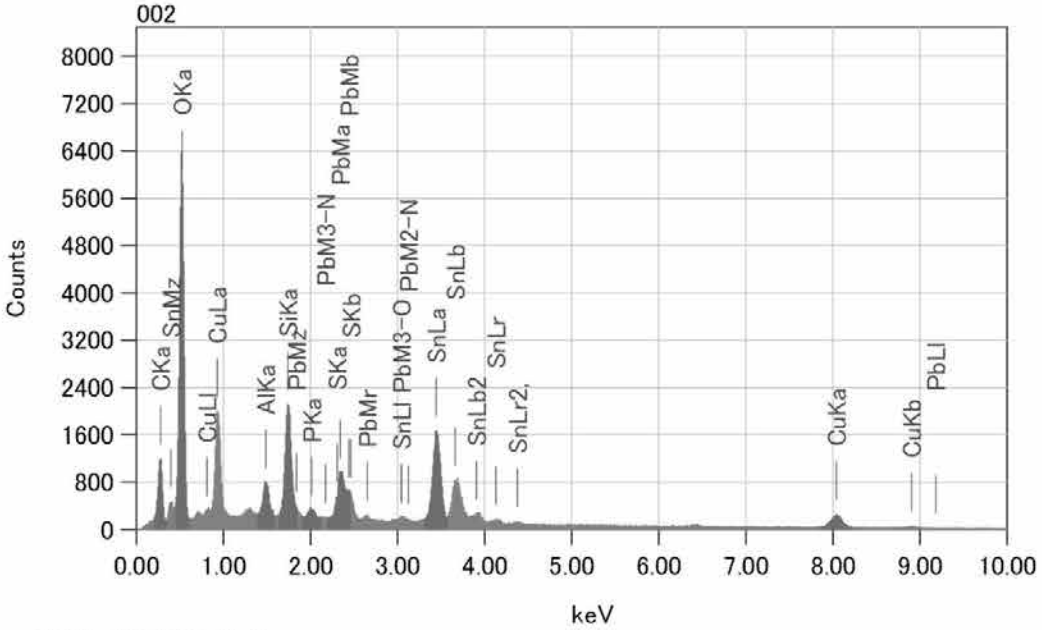


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 50
測定日時	：2023/04/11
画素数	：1024 x 768

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：61.49 sec
有効時間	：60.00 sec
デッドタイム	：2 %
計数率	：3946 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



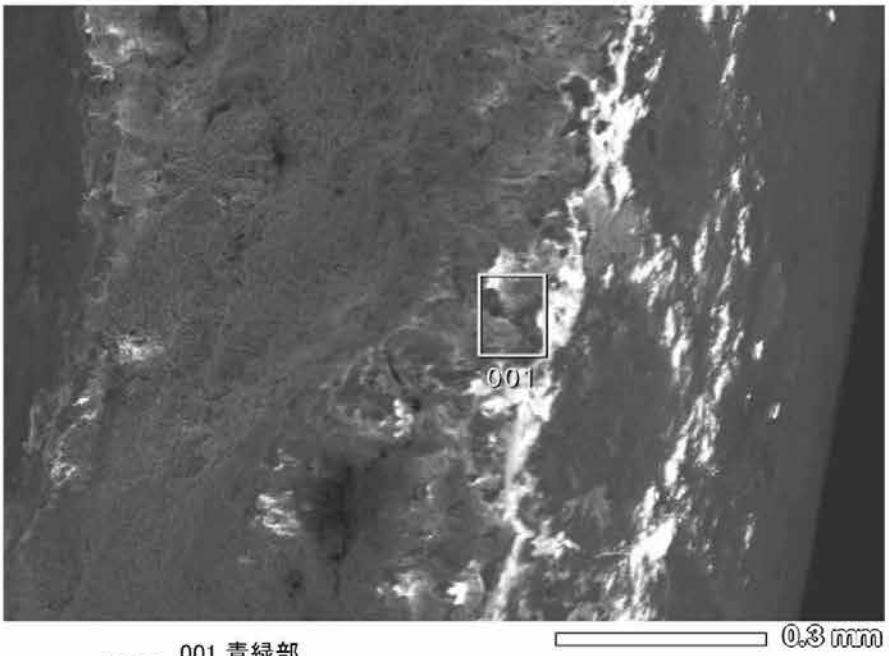
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.1108

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	6.74	0.04	14.22				4.1830
O K	0.525	43.81	0.20	69.33				37.9434
Al K	1.486	1.56	0.03	1.46				1.5713
Si K	1.739	4.85	0.05	4.37				5.7732
P K	2.013	0.54	0.02	0.44				0.6845
S K	2.307	0.25	0.02	0.20				0.3556
Cu K	8.040	9.91	0.20	3.95				13.0754
Sn L	3.442	22.80	0.17	4.86				26.0998
Pb M	2.342	9.54	0.13	1.17				10.3137
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第32図　エネルギー分散型X線分析結果（欠損部：V000-002）

View002

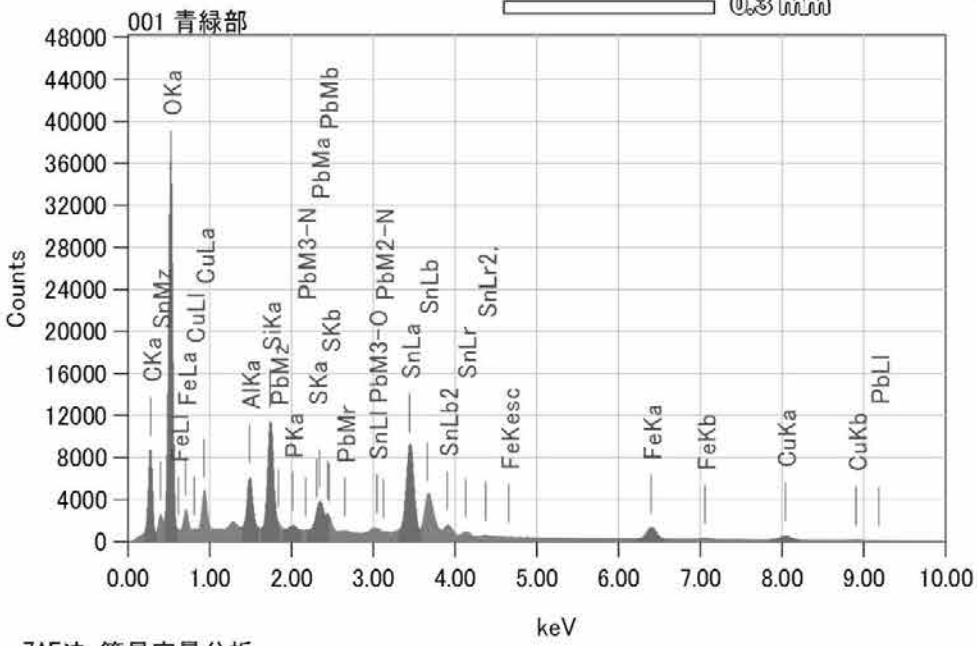


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 100
測定日時	：2023/03/02
画素数	：512 x 384

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：126.45 sec
有効時間	：120.00 sec
デッドタイム	：5 %
計数率	：9982 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



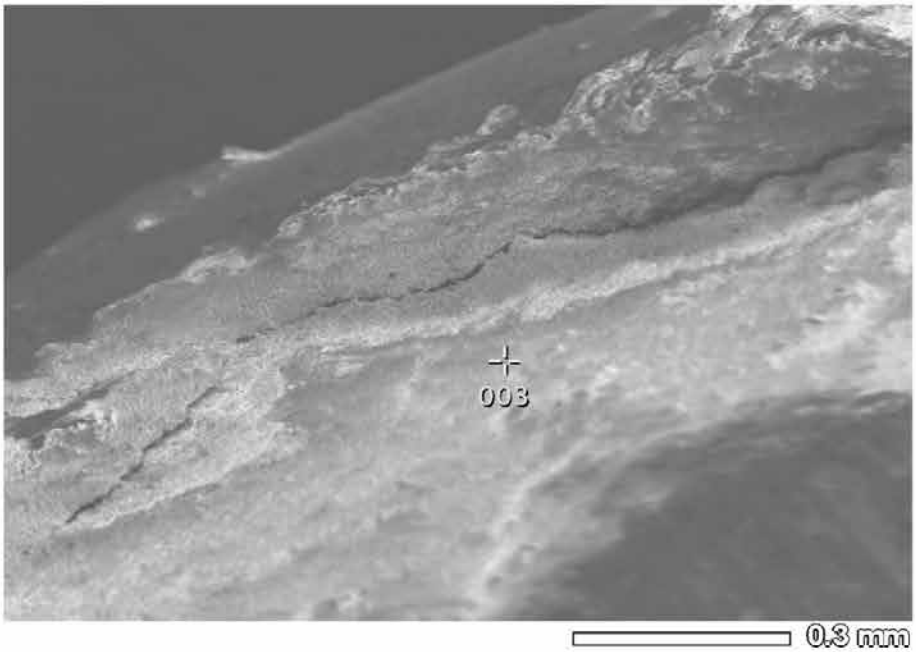
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0996

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	9.37	0.02	17.97				6.0522
O K	0.525	46.96	0.09	67.60				41.3932
Al K	1.486	2.32	0.02	1.98				2.4470
Si K	1.739	4.81	0.02	3.95				5.9137
P K	2.013	0.32	0.01	0.23				0.4121
S K	2.307	0.39	0.01	0.28				0.5722
Fe K	6.398	4.17	0.04	1.72				5.7389
Cu K	8.040	3.37	0.05	1.22				4.4583
Sn L	3.442	22.87	0.07	4.44				26.9920
Pb M	2.342	5.42	0.05	0.60				6.0205
合計		100.00		100.00				

JED-2300 *AnalysisStation*　JEOL

第33図　エネルギー分散型X線分析結果（欠損部：V002）

View005-003

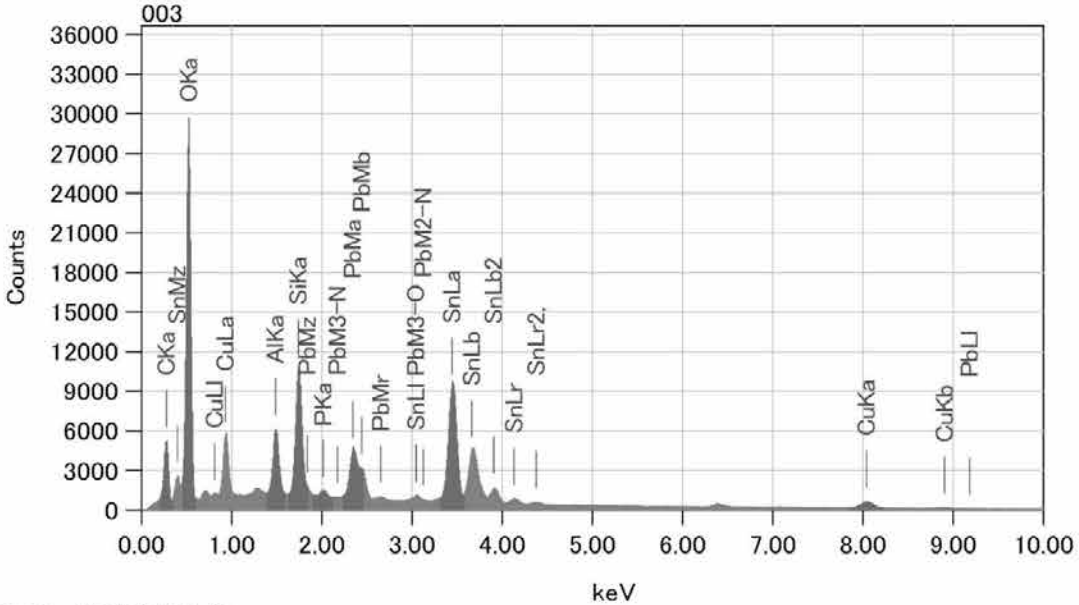


タイトル　：IMG1

装置	: 6510(LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: x 100
測定日時	: 2023/03/02
画素数	: 512 x 384

測定条件

装置名	: 6510(LA)
加速電圧	: 15.0 kV
照射電流	: 7.47500 nA
PHAモード	: T3
経過時間	: 94.19 sec
有効時間	: 88.33 sec
デッドタイム	: 6 %
計数率	: 12577 cps
エネルギ範囲	: 0 - 20 keV



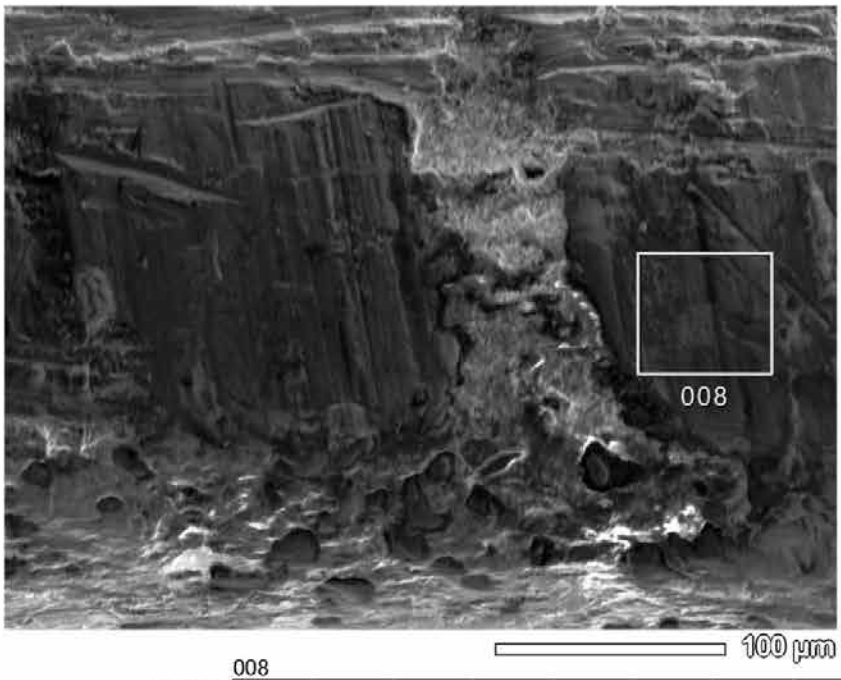
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 : 0.0993

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	5.90	0.02	12.59				3.9465
O K	0.525	44.21	0.09	70.86				36.2557
Al K	1.486	2.67	0.02	2.54				2.8566
Si K	1.739	5.09	0.02	4.64				6.3273
P K	2.013	0.38	0.01	0.31				0.5023
Cu K	8.040	4.77	0.07	1.92				6.5357
Sn L	3.442	27.68	0.08	5.98				33.0373
Pb M	2.342	9.30	0.06	1.15				10.5385
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第34図　エネルギー分散型X線分析結果（欠損部：V005-003）

View006-008

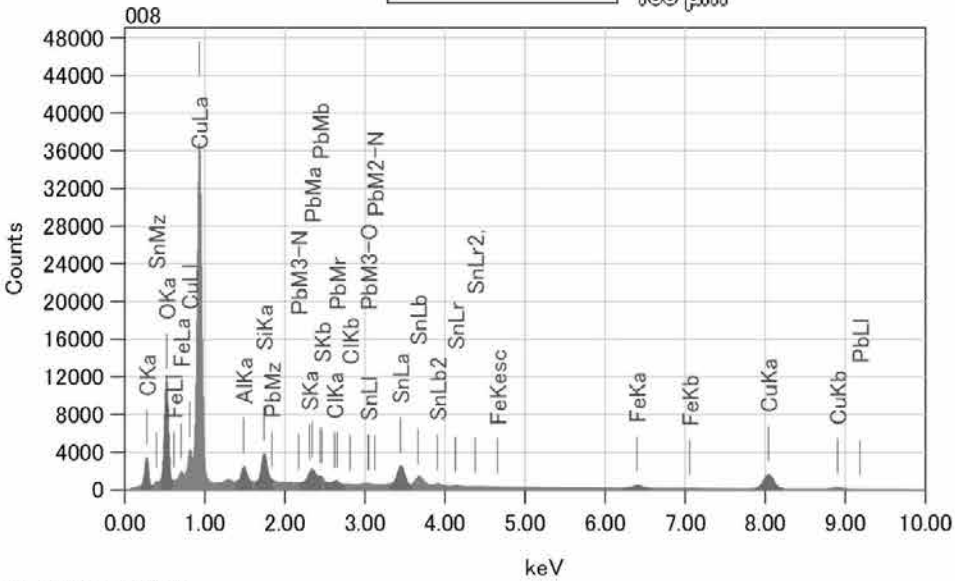


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 350
測定日時	：2023/04/11
画素数	：1024 x 768

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：64.58 sec
有効時間	：60.00 sec
デッドタイム	：7 %
計数率	：14754 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



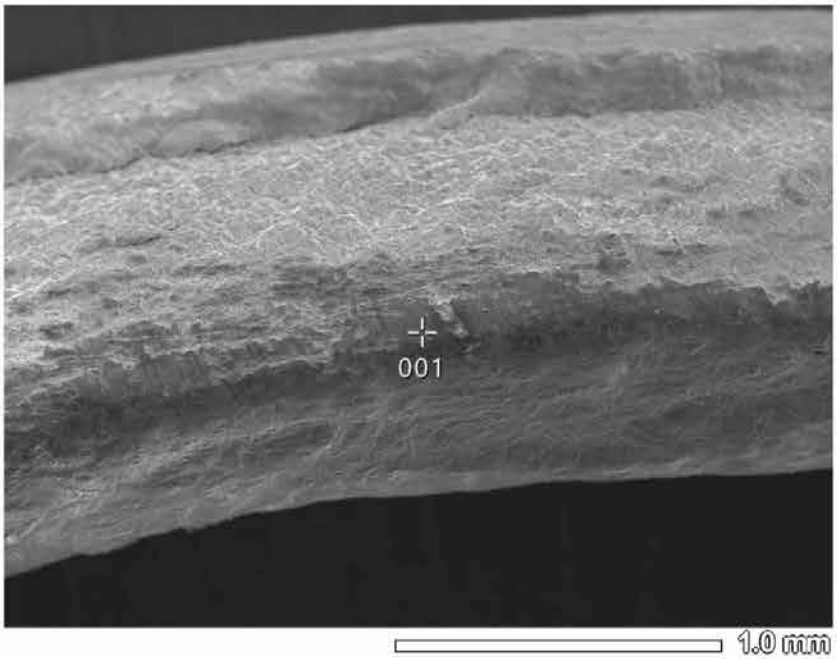
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0456

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	10.23	0.04	23.21				4.8250
O K	0.525	30.44	0.11	51.85				28.8638
Al K	1.486	2.12	0.03	2.14				1.7619
Si K	1.739	3.63	0.04	3.52				3.6272
S K	2.307	0.79	0.02	0.67				0.9960
Cl K	2.621	0.50	0.02	0.39				0.6469
Fe K	6.398	2.56	0.05	1.25				3.3209
Cu K	8.040	30.74	0.25	13.19				36.8540
Sn L	3.442	13.08	0.10	3.00				13.5707
Pb M	2.342	5.90	0.10	0.78				5.5336
合計		100.00		100.00				

JED-2300 *AnalysisStation*　JEOL

第35図　エネルギー分散型X線分析結果（光沢部：V006-008）

View000-001

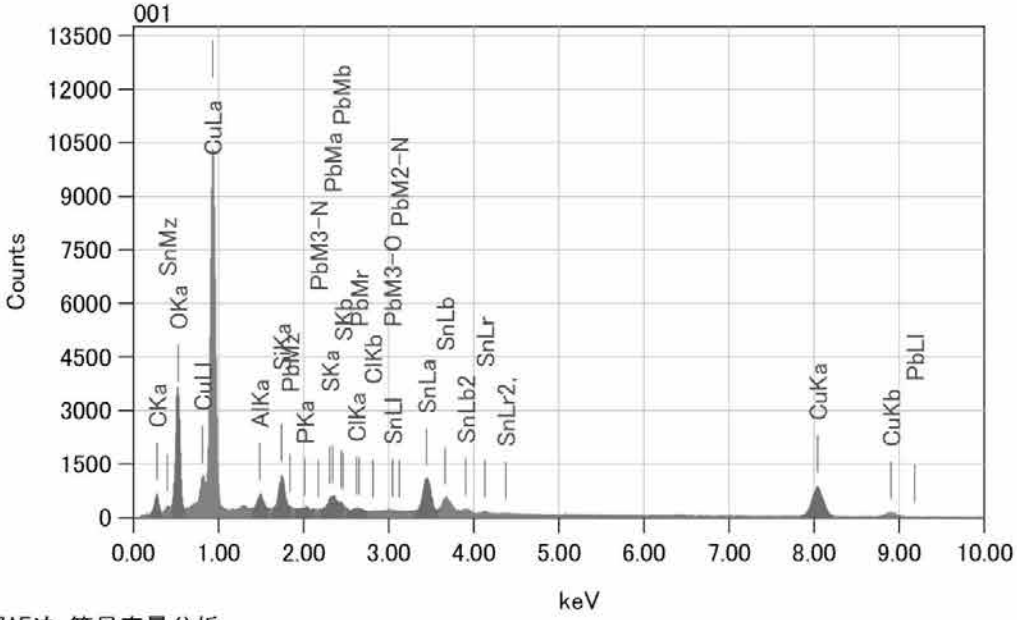


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 50
測定日時	：2023/04/11
画素数	：1024 x 768

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：61.70 sec
有効時間	：60.00 sec
デッドタイム	：2 %
計数率	：4557 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



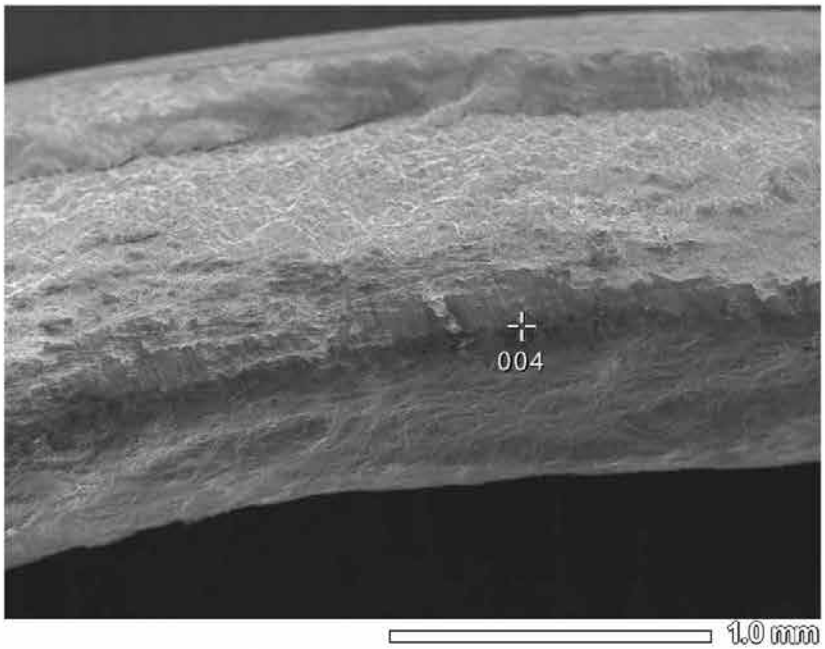
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0463

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	4.84	0.04	13.46				2.1429
O K	0.525	24.63	0.15	51.40				22.0879
Al K	1.486	1.46	0.04	1.81				1.0739
Si K	1.739	3.21	0.05	3.81				2.8964
P K	2.013	0.23	0.02	0.25				0.2338
S K	2.307	0.60	0.03	0.63				0.7026
Cl K	2.621	0.33	0.02	0.31				0.3951
Cu K	8.040	43.75	0.43	22.98				50.3458
Sn L	3.442	16.51	0.16	4.64				16.2623
Pb M	2.342	4.44	0.13	0.72				3.8593
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第36図　エネルギー分散型X線分析結果（光沢部：V000-001）

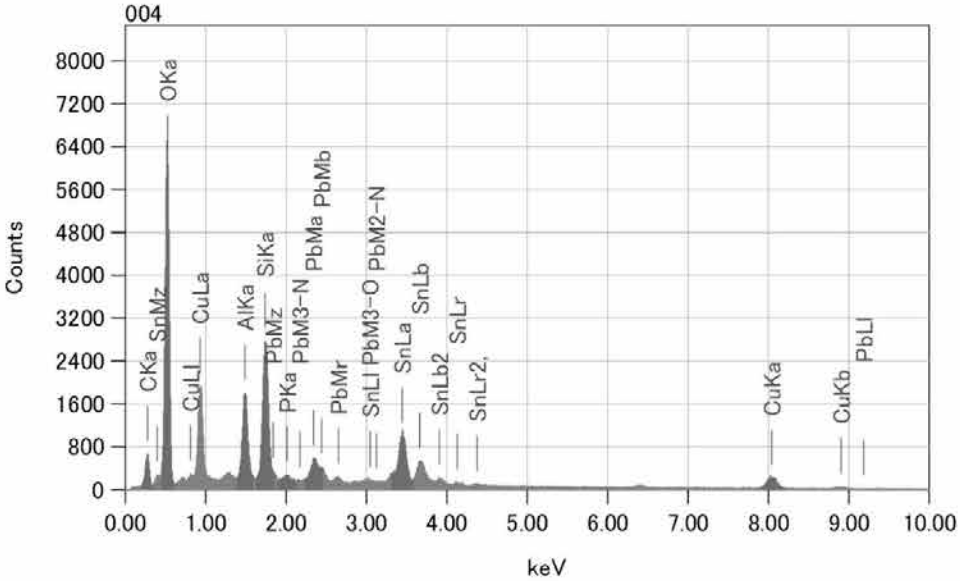
View000-004



タイトル　：IMG1

装置　：6510(LA)
加速電圧　：15.00 kV
倍率　：x 50
測定日時　：2023/04/11
画素数　：1024 x 768

測定条件
装置名　：6510(LA)
加速電圧　：15.0 kV
照射電流　：7.47500 nA
PHAモード　：T3
経過時間　：61.34 sec
有効時間　：60.00 sec
デッドタイム　：2 %
計数率　：3605 cps
エネルギ範囲　：0 - 20 keV



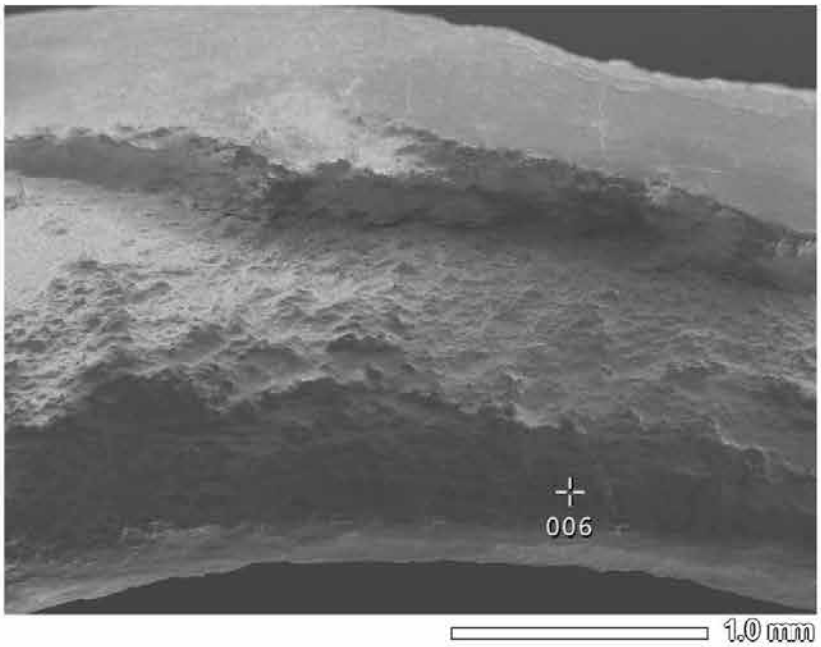
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.1067

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	5.55	0.04	11.00				2.5855
O K	0.525	46.19	0.20	68.70				44.9761
Al K	1.486	5.10	0.06	4.50				4.8902
Si K	1.739	8.25	0.07	6.99				9.0244
P K	2.013	0.38	0.02	0.29				0.4315
Cu K	8.040	12.34	0.24	4.62				15.0293
Sn L	3.442	15.78	0.16	3.16				16.8267
Pb M	2.342	6.41	0.13	0.74				6.2363
合計		100.00		100.00				

JED-2300 *AnalysisStation*　JEOL

第37図　エネルギー分散型X線分析結果（光沢部付近：V000-004）

View005-006

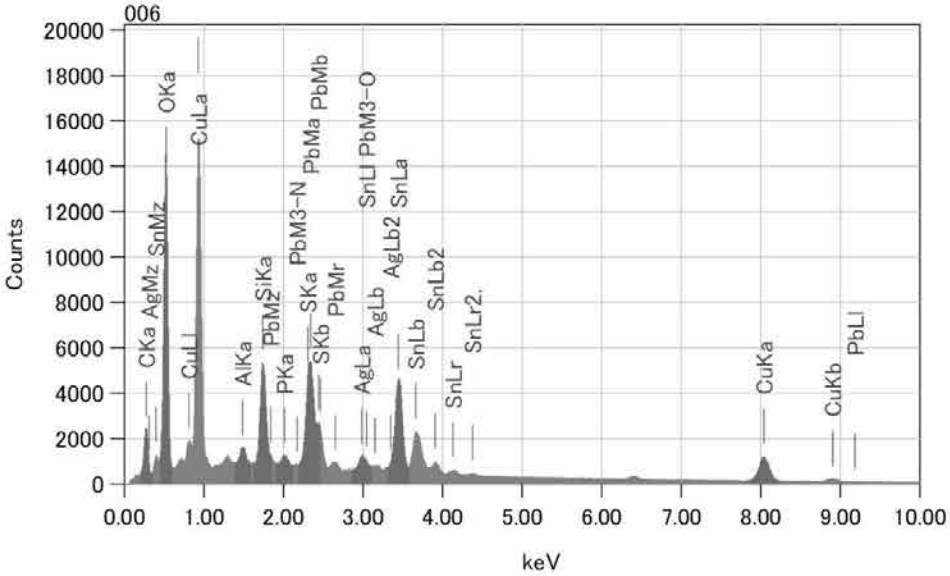


タイトル　：IMG1

装置	：6510(LA)
加速電圧	：15.00 kV
倍率	：x 40
測定日時	：2023/04/11
画素数	：1024 x 768

測定条件

装置名	：6510(LA)
加速電圧	：15.0 kV
照射電流	：7.47500 nA
PHAモード	：T3
経過時間	：64.38 sec
有効時間	：60.00 sec
デッドタイム	：6 %
計数率	：13955 cps
エネルギ範囲	：0 - 20 keV



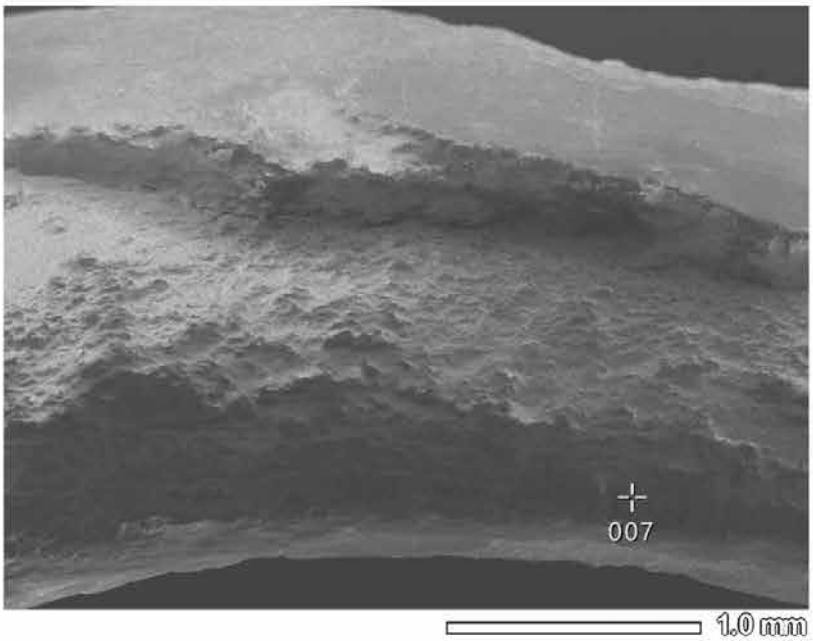
ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0766

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	5.04	0.02	12.45				2.6586
O K	0.525	34.42	0.10	63.89				28.1747
Al K	1.486	0.69	0.02	0.76				0.6489
Si K	1.739	3.97	0.03	4.20				4.4580
P K	2.013	0.56	0.01	0.54				0.6785
S K	2.307	2.89	0.02	2.68				3.9646
Cu K	8.040	16.65	0.15	7.78				21.3415
Ag L	2.983	2.38	0.04	0.66				2.6271
Sn L	3.442	21.08	0.10	5.28				22.7241
Pb M	2.342	12.33	0.10	1.77				12.7240
合計		100.00		100.00				

JED-2300 AnalysisStation　JEOL

第38図　エネルギー分散型X線分析結果（光沢部付近：V005-006）

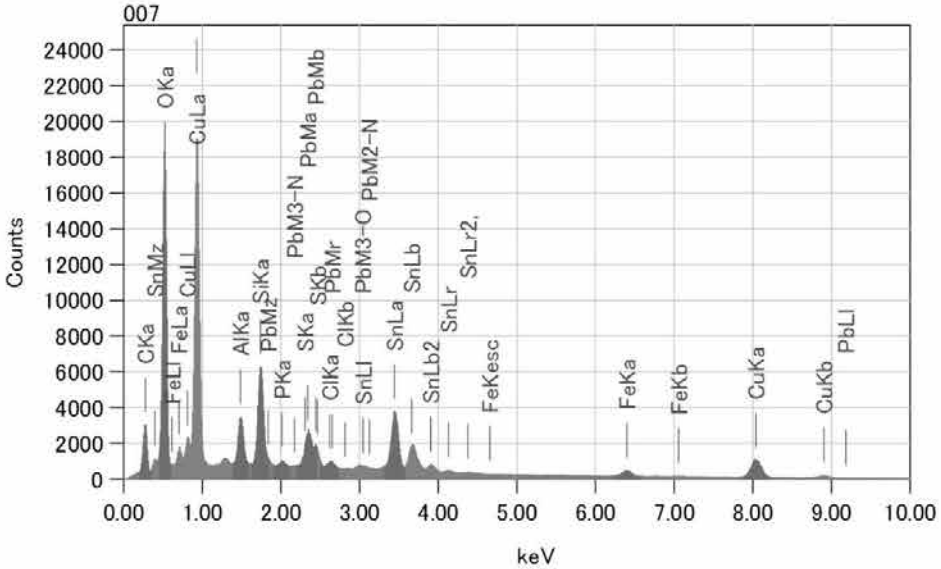
View005-007



タイトル　：IMG1

装置　：6510(LA)
加速電圧　：15.00 kV
倍率　：x 40
測定日時　：2023/04/11
画素数　：1024 x 768

測定条件
装置名　：6510(LA)
加速電圧　：15.0 kV
照射電流　：7.47500 nA
PHAモード　：T3
経過時間　：64.28 sec
有効時間　：60.00 sec
デッドタイム　：6 %
計数率　：13815 cps
エネルギ範囲　：0 - 20 keV



ZAF法 簡易定量分析
フィッティング係数 ：0.0734

元素	(keV)	質量%	σ	原子数%	化合物	質量%	カチオン数	K
C K	0.277	6.91	0.03	14.75				3.5105
O K	0.525	40.40	0.10	64.76				37.5432
Al K	1.486	2.58	0.02	2.45				2.3758
Si K	1.739	5.21	0.03	4.75				5.6595
P K	2.013	0.40	0.01	0.33				0.4692
S K	2.307	0.36	0.01	0.29				0.4750
Cl K	2.621	0.44	0.01	0.32				0.5910
Fe K	6.398	2.21	0.04	1.02				2.8805
Cu K	8.040	16.56	0.15	6.69				20.4539
Sn L	3.442	16.85	0.09	3.64				18.0422
Pb M	2.342	8.08	0.08	1.00				7.9994
合計		100.00		100.00				

JED-2300 *AnalysisStation*　JEOL

第39図　エネルギー分散型X線分析結果（光沢部付近：V005-007）

報　告　書　抄　録

ふりがな	れいわよねんどひろしまけんないいせきはっくつちょうさ（しょうさいぶんぷちょうさ）ほうこくしょ
書　　名	令和４年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書
編著者名	森本直人、沖　憲明、渡邊昭人
編集機関	広島県教育委員会事務局管理部文化財課
所 在 地	〒730-8514　広島県広島市中区基町９番 42 号　TEL082-513-5023
発行年月日	西暦 2024 年３月 31 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	遺跡面積（㎡）	発掘原因
高屋 堀 ２号遺跡（たかやほり）	広島県（ひろしまけん） 東広島市（ひがしひろしまし） 高屋 町（たかやちょう） 高屋 堀（たかやほり）	34212		34° 27′ 38″	132° 48′ 05″	20221219～20221226	2,700	試掘調査
お鉢山遺跡（おはちやま） Ｂ地点	広島県（ひろしまけん） 廿日市市（はつかいちし） 飯山（いいのやま）	34213	34325 -47	34° 23′ 40″	132° 04′ 27″	－	未確定	保存目的調査（分布調査）
お鉢山遺跡（おはちやま） Ｃ地点	広島県（ひろしまけん） 廿日市市（はつかいちし） 飯山（いいのやま）	34213	34325 -48	34° 23′ 53″	132° 04′ 38″	－	未確定	保存目的調査（分布調査）
お鉢山遺跡（おはちやま） Ｄ地点	広島県（ひろしまけん） 廿日市市（はつかいちし） 飯山（いいのやま）	34213	34325 -49	34° 23′ 55″	132° 04′ 42″	－	未確定	保存目的調査（分布調査）
お鉢山遺跡（おはちやま） Ｅ地点	広島県（ひろしまけん） 廿日市市（はつかいちし） 飯山（いいのやま）	34213	34325 -50	34° 24′ 50″	132° 04′ 49″	－	未確定	保存目的調査（分布調査）
大河遺跡（おおかわ）	広島県（ひろしまけん） 廿日市市（はつかいちし） 飯山（いいのやま）	34213	34325 -51	34° 25′ 07″	132° 05′ 12″	－	未確定	保存目的調査（分布調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高屋堀２号遺跡	集落跡	中世	溝状遺構、土坑	土器、金属滓	
お鉢山遺跡 Ｂ地点	包含地	旧石器時代終末以降か	（なし）	石器（削器、剥片・砕片、石核）、破砕礫	
お鉢山遺跡 Ｃ地点	包含地	旧石器・縄文	（なし）	石器（削器、二次加工ある剥片、楔形石器削片、剥片・砕片）、破砕礫、礫	
お鉢山遺跡 Ｄ地点	包含地	旧石器	（なし）	石器（剥片・砕片）、破砕礫	翼状剥片、縦長剥片採集
お鉢山遺跡 Ｅ地点	包含地	不明	（なし）	剥片あるいは破砕礫、砕片、破砕礫	
大河遺跡	包含地	不明	（なし）	石器（二次加工ある剥片、剥片）	

要　　約	大規模開発事業等に先立ち、令和４年度に実施した埋蔵文化財の分布調査及び試掘・確認調査の成果等を収録した。令和４年度に現地踏査等 34 件、試掘・確認調査３事業８地点を実施した結果、埋蔵文化財包蔵地１か所を確認した。

令和４年度
広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書

編　集　広島県教育委員会事務局管理部文化財課
広島県広島市中区基町９番 42 号
ＴＥＬ　082-513-5023
発　行　広島県教育委員会
発行日　令和６年３月 31 日
印　刷　鯉城印刷株式会社